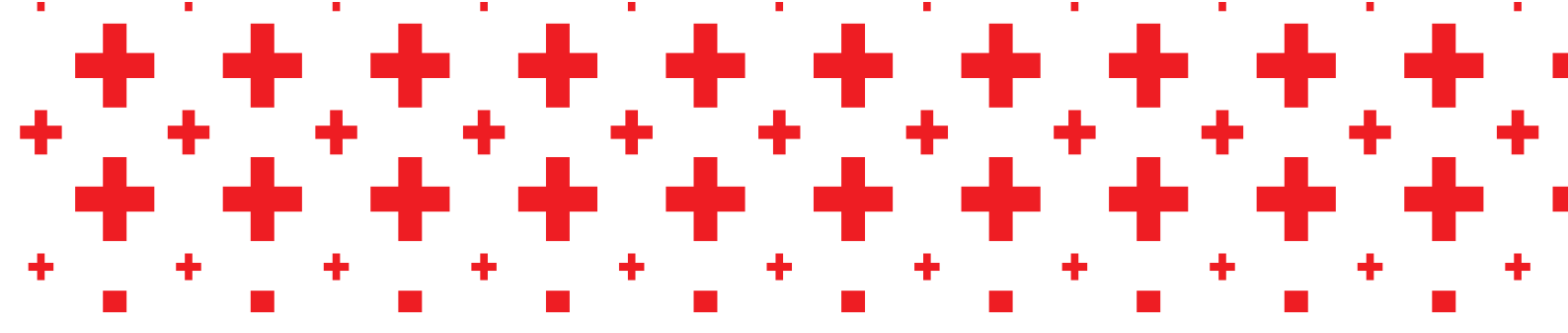




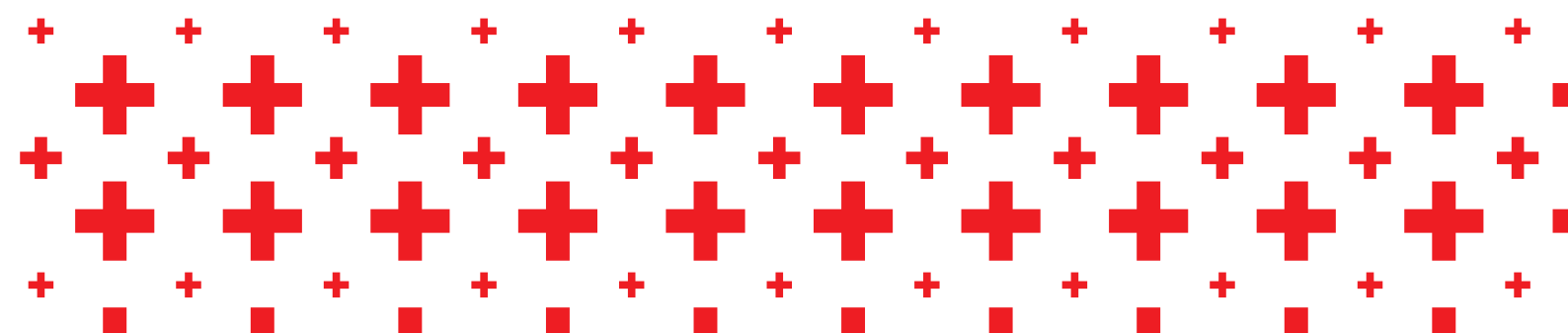
年 報

平成27年度版



日本赤十字社
JAPANESE RED CROSS SOCIETY

唐津赤十字病院



平成 27 年度年報の発刊にあたって

平成 27 年度の年報が完成しました。病院の 1 年間の各科、各部署の診療実績、学会活動を明らかにして、当院の評価の一助になればと考えます。

今年を振り返りますと、安全保障関連法案の成立と T P P の大筋合意という大きな転換点となりうるものが起きました。またスポーツ界では、ラグビー W 杯にて日本が強豪南アフリカを破る歴史的快挙があった反面、東京オリンピックの国立競技場の予算の大幅な膨らみと、エンブレム盗作疑惑での白紙撤回問題が生じました。訪日外国人旅行者の急激な増加と「爆買い」が流行語大賞にも選ばれました。

平成 27 年 9 月関東・東北の記録的豪雨により鬼怒川が決壊し甚大な被害が生じました。毎年、何らかの自然災害は発生しています。

日本赤十字社は定期的に訓練を行い、自然災害、大規模事故に対して備えています。

病院の移転新築は、当初の予定よりも少し遅れましたが、平成 28 年 8 月の移転に向け大きな事故もなく順調に工事も進んでいます。移転にあたっては、地域の皆様、地域の医療機関にご迷惑をかけることも予想されますが、できる限り影響が最小限になるよう無事に引っ越し作業を終えるよう努力いたします。

これからも佐賀県北西部の中核医療機関としての期待に沿えるよう、職員一同努力していく所存です。

そのために今後とも、皆様のご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月

唐津赤十字病院

院長 志田原 哲



唐津赤十字病院の理念

「安心な医療」

「あたたかい看護」

「地域への貢献」

基本方針

- ① 患者さまの人権を尊重します。
- ② 質の高い医療と看護を提供します。
- ③ 救急医療やがん医療の充実に努めます。
- ④ 地域医療連携を推進します。
- ⑤ 災害救護に貢献します。
- ⑥ 健全で安定した経営基盤を確立します。

患者さまの権利

1. 良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 治療や検査に関して、理解できるまで説明を受け、ご自身で決定する権利があります。
3. 医療機関を選択し変更する権利、別の医師の意見を聞く権利があります。
4. ご自身の医療情報を知る権利があります。
5. プライバシーが守られる権利があります。
6. 個人の尊厳が尊重される権利があります。

医療バランスト・スコアカード導入について

当院では、平成8年度より5次にわたって経営改善計画等を策定し、経営基盤の強化と医療の充実の両立を目指してきました。

今後の病院経営は、社会保障と税一体改革が目指す2025年の医療のあるべき姿としての将来像を踏まえつつ、且つ佐賀県保健医療計画における当院が担うべき役割を認識し、ポジショニングを明確にする必要があります。

また、平成26年度以降の診療報酬改定では、2025年を見据えた改定が盛り込まれることはもちろんながらマイナス改定も予想され、今後も医療を取り巻く環境は一段と厳しさを増すものと思われます。

一方、当院が担うべき医療を積極的に展開するためには、医師、看護師をはじめとする医療スタッフの強化が大きな課題であり、ここ数年は将来のビジョンに沿ってスタッフ確保に力を傾注してきた結果、職員数は平成20年度424名から平成26年度では550名と約100名以上の増加となりました。

しかし、国家資格者による多職種共働という病院の特殊性に加え、組織の拡大から職員間の意思疎通が希薄化することが懸念されることも事実です。

このように医療を取り巻く環境が激しく変化する現在では、従来型の3年若しくは5年に亘る経営改善計画を策定し職員に周知するだけでは、安定した病院経営は展開できないことは明らかであるとともに、地域医療再生計画に基づいた新病院移転新築事業も進行しており将来に備えた経営基盤の強化、安定化は喫緊の課題です。

そこで医療行政の動向に対応しながら、この地域の医療ニーズに応えるには組織一丸となって取組んでいく必要があることから、医療バランスト・スコアカード（以下「BSC」という）を経営手法として平成26年度より本格導入することとしました。

平成 27 年度病院 B S C

○戦略マップ

○スコアカード

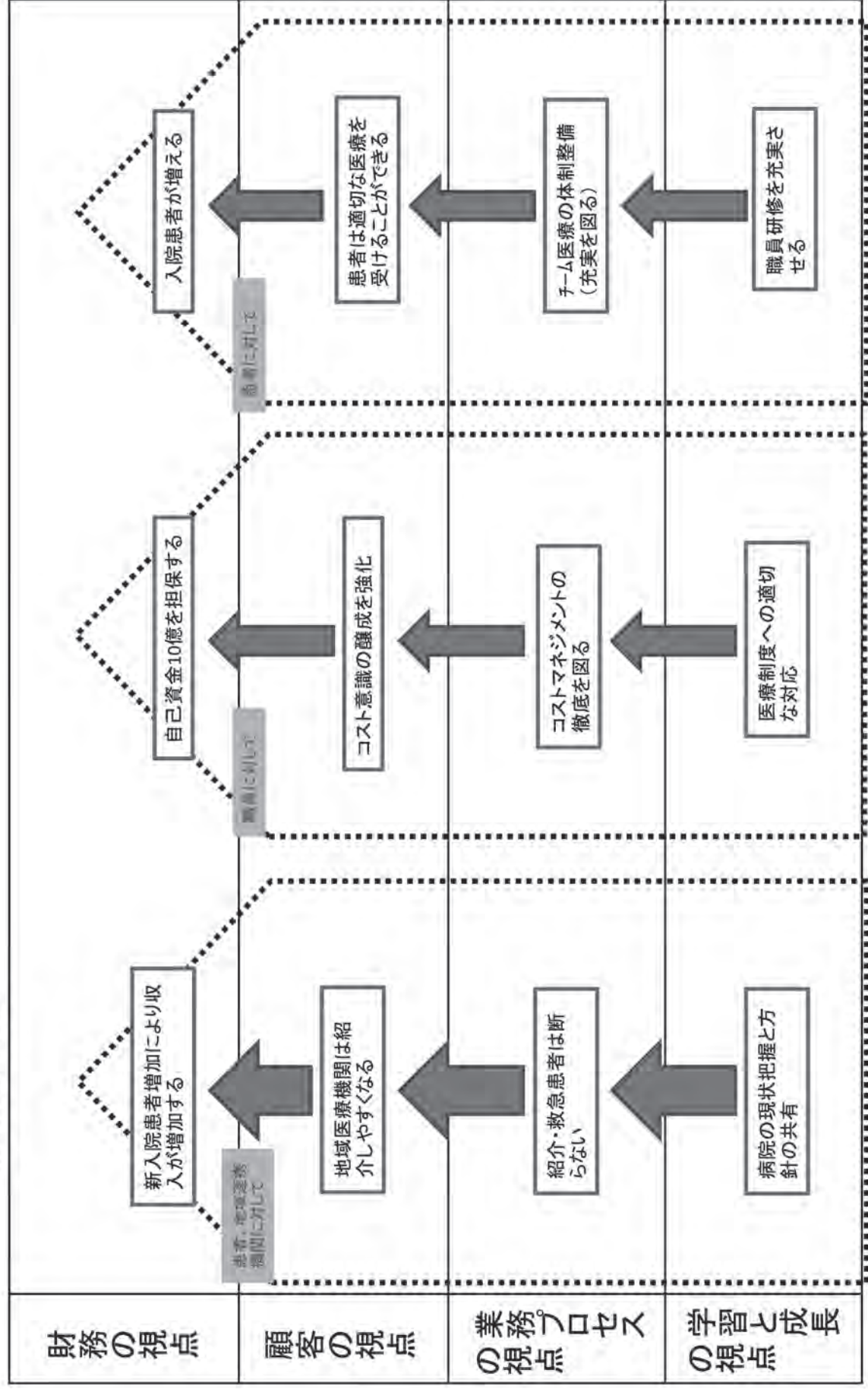
ミッション:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」

ビジョン:原則紹介型病院を目指し、連携の強化と医療の質を向上させ、新病院開院までに自己資金を確保する

地域連携を強化して紹介患者を確保する

経営の健全化を図る

医療の質を向上させる



〔平成27年度 病院BSC〕

唐津赤十字病院の理念:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン:原則紹介型病院を目指し、連携の強化と医療の質を向上させ、新病院開院までに自己資金を確保する

《地域連携を強化して紹介患者を確保する》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ①戦略目標の達成のために、もたらさなければならない成果 ②戦略目標が達成されるための成果	成果尺度 ③戦略目標が達成されるための成果	現状値	目標値	行動計画(アクションプラン) ④戦略目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	新入院患者増加により収入が増加する	新入院患者増加により収入が増加する	・新入院患者数の増加	・新入院患者数	537人/月	550人/月		
顧客の視点	地域医療機関は紹介しやすいくなる	地域医療機関は紹介しやすいくなる	・紹介元施設の満足度が上がる ・タイムリーな情報提供	・紹介患者総数 ・HPへの訪問回数(件/月)	・721人/月 ・6,281件/月	750人/月 7,000件/月	・紹介元の意向を尊重し、連携を損なわないよう入院させる ・返書を確認に行う ・広報費用を充実させる	診療部 診療部・地域医療連携室 広報推進室
業務プロセスの視点	紹介・救急患者は断らない	紹介・救急患者は断らない	・ベッドコントロールを強化する	・紹介患者を断った症例数 ・救急車の不応需率	・5件/月 ・6.32%(H25年度)	2件/月 3%	・断った症例の報告内容を分析する ・紹介患者の割振り権限を地連室へ移譲する ・一般のウオークイン外来を制限する ・再来患者を抑制する ・予約制度を改善する ・救急車の不応需内容の分析する	地域医療連携室 地域医療連携室 医事課 経営企画情報課・医事課 救急管理センター
学習と成長の視点	病院の現状把握と方針の共有	病院の現状把握と方針の共有	・各部署での業務ミーティングを強化する ・院長ヒアリングの実施	・ミーティング回数 ・ヒヤリング回数	2回/年	1回/月 2回/年	・各部署で定期的にミーティングを実施する(管理会議の情報を全職員に共通する) ・新入職員へのオリエンテーションを充実させる	全部署 教育研修推進センター

〔平成27年度 病院BSC〕

唐津赤十字病院長の理念:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン:原則紹介型病院を目指し、連携の強化と医療の質を向上させ、新病院開院までに自己資金を確保する

《経営の健全化を図る》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ①病院目標の達成のために、もたらさなければならない成果 ②病院目標の達成と密接に関連する成果	成果尺度 ③病院目標の達成と密接に関連する成果	現状値	目標値	行動計画(アクションプラン) ④病院目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	自己資金10億を担保する	自己資金10億を担保する	・経営基盤の強化	・年間医業利益率	2.88%	医業利益率5%		
顧客の視点	コスト意識の醸成を強化	コスト意識の醸成を強化	・診療行為の適正な情報伝達 ・各部門におけるコスト削減	・請求漏れ件数 ・SPD使用金額/医業収益	不明 8.56%	現状把握 7.5%	・入院前に外来で検査を済ませる ・請求漏れのチェックする(1回/年) ・原価計算の実施 ・各部門の在庫管理の見直し(各部門の適正在庫数) ・SPDデータのフィードバックする ・各部門のコスト削減	診療部 医事課 経営企画情報課 関係部署・会計課 会計課
業務プロセスの視点	コストマネジメントの徹底を図る	コストマネジメントの徹底を図る	・変動費の圧縮 ・業務の効率化をはかる	・材料費率(材料費/医業収益) ・職員提案件数	27.14% 0件	25% 各部署最低1件	・クリニカルパスの見直し ・購入窓口を年度課に統一 ・交渉能力アップ ・職員提案制度の構築	バス車庫・経営企画情報課 会計課 総務課
学習と成長の視点	医療制度への適切な対応	医療制度への適切な対応	・データ分析力の向上	・管理会議におけるDPCデータの提供回数	5回/年	6回/年	・事務職員の外部長期研修の導入 ・タシシュボードの有効活用	事務部 事務部

〔平成27年度 病院BSC〕

唐津赤十字病院の理念:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン:原則紹介型病院を目指し、連携の強化と医療の質を向上させ、新病院開院までに自己資金を確保する

《医療の質を向上させる》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ①戦略目標の達成のために、もたらさなければならない成果 ②戦略目標とつながる成果	成果尺度 ①戦略目標とつながる成果 ②戦略目標とつながる成果	現状値	目標値	行動計画(アクションプラン) ①戦略目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	入院患者が増える	入院患者が増える	・病床利用の適正化	・病床利用率	85 %	85 %		バス委員会
		患者は適切な医療を受けることができる	・早期の退院を図る	・平均在院日数	14.6日	14日		
顧客の視点	患者は適切な医療を受けることができる	患者は適切な医療を受けることができる		・SSI(手術部位感染)入力率	不明	100%	・バスの見直し ・管理会議で報告する(1回/月)	感染対策委員会
		チーム医療の体制整備(充実を図る)	・部門間の連携強化	・CIの評価導入項目数	3項目	6項目		
業務プロセスの視点	チーム医療の体制整備(充実を図る)	チーム医療の体制整備(充実を図る)		・チーム医療の加算件数	20,301件 (平成25年度)	22,000件	・口腔ケアチーム等を立ち上げる ・算定可能な内容を把握する	副院長 医事課 経営企画情報課
		職員研修を充実させる	・専門職の育成	・必要な専門職の数	医師 0 看護師 7 薬剤師 0	医師 2 看護師 9 薬剤師 1 放射線技師 1 臨床心理士 1 事務部内 1		
学習と成長の視点	職員研修を充実させる	職員研修を充実させる	・研修のプログラム化	・各部署での研修回数	現状維持	現状維持	・資格取得者を公表する ・後期研修医を確保する ・事務方のスペシャリストの育成、確保を行う	総務課 名刺管理・職員研修委員会 診療部 総務課 各部署

唐津赤十字病院年報 平成 2 7 年度版

I 病院の概況

1. 病院の変遷	1
2. 病院の紹介	6
3. 病床数	10
4. 病院の組織表	11
5. 職員の状況	12
6. 土地・建物の概要	13
7. 施設案内図	14
8. 主要医療機器	15
9. 平成 2 7 年度医療施設特別会計歳入歳出決算書	17
10. 平成 2 8 年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書	18
11. 医療事業会計決算の推移（過去 4 年）	19
12. 平成 2 7 年度院内各種委員会等組織表	20

II 統計

1. 患者統計	
(1) 入院	21
(2) 外来	23
(3) 救急	24
(4) 診療科別	25
(5) 平成 2 7 年度月別	27
2. 稼働統計	28
3. 手術統計	31
4. 業務統計	32

III 各部門の概況

1. 診療部門	
・糖尿病内科	34
・腎臓内科	36
・消化器内科	38
・呼吸器内科	41
・血液内科	44
・肝臓内科	48
・循環器内科	51
・小児科	53
・外科	55

・整形外科	62
・脳神経外科	66
・皮膚科	68
・泌尿器科	69
・産婦人科	71
・眼科	73
・放射線科	75
・麻酔科	77
・救急科	78
・形成外科	81
2. 薬剤部門	
・薬剤部	82
3. 看護部	86
4. 医療技術部門	
・栄養課	94
・臨床工学技術課	96
・検査技術課	99
・放射線技術課	102
・リハビリテーション技術課	104
5. 医療安全推進センター	106
6. 教育研修推進センター	114
7. 救命救急管理センター	117
8. がん医療推進センター	118
9. 地域医療連携室	125
10. 事務部	
・総務課	129
・会計課	131
・医事課	133
・経営企画・情報課	135
・病院建設推進室	152
・広報推進室	154
11. 医療社会事業課	155

I 病院の概況



1. 唐津赤十字病院の変遷

S32	10 月	唐津赤十字病院開設 内科、外科、小児科、理学診療科 4 科 〈一般 46 床 結核 214 床 計 260 床〉
S33	1 月	産婦人科開設
	10 月	耳鼻咽喉科開設、理学診療科を放射線科に変更
	11 月	整形外科開設
	12 月	気管食道科開設
S35	6 月	唐津市伝染病棟 30 床併設 一般 35 床増床 〈一般 121 床 結核 142 床 伝染 30 床 計 293 床〉
	7 月	一般 3 床 結核 2 床増床 〈一般 124 床 結核 144 床 伝染 30 床 計 298 床〉
	10 月	眼科開設〈総合病院承認〉
S39	2 月	ラジウム治療室 2 床増床 〈一般 126 床 結核 144 床 伝染 30 床 計 300 床〉
S42	4 月	東松浦郡伝染病棟 30 床併設 〈一般 126 床 結核 144 床 伝染 60 床 計 330 床〉
S44	3 月	結核 74 床を一般病床へ変更 〈一般 200 床 結核 70 床 伝染 60 床 計 330 床〉
S45	2 月	救急告示病院指定
	12 月	唐津市助産施設 3 床増床 〈一般 203 床 結核 70 床 伝染 60 床 計 333 床〉
S46	8 月	理学診療科開設
S48	4 月	心療内科開設
S54	1 月	病院改築着工
S55	3 月	病院改築第 1 期工事完工
	6 月	皮膚科開設
S56	2 月	病院改築竣工 (S54.1～S56.1)
	4 月	病院群輪番制病院指定
	6 月	泌尿器科開設
S57	4 月	脳神経外科、神経内科開設
	11 月	病床変更 結核 70→30 床、伝染 60→30 床、70 床を一般病床へ変更 〈一般 273 床 結核 30 床 伝染 30 床 計 333 床〉
S58	4 月	歯科開設
	6 月	血液透析開始



S63	4 月	麻酔科開設
	9 月	ICU・CCU、救急処置室等増築工事竣工
H 元	4 月	一般 10 床増床〈一般 283 床 結核 30 床 伝染 30 床 計 343 床〉 医事システム運用開始
H 3	3 月	リハビリテーション等棟竣工
H 4	3 月	2 階西病棟改修竣工（小児病棟）
H 5	3 月	一般 30 床増床〈一般 313 床 結核 30 床 伝染 30 床 計 373 床〉
H 5	5 月	「経営改善委員会」設置
	6 月	H I V 感染症に関する中核医療機関指定
H 6	3 月	互助会設立
	4 月	結核病床 30 床休止
H 7	11 月	外来診療録ジャストサーチシステム導入
H 8	4 月	「経営改善実施計画」スタート（県、市町村補助開始）
	6 月	初診料特定療養費届出（紹介患者VI）
	10 月	手術室（中央材料室）改修工事、血液透析室移転工事竣工
	12 月	I C U 新設工事、外科・脳外科外来移転工事竣工、中央処置室運用開始
H 9	1 月	I C U 届出（第 3 号）
	2 月	2 階東病棟改修工事竣工
	3 月	新看護届出（第 72 号）、血管造影室（一般、心臓カテーテル）竣工
	4 月	心臓カテーテル検査運用開始
	7 月	5 階病棟改修工事竣工
	9 月	院外処方箋発行開始
	11 月	地域災害医療センター（地域災害拠点病院）指定
	11 月	オーダーリングシステム（処方）、医事、薬剤システム運用開始
H10	1 月	結核病床 30 床廃止 〈一般 313 床 伝染 30 床 計 343 床〉
	4 月	「臨床研修病院」指定
	4 月	呼吸器科、消化器科、循環器科開設 気管食道科廃止
	4 月	再来予約オーダー運用開始
	6 月	駐車場有料化
	9 月	病棟オーダー、検査オーダー 検査部門システム 給食部門システム運用開始
	12 月	検査予約オーダー・S P D システム運用開始
H11	4 月	感染症医療機関指定（伝染 30 床 → 感染症 4 床） 〈一般 313 床 感染 4 床 計 317 床〉
	4 月	心療内科休診
	8 月	「診療録管理室」設置



	10 月	医療事故防止マニュアルの策定(リスクマネジメント)
H12	1 月	「診療情報の提供に関する要領」策定
	4 月	旧病棟(伝染病棟)解体
	5 月	駐車場 40 台分増設
	9 月	MR I 更新、「地域医療連携室」運営開始
	10 月	システム運用による院外処方箋発行開始
	12 月	無菌手術棟増築工事竣工
H13	1 月	初診料特定療養費の変更(750 円→1,050 円)
	3 月	電話交換機更新、院内 P H S 導入
	4 月	「経営自立 3 カ年計画」スタート
	7 月	新看護 2 : 1 体制届出
H14	1 月	外来診療録 1 患者 1 診療録運用開始
	10 月	ホームページ開設
	11 月	ラジウム治療廃止
H15	2 月	新病棟増築工事竣工、受水槽移設工事完成
	4 月	一般病床 20 床増床〈一般 333 床 感染症 4 床 計 337 床〉
	4 月	南病棟運用開始、病棟再編成
	4 月	2 階西病棟休床
	9 月	C R システム稼動
H16	3 月	新医事システム稼動、急性期入院加算届出辞退
	4 月	「第 3 次経営改善計画」スタート
	10 月	共同利用型病床届出
H17	4 月	初診料特定療養費の変更(1,050 円→1,575 円)
	8 月	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術届出
H18	2 月	リストバンド運用開始
	4 月	一般病棟入院基本料 10 対 1
	7 月	テレビ掲示システム導入
	8 月	イントラネット(グループウェア)導入
	9 月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価受審
	11 月	デジタル X 線テレビシステム更新
	12 月	特定集中治療室(ICU)管理料施設基準辞退
H19	1 月	7 対 1 入院基本料届出、地域がん診療連携拠点病院指定
	2 月	「看護管理センター」設置
	2 月	N S T 稼動施設認定
	3 月	64 列マルチスライス C T 導入
	4 月	「第 4 次経営改善計画」スタート



	4 月	テレパソロジーによる病理組織迅速顕微鏡検査開始
	7 月	地域医療支援病院指定
	8 月	病院機能評価 (Ver. 5.0) 認定
	10 月	開院 50 周年
	12 月	新医療情報システム (オーダーリング) 稼働
H20	1 月	AED 設置 (7 台: 各病棟・外来)
	4 月	産婦人科医 1 人体制へ
	7 月	救急科開設
	10 月	病院敷地内全面禁煙
	12 月	内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎間板摘出 (切除術) 開始
H21	3 月	佐賀県災害派遣医療チーム (佐賀県 DMAT) 指定病院へ指定 DPC 算定開始 地域救命救急センター設置 (認定)
	7 月	「ほほえみの会 (がん患者会)」発足
H22	3 月	循環器用血管撮影装置更新
	4 月	新医事システム (HOPE) 稼働 光サーチシステム機器の更新 産婦人科医 2 人体制へ
	9 月	佐賀県がん診療連携協議会スタート
	10 月	市民公開講座「がんと上手に付き合う方法」
H23	1 月	ホームページ全面リニューアル
	4 月	救護活動市民報告会開催 (東日本大震災における唐津赤十字病院の救護班の活動報告会) 産婦人科医 3 人体制へ 小児科 5 人体制へ 病理診断科開設 「病院建設推進室」設置 「フットケア外来」開設
	7 月	フィルムレス用モニター一部設置・稼働
	9 月	第 34 回佐賀救急医学会
	10 月	形成外科開設 フィルムレス用モニター設置完了・全稼働
	11 月	地域連携システム稼働 市民公開講座「がんと上手に付き合おう」
H24	1 月	「ハートケア外来」開設
	2 月	フィルムレス全運用開始



	3 月	唐津赤十字病院N S T公開講座「地域一体型の栄養サポートをめざして」 血管造影装置更新
	4 月	「臨床工学技術課」設置
	9 月	新病院設計業者決定プロポーザル 地域医療連携特別講演会
	11 月	J I C A インドネシアプロジェクト研修受け入れ
	12 月	市民公開講座「もっと知ろう！がんの治療」 新病院建設基本設計開始
H25	2 月	日本医療マネジメント学会
	4 月	「唐津赤十字病院経営計画」スタート
	6 月	医療バランスト・スコアカード（B S C）導入開始
	11 月	市民公開講座「もっと知ろう乳がんのこと」
H26	3 月	生理検査部門システム導入 リハビリ管理システム導入
	6 月	新病院移転新築工事起工式
	11 月	市民公開講座「感染がかかわる『がん』を知ろう！」
H27	11 月	市民公開講座「もし、その時が近づいたなら・・・」



2. 病院の紹介

◇名 称	唐津赤十字病院				
◇所 在 地	佐賀県唐津市二タ子一丁目5番1号				
◇開設年月日	昭和32年10月15日				
◇診 療 科 目	内科・神経内科・心療内科・呼吸器内科・血液内科・糖尿病内科・病理診断科・腎臓内科 消化器内科・循環器内科・小児科・外科・消化器外科・乳腺外科・呼吸器外科・眼科 整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科 放射線科・麻酔科・救急科・歯科・歯科口腔外科・精神科・形成外科30科				
◇医療機関指定	臨床研修病院（基幹型・九大協力型・佐大協力型） 地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 地域救命救急センター 佐賀県緊急医療施設（管理受諾） 救急告示病院 地域災害拠点病院（地域災害医療センター） H I V感染症に関する中核医療機関 第二種感染症指定医療機関 二次被ばく医療機関				
◇許可病床数	337床	{	一般病床 333床（うち）地域救命救急センター15床 （うち）無菌治療室（緊急被ばく医療）3床 （うち）共同利用型病床5床 感染症病床 4床		
◇特殊医療施設	無菌手術室（緊急被ばく医療）1室 血液透析室12床 外来化学療法室10床				
◇高額医療機器	64列マルチスライスC T、血管造影装置（一般、心臓カテーテル用） R I（シンチレーションカメラ）、ライナック（高エネルギー放射線治療装置） MR I（Gyrosan Intera 1.5T）、体外衝撃波腎・尿管結石破碎装置				
◇敷地面積	22,464.48㎡（市有地無償貸与）				
◇建築延面積	21,004.44㎡ 本館（鉄筋コンクリート造6階建）12,593.40㎡ リハビリ等棟（鉄筋コンクリート造5階建）2,762.11㎡ 南病棟（鉄筋コンクリート造3階建）3,814.55㎡ 医師宿舎等1,834.38㎡				
◇駐 車 場	194台				



◇施設基準	一般病棟入院基本料(7 対 1 入院基本料) 総合入院体制加算 2 臨床研修病院入院診療加算 救急医療管理加算 超急性期脳卒中加算 妊産婦緊急搬送入院加算 診療録管理体制加算 1 医師事務作業補助体制加算 2 (25 対 1) 急性期看護補助体制加算 (50 対 1) 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 無菌治療室加算 2 がん診療連携拠点病院加算 栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算 I 感染防止対策加算 I (感染防止地域連携加算) 患者サポート体制充実加算 ハイリスク妊娠管理加算 退院調整加算 救急搬送患者地域連携紹介加算 救急搬送患者地域連携受入加算 データ提出加算 2 イ 救命救急入院料 3 注 4、注 7 小児入院医療管理料 4 入院食事療養 (I)、入院生活療養 (I) 糖尿病合併症管理料 がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導管理料 1、がん患者指導管理料 2 糖尿病透析予防指導管理料 外来放射線照射診療料 ニコチン依存症管理料 開放型病院共同指導料 地域連携診療計画管理料、地域連携診療計画退院時指導料 (I) 及び (II) がん治療連携計画策定料 がん患者治療連携管理料 肝炎インターフェロン治療計画料 薬剤管理指導料
-------	---



医療機器安全管理料 1
持続血糖測定器加算
造血器腫瘍遺伝子検査
H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出（簡易ジェノタイプ）
検体検査管理加算（Ⅳ）
埋込型心電図検査
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
皮下連続式グルコース測定
コンタクトレンズ検査料Ⅰ
小児食物アレルギー負荷検査
画像診断管理加算 2
遠隔画像診断
C T 撮影及びMR I 撮影
冠動脈C T 撮影加算
外傷全身C T 加算
大腸C T 撮影加算
心臓MR I 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料
乳がんセンチネルリンパ節加算 2
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈ステント留置術
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術
大動脈バルーンパンピング法（ⅠA B P 法）
ダメージコントロール手術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6（歯科点数表第 2 章第 9 部手術の通則 4 を含む。）に掲げる手術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 16 に掲げる手術



	輸血管理料Ⅱ 輸血適正使用加算 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 麻酔管理料（Ⅰ） 高エネルギー放射線治療 病理診断管理加算Ⅰ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅱ） 腹腔鏡下肝切除術 酸素の購入単価に関する届出 特別の療養環境の提供（特別室）の届出 180日越特定療養費
◇学会認定施設等	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本乳癌学会認定関連施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本整形外科学会研修施設 日本泌尿器学会専門医教育施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 日本臨床細胞学会認定施設 日本病理学会研修登録施設 日本小児科学会小児科専門医研修施設 呼吸器外科専門医制度認定修練施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本透析医学会認定施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設



3. 病床数

(1) 許可病床数

		病床数
種 別	一 般	3 3 3 床
	感 染 症	4 床
合 計		3 3 7 床

(2) 病棟別病床内訳

病棟 / 区分	病 床 数		診療科
	許 可 病 床 数	実 働 病 床 数	
地域救命救急センター	1 5 床	1 5 床	重 症
2 階 東	9 床	9 床	重 症
2 階 西	2 6 床	休 床	
3 階 東	3 9 床	3 3 床	産 婦 人 科 小 児 科
3 階 西	3 8 床	3 8 床	内 科 系 脳神経外科 放 射 線 科 皮 膚 科
4 階 東	3 8 床	3 6 床	内 科 系 外 科 整 形 外 科 泌 尿 器 科 眼 科
4 階 西	4 0 床	3 8 床	整 形 外 科
5 階	4 8 床	4 8 床	外 科
南 2 階	4 2 床	4 2 床	循環器内科
南 3 階	4 2 床	4 2 床	内 科
合 計	3 3 7 床	3 0 1 床	

※内科系（内科・糖尿病内科・腎内科・呼吸器科・消化器科・血液内科）

※感染症病床 4 床を含む



5. 職員の状況

平成27年4月1日現在

		全職員	正職員	常 嘱	臨時	非常嘱	パート
医師		68	55	13			
	医師	55	55				
	レジデント	8		8			
	研修医	2		2			
	嘱託医師						
	県派遣	3		3			
看護師		304	278	15			11
	助産師	13	13				
	看護師	290	265	14			11
	准看護師	1		1			
コメディカル		68	67	1			
	薬剤師	13	13				
	検査技師	18	17	1			
	放射線科技師	12	12				
	臨床工学技士	4	4				
	栄養士	4	4				
	理学療法士	8	8				
	視能訓練士	2	2				
	歯科衛生士	2	2				
	マッサージ師	1	1				
	言語聴覚士	1	1				
	作業療法士	3	3				
事務		62	32	27	2		1
	県派遣						
	事務	49	30	16	2		1
	メディカルクラーク	13	2	11			
福祉職		29	6	23			
	社会福祉士	4	4				
	介護福祉士	2	2				
	ケアワーカー	23		23			
その他		16	7	8	1		
	看護助手	4	3	1			
	クラーク	3		3			
	薬剤助手	3		3			
	放射線科助手	2		1	1		
	調理師	4	4				
	技術員						
合 計		547	445	87	3		12



6. 土地・建物の概要

(1) 土地

総延面積 **22,464.48㎡**

(2) 建物

名 称	構 造	階	建築面積	用 途	建築年月日
本 館	鉄 筋 コンクリート造	B1	2,030.03㎡	電気室・機械室・ボイラー室・施設管理係 栄養課・厨房・SPD室・臨床工学技術課・解剖室・霊安室	S56.1.31
		1	4,141.23㎡	薬剤部・医事課・外来診察室・救急外来 放射線科・透析室・検査室・病理検査室 地域連携室・患者さま相談室・警備室 自販機コーナー	
		2	2,445.42㎡	手術室・中央材料室・電話交換室・看護管理センター 医療安全推進室・経営企画情報課・ICU病棟・ 2階東病棟・教育研修推進センター・第2医師控室	
		3	1,520.56㎡	3階東病棟 産婦人科・小児科 3階西病棟 内科・脳外科・放射線科	
		4	1,283.35㎡	4階東病棟 内科・外科・眼科・整形外科・泌尿器科 4階西病棟 整形外科	
		5	1,010.77㎡	5階病棟 外科	
		屋上	162.04㎡	機械室	
本 館 計		12,593.40㎡			
管理棟	鉄骨造	B1	613.26㎡	事務部長室・総務課・会計課・医療社会事業課 病院建設推進室・電算室・理容室・自販機コーナー	H3.3.1
		1	676.87㎡	リハビリテーション・がん化学療法室 がん医療推進センター(がん相談支援室)	
		2	676.87㎡	医局・医師部長室・医師控室	
		3	369.51㎡	院長室・副院長室・秘書室 看護部長室・院長補佐室・教育研修推進センター長室 会議室・応接室	
		4	369.51㎡	講義室・講堂・図書室	
		5	56.09㎡	倉庫	
管 理 棟 計		2,762.11㎡			
南病棟	鉄 筋 コンクリート造	MB1F	1,270.20㎡	霊安室・電気室	H15.2.28
		1	153.32㎡	人間ドック控室・EVホール	
		2	1,261.47㎡	南2階病棟 循環器内科	
		3	1,066.86㎡	南3階病棟 内科	
		屋上	62.70㎡	EVホール	
南 病 棟 計		3,814.55㎡			
看護婦 宿 舎	鉄 筋 コンクリート造	1	240.84㎡	受付・更衣室	S56.1.31
		2	300.78㎡	宿舎	
		3	300.78㎡	控室	
看護師宿舎計		842.4㎡			
医師住宅1	鉄 筋 コンクリート造	1	173.40㎡	控室・実習室・会議室	S56.1.31
		2	173.40㎡	控室・宿舎	
医師住宅1計		346.80㎡			
医師住宅2	鉄 筋 コンクリート造	1	119.06㎡	宿舎	S56.1.31
		2	119.06㎡	宿舎	
		3	119.06㎡	宿舎	
		4	119.06㎡	宿舎	
医師住宅2計		476.24㎡			
職員住宅	鉄 筋 コンクリート造	1	60.64㎡	控室	S56.1.31
機械室	鉄 筋 コンクリート造	1	48.00㎡	除染施設	S56.1.31
車庫・倉庫	鉄骨造	1	60.30㎡	倉庫	S56.1.31
建物合計		21,004.44㎡			

7. 施設案内図

5階		5階病棟(48床) ●外科	
4階	●講堂●講義室 ●図書室	4階東病棟(36床) ●内科●外科 ●泌尿器科 ●眼科●整形外科	4階西病棟(38床) ●整形外科
3階	●管理部門 ●応接室 ●会議室	3階東病棟(33床) ●産婦人科 ●小児科	3階西病棟(38床) ●内科・腎内科 ●脳神経外科 ●皮膚科●放射線科
2階	●医局	地域救命救急センター 2階東病棟(計24床) ●重症・救急病棟 手術室 無菌手術室 中央材料室	看護管理センター 医療安全推進センター 経営企画・情報課 教育研修推進センター 第2医師控室
1階	リハビリテーション ●理学療法室 ●外来化学療法室 ●がん医療推進センター	外来 ●内科●腎内科●循環器内科●小児科 ●外科●整形外科●形成外科●脳神経外科 ●皮膚科●泌尿器科●産婦人科●眼科 ●耳鼻咽喉科●歯科●歯科口腔外科 ●救急科●中央処置室●健診室 ●放射線科(マルチスライスCT・MRI・RI・アン ギオ・ライナック)●薬剤部●中央検査室 ●外来検査室 ●超音波室●内視鏡室 ●脳波室●心電図室●心エコー室 ●血液透析室 ●救急外来処置室●患者さま相談室 ●医療安全相談室●総合案内 事務室 ●医事課 ●地域医療連携室	●エレベーターホール ●人間ドック控室
地階	事務室 ●総務課●会計課 ●医療社会事業課 ●病院建設推進室 理髪店	●SPD室●栄養課●臨床工学技術課 ●当直室●更衣室 ●薬剤倉庫 ●リネン庫 ●中央監視室 ●解剖室 ●霊安室	●霊安室 ●機械室 ●ピロティ

()内は実動病床数

南3階病棟(42床)
●内科
(無菌治療室3床を含む)

南2階病棟(42床)
●循環器内科
(感染症病床4床を含む)

管理棟

本館(外来診療棟・病棟部門)

南病棟



8. 主要医療機器

機器名	数量	設置場所	取得年月日
デジタルX線テレビシステム(Winscope64)	1	放射線科	平成18. 08. 28
64列マルチスライスCT導入	1		平成19. 03. 27
ライナック(PRIMUS Mid-Energy M2-6745)	1		平成20. 03. 20
循環器用血管撮影装置(INFX-8000V)	1		平成22. 03. 31
X線撮影装置(東芝)※主要ユニット交換	1		平成22. 12. 28
超電導磁気共鳴診断装置 ※アップグレード	1		平成23. 03. 29
71番撮影室機器	1		平成23. 09. 30
一般X線撮影装置	1		平成23. 09. 30
頭腹部用血管撮影装置	1		平成24. 03. 31
放射線治療計画装置 エレクタ Xio	1		平成26. 11. 28
バーチャルスライドシステム(C9600-50)	1	検査室	平成19. 04. 25
自動血液・尿分析検査システム(シスメックス)	1		平成19. 10. 22
東芝フルデジタル超音波診断装置 Xario	1		平成20. 09. 26
凍結切片作成装置(ティシュー・テック クライオ3)	1		平成21. 08. 21
東芝フルデジタル超音波診断装置 Aplio XG	1		平成21. 04. 13
循環器超音波診断装置(iE33 Live3D)	1		平成23. 10. 31
生理検査システム(H1-MEDIONシステム一式)	1		平成26. 03. 31
血ガス分析装置(ABL825FLEX)	1		平成27. 06. 30
超音波画像診断装置(aplio 400)	1		平成28. 03. 31
眼科(網膜・硝子体/白内障)手術装置・アキュラス800CS	1	手術室	平成17. 09. 30
Force Triad エネルギープラットフォーム	1		平成20. 09. 02
内視鏡下椎間板摘出システム	1		平成20. 09. 17
麻酔器(エスティバ7900)	1		平成21. 09. 02
麻酔器(ファビウスタイロ)	1		平成21. 09. 02
手術室用モニター(BSM-5100 麻酔器対応)	2		平成21. 08. 27
手術用顕微鏡	1		平成23. 09. 30
ハイビジョン外科用鏡視下システム	1		平成23. 11. 30
モバイルCアーム	1		平成26. 12. 20
超音波手術器(ソノペット UST-2001)	1		平成26. 11. 28
超音波画像診断装置(S-Nerve L-07810)	1	麻酔科	平成25. 11. 06
医療用酸化エチレンガス滅菌装置	1	中央材料室	平成17. 03. 31
高圧洗浄機	1		平成22. 06. 21
低温プラズマ滅菌システム(ステラット100S)	1		平成26. 01. 18
電子内視鏡システム(EVIS-240)	1	内視鏡	平成12. 12. 22
電子内視鏡システム(Q-260)	1		平成18. 11. 29
胆道ビデオスコープ CHF-240	1		平成20. 08. 20
上部消化管汎用ビデオスコープ GIF-Q260J	1		平成20. 08. 26
上部消化管汎用ビデオスコープ GIF-XP260N	1		平成20. 08. 26
大腸ビデオスコープ(EVIS LUCERA TYPE Q260J)	1		平成21. 08. 25
超音波内視鏡システム(GF-UM2000)	1		平成24. 09. 30
内視鏡システム(EVIS LUCERA ELITE)	1		平成25. 11. 08
内視鏡画像システム(Solemio-ENDO Belle)	1		平成25. 11. 08
血液透析機器(DCS-100NX)	3	血液透析室	平成24. 10. 29
血液透析機器(DCS-26(9) DBG-02(1))	10		平成25. 02. 18
血液浄化装置 JUN-55X	1		平成20. 09. 24
透析液供給装置	1		平成23. 09. 30
経皮の心肺補助装置 キャビオスEBS	1	救急室	平成23. 09. 30
循環動態モニターシステム	1		平成24. 10. 31
超音波診断装置(Xario200)	1		平成26. 11. 28
ICUモニタリングシステム(日本光電)	1	ICU	平成16. 04. 15
セントラルモニター12人用	1	南2	平成23. 09. 30
分娩監視装置(FM-20N)	1	3東	平成26. 10. 28



機器名	数量	設置場所	取得年月日
超音波診断装置(Aplio XG)	1	外科	平成21. 04. 13
マンモトームシステム	1		平成22. 09. 21
ハイビジョン外科用鏡視下システム	1		平成24. 09. 30
超音波診断装置(SDD-ALPHA7-S)	1		平成25. 10. 31
体外式衝撃波結石破碎装置	1	泌尿器科	平成17. 08. 01
超音波診断装置(Xario XG SSA-680)	1		平成23. 09. 30
サージトロンドュアルEMC	1	皮膚科	平成26. 11. 28
マルチカラーレーザー/ヤグレーザーコンビ	1	眼科	平成26. 11. 28
超音波診断装置(Prosound α7)	1	産婦人科	平成23. 09. 30
超音波診断装置(Xario 200)	1		平成27. 11. 26
超音波画像診断装置(UD-1000BM)	1	眼科	平成19. 08. 23
OTC光干渉断層撮影装置 (HS-100)	1		平成25. 07. 07
散瞳・無散瞳一体型眼底カメラ (VX-20・VK-2)	1		平成26. 03. 31
開頭手術用ドリル(レジェンドシステム)	2	脳外科	平成20. 08. 12
脳神経内視鏡システム(OTV-S7ProH-HD-12E)	1		平成25. 05. 07
脳室ビデオスコープ(VEF-V)	1		平成25. 05. 07
成分採血装置(COM. TEC)	1	内科	平成21. 08. 27
汎用超音波画像診断装置(フィッロスキャン502)	1		平成24. 12. 31
経鼻咽頭食道ビデオスコープセット(VISERA OFFJCE)	1	耳鼻咽喉科	平成21. 07. 03
透視下・内視鏡下脊椎手術システム	1	整形外科	平成22. 09. 28
低侵襲手術システム	1		平成25. 11. 27
脊椎用ハンドピース(ソノペット)	1		平成27. 11. 30



9. 平成27年度医療施設特別会計歳入歳出決算書

I. 収益的収入及び支出

(単位:円)

区 分 項 目	平成27年度 予算額	構成比率 (%)	平成27年度 決算額	予算対比 (%)	備 考	
病院収入	7,623,250,000		7,722,437,785	1.3		
医業収益	7,466,700,000	100.0	7,549,653,760	1.1	病床利用率	86.8%
入院収益	5,570,000,000	74.6	5,592,475,638	0.4	入院稼働日	366
外来収益	1,737,400,000	23.3	1,814,142,717	4.4	外来稼働日	242
その他医業収益	171,400,000	2.3	162,150,721	▲ 5.4		
保険等査定減	▲ 12,100,000	▲ 0.2	▲ 19,115,316	58.0		
医業外収益	152,409,000		168,458,573	10.5		
医療社会事業収益	141,000		501,011	255.3		
特別利益	4,000,000		3,824,441	▲ 4.4		
					医業収益負荷率(%)	
病院費用	7,578,968,000		7,504,452,844	▲ 1.0	本年度	前年度
医業費用	7,421,663,000		7,356,373,642	▲ 0.9	97.4	99.4
医業外費用	129,456,000		126,475,277	▲ 2.3		
医療奉仕費用	17,482,000		16,686,232	▲ 4.6		
特別損失	3,000,000		2,666,045	▲ 11.1		
法人税等	2,367,000		2,251,648	▲ 4.9		
予備費	5,000,000			—		
当期利益	44,282,000		217,984,941	392.3		

II. 資本的収入及び支出

区 分 項 目	平成27年度 予算額	構成比率 (%)	平成27年度 決算額	予算対比 (%)	備 考
病院収入	10,866,531,000	100.0	7,154,154,557	▲ 34.2	
固定負債	10,652,371,000	98.0	6,971,929,088	▲ 34.6	
その他資本収入	214,160,000	2.0	182,225,469	▲ 14.9	
病院費用	10,866,531,000	100.0	7,154,154,557	▲ 34.2	
固定資産	10,702,270,000	98.5	6,989,894,246	▲ 34.7	
借入金等償還	164,261,000	1.5	164,260,311	▲ 0.0	

10. 平成28年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書

I. 収益的収入及び支出

(単位:円)

項目 \ 区分	平成28年度 予算額	予算対比 (%)	平成27年度 予算額	構成比率 (%)	備考	
病院収入	9,059,906,000	18.8	7,623,250,000			
医業収益	7,469,851,000	0.0	7,466,700,000	100.0	病床利用率	86.8%
入院収益	5,522,250,000	▲ 0.9	5,570,000,000	74.6	入院稼働日	366
外来収益	1,794,793,000	3.3	1,737,400,000	23.3	外来稼働日	242
その他医業収益	170,347,000	▲ 0.6	171,400,000	2.3		
保険等査定減	▲ 17,539,000	45.0	▲ 12,100,000	▲ 0.2		
医業外収益	1,585,895,000	940.6	152,409,000			
医療社会事業収益	160,000	13.5	141,000			
特別利益	4,000,000	0.0	4,000,000			
					医業収益負荷率(%)	
病院費用	11,051,345,000	45.8	7,578,968,000		本年度	前年度
医業費用	9,075,730,000	22.3	7,421,663,000		121.5	99.4
医業外費用	136,051,000	5.1	129,456,000			
医療奉仕費用	16,720,000	▲ 4.4	17,482,000			
特別損失	1,810,534,000	60251.1	3,000,000			
法人税等	2,310,000	▲ 2.4	2,367,000			
予備費	10,000,000	100.0	5,000,000			
当期利益	▲ 1,991,439,000	▲ 4597.2	44,282,000			

II. 資本的収入及び支出

項目 \ 区分	平成28年度 予算額	予算対比 (%)	平成27年度 予算額	構成比率 (%)	備考
病院収入	440,210,000	▲ 95.9	10,866,531,000	100.0	
固定負債	266,015,000	▲ 97.5	10,652,371,000	98.0	
その他資本収入	174,195,000	▲ 18.7	214,160,000	2.0	
病院費用	440,210,000	▲ 95.9	10,866,531,000	100.0	
固定資産	308,994,000	▲ 97.1	10,702,270,000	98.5	
借入金等償還	131,216,000	▲ 20.1	164,261,000	1.5	



11. 医療事業会計決算の推移（過去4ヵ年）

(単位:円)

項目	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	決算値	前年対比(%)	決算値	前年対比(%)	決算値	前年対比(%)	決算値	前年対比(%)
病院収入	7,100,935,313	2.7	7,318,226,189	3.1	7,610,815,184	4.0	7,722,437,785	1.5
医療収益	6,842,014,322	3.1	7,092,641,978	3.7	7,415,909,218	4.6	7,549,653,760	1.8
入院収益	5,163,900,594	1.0	5,307,190,785	2.8	5,502,874,592	3.7	5,592,475,638	1.6
外来収益	1,525,226,506	5.8	1,637,065,524	7.3	1,747,575,602	6.8	1,814,142,717	3.8
その他医療収益	168,225,806	73.8	165,434,344	▲ 1.7	177,949,130	7.6	162,150,721	▲ 8.9
保険等査定減	▲ 15,338,584	22.3	▲ 17,048,675	11.1	▲ 12,490,106	▲ 26.7	▲ 19,115,316	53.0
医療外収益	244,898,193	▲ 7.8	213,686,680	▲ 12.7	186,692,788	▲ 12.6	168,458,573	▲ 9.8
医療社会事業収益	278,300	▲ 84.7	152,429	▲ 45.2	164,581	8.0	501,011	204.4
特別利益	13,744,498	174.7	11,745,102	▲ 14.5	8,048,597	▲ 31.5	3,824,441	▲ 52.5
病院費用	6,891,628,857	3.6	7,026,317,564	2.0	7,339,140,120	4.5	7,504,452,844	2.3
医療費用	6,710,651,449	3.2	6,879,807,392	2.5	7,192,897,930	4.6	7,356,373,642	2.3
医療外費用	151,677,257	20.1	121,959,739	▲ 19.6	125,233,651	2.7	126,475,277	1.0
医療奉仕費用	18,151,891	▲ 6.4	20,400,758	12.4	16,772,684	▲ 17.8	16,686,232	▲ 0.5
特別損失	5,594,930	56.8	2,205,765	▲ 60.6	2,223,747	0.8	2,666,045	19.9
法人税等	5,553,330	284.9	1,943,910	▲ 65.0	2,012,108	3.5	2,251,648	11.9
予備費								
医療収支	131,362,873		212,834,586		223,011,288		193,280,118	
当期純利益(損失)	209,306,456		291,908,625		271,675,064		217,984,941	

1 2. 唐津赤十字病院委員会等組織表



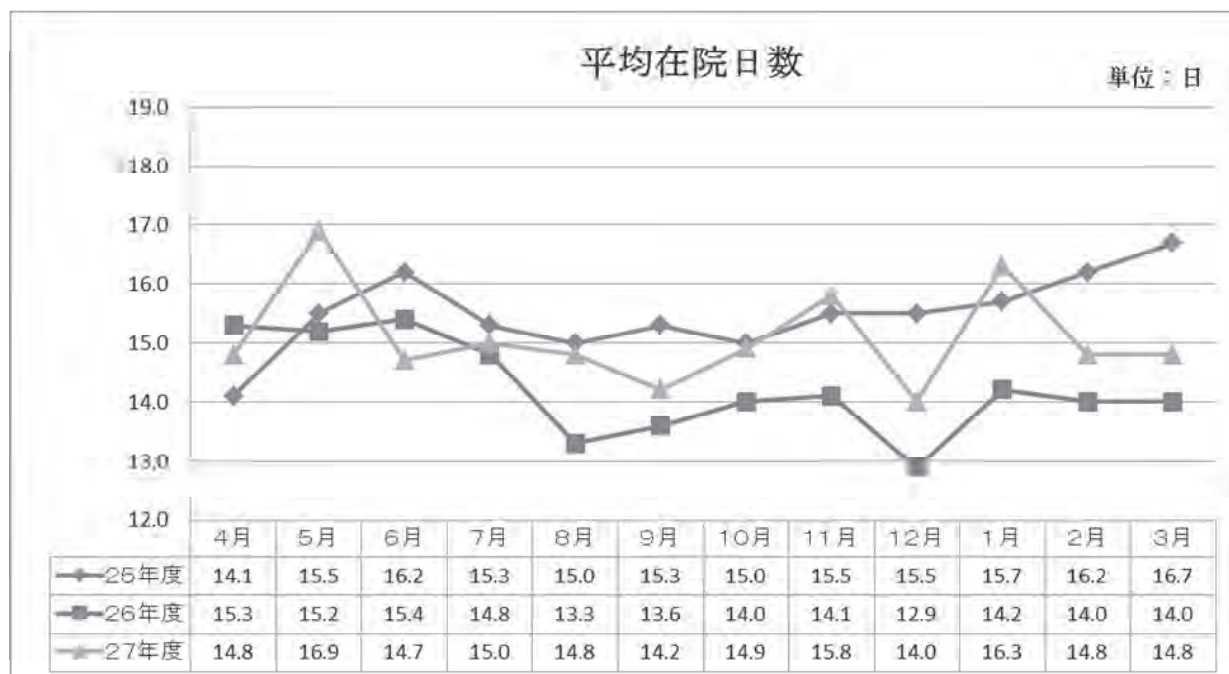
Ⅱ 統計



1. 患者統計

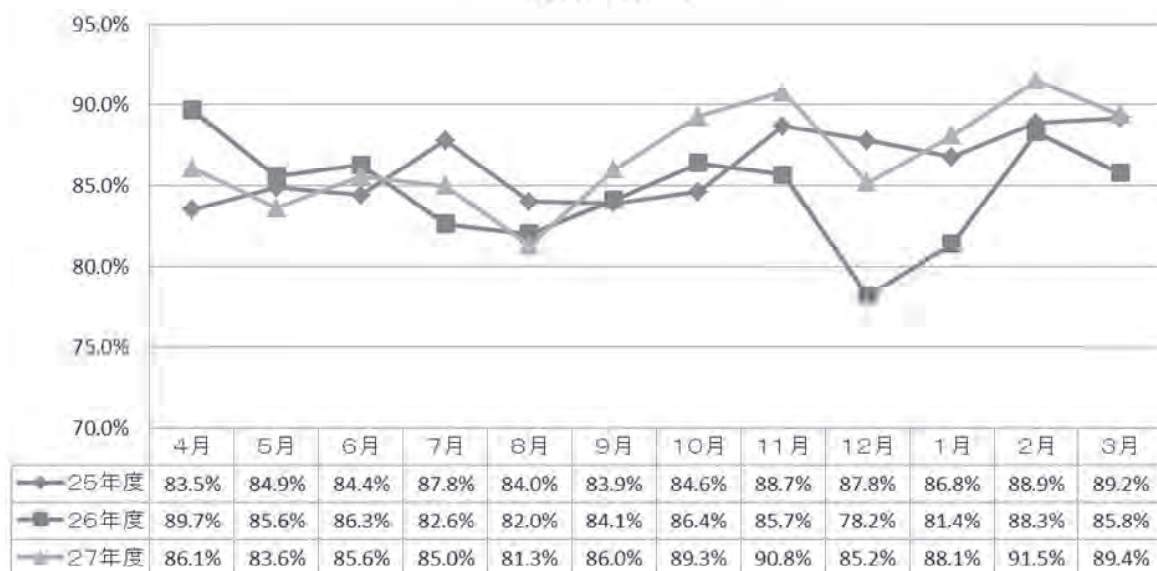
(1) 入院

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
入院	実働病床数(床)	301	301	301
	実日数(日)	365	365	366
	入院患者数(人)	100,793	99,524	101,965
	病床利用率(%)	86.2	84.6	86.8
	平均在院日数(日)	15.5	14.2	15.0
	1日平均入院患者数(人)	276.1	272.7	278.6
	入院診療単価(円)	52,493	55,149	54,680



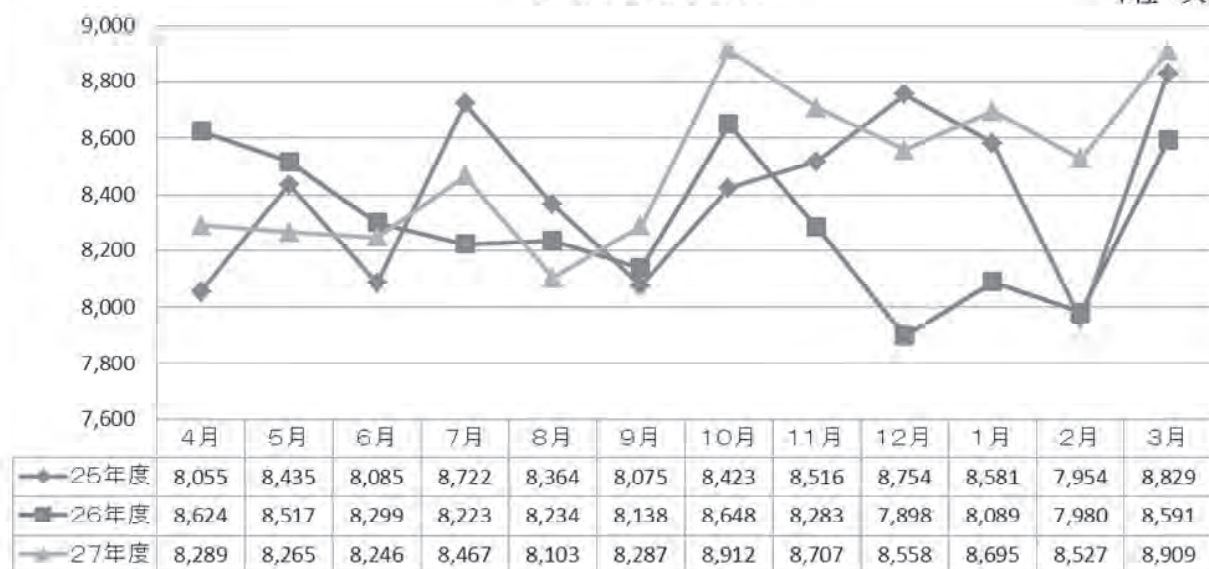


病床利用率



入院患者延数

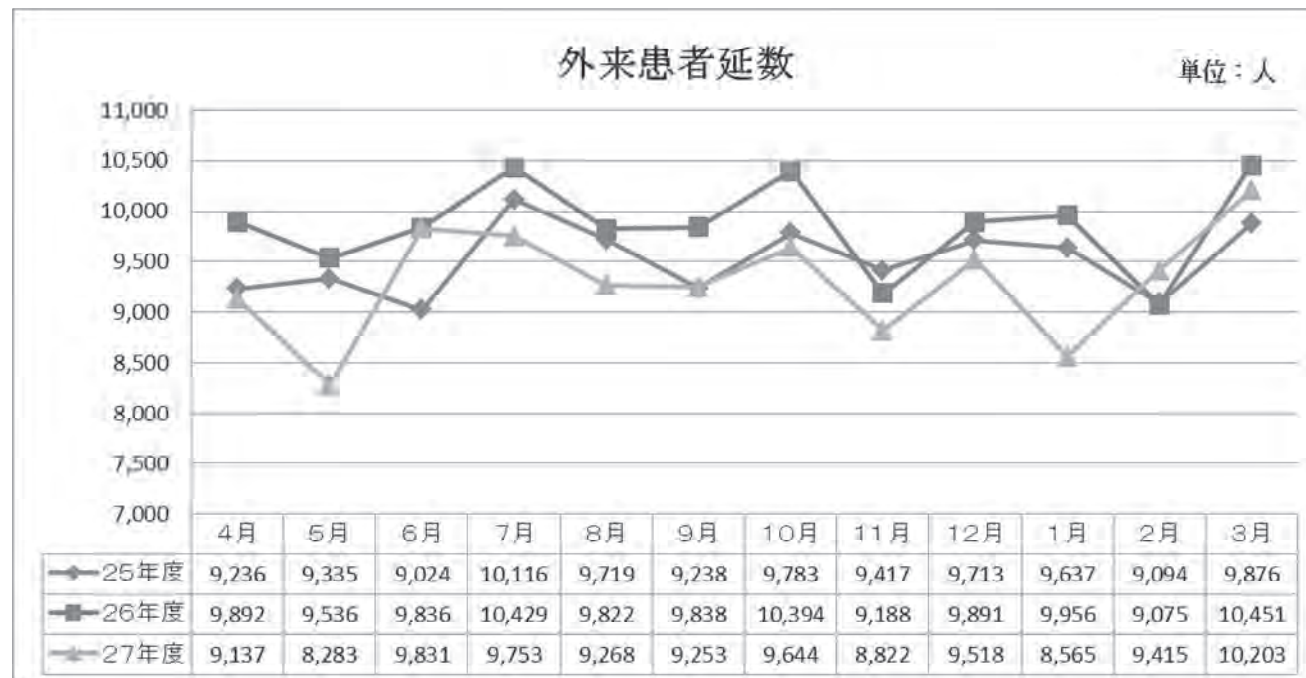
単位：人





(2)外来

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来	実日数(日)	243	243	243
	外来患者延数(人)	114,188	118,308	111,692
	紹介患者数(人)	6,463	8,393	7,708
	紹介率(%)	57.0	84.4	89.8
	1日平均外来患者数(人)	469.9	486.9	461.5
	外来診療単価(円)	14,203	14,672	16,588





(3)救急

			平成25年度	平成26年度	平成27年度
救急患者数	患者数(人)		7, 758	8, 041	7, 983
	診療科別内訳	内 科	2, 822	3, 015	2, 741
		小 児 科	1, 127	1, 172	1, 097
		外 科	833	768	833
		整 形 外 科	780	746	719
		脳神経外科	446	431	504
		産 婦 人 科	164	181	198
		そ の 他	1, 586	1, 728	1, 891
	患者搬送別	救 急 車	1, 868	2, 097	1, 991
		そ の 他	5, 890	5, 944	5, 992



(4)診療科別

外来患者数

(人)

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
内 科	35,461	35,105	37,144	38,432	37,853
小 児 科	11,296	11,132	11,249	12,445	10,823
外 科	12,757	13,651	14,327	14,551	15,172
整 形 外 科	10,624	11,179	10,999	11,424	10,887
脳神経外科	3,794	3,420	3,736	3,582	3,244
皮 膚 科	4,636	4,205	4,562	4,199	4,437
泌 尿 器 科	4,683	5,126	5,311	5,515	5,395
産 婦 人 科	5,544	5,945	6,192	6,693	6,261
眼 科	12,217	12,262	11,290	11,794	12,570
耳鼻咽喉科	1,515	1,526	1,364	1,276	1,220
放 射 線 科	2,938	3,042	3,025	3,286	2,876
麻 酔 科	264	192	168	194	187
救 急 科	424	383	371	402	458
形 成 外 科	66	271	247	326	309
歯 科	4,272	4,359	4,203	4,189	
合 計	110, 491	111, 798	114, 188	118, 308	111, 692



入院患者数

(人)

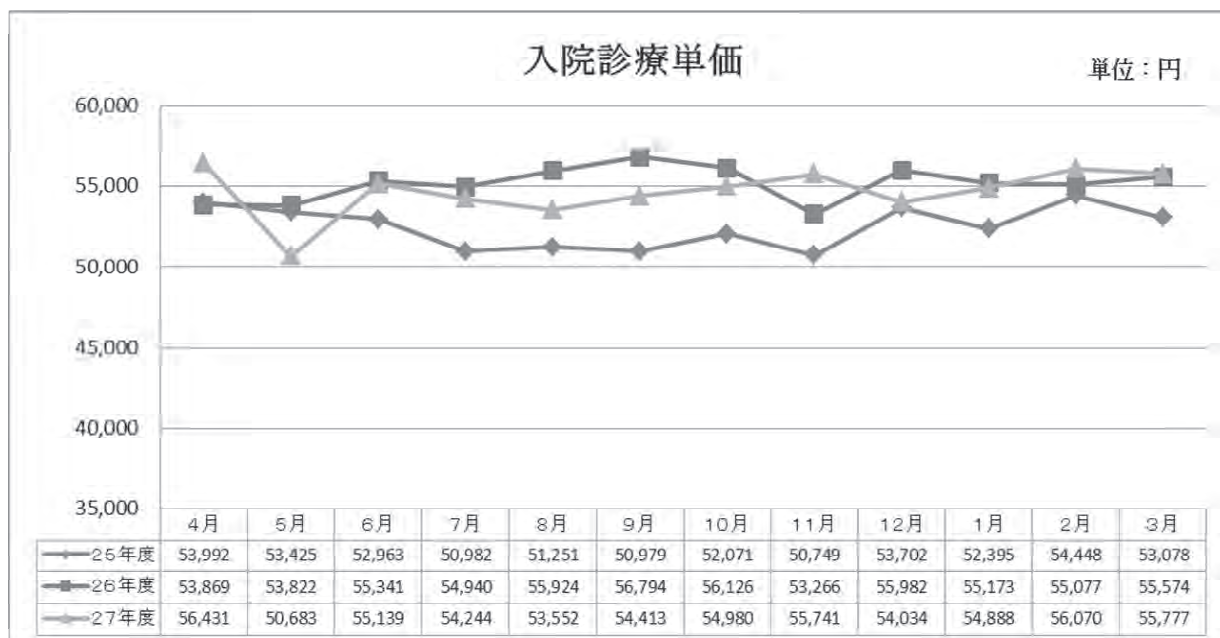
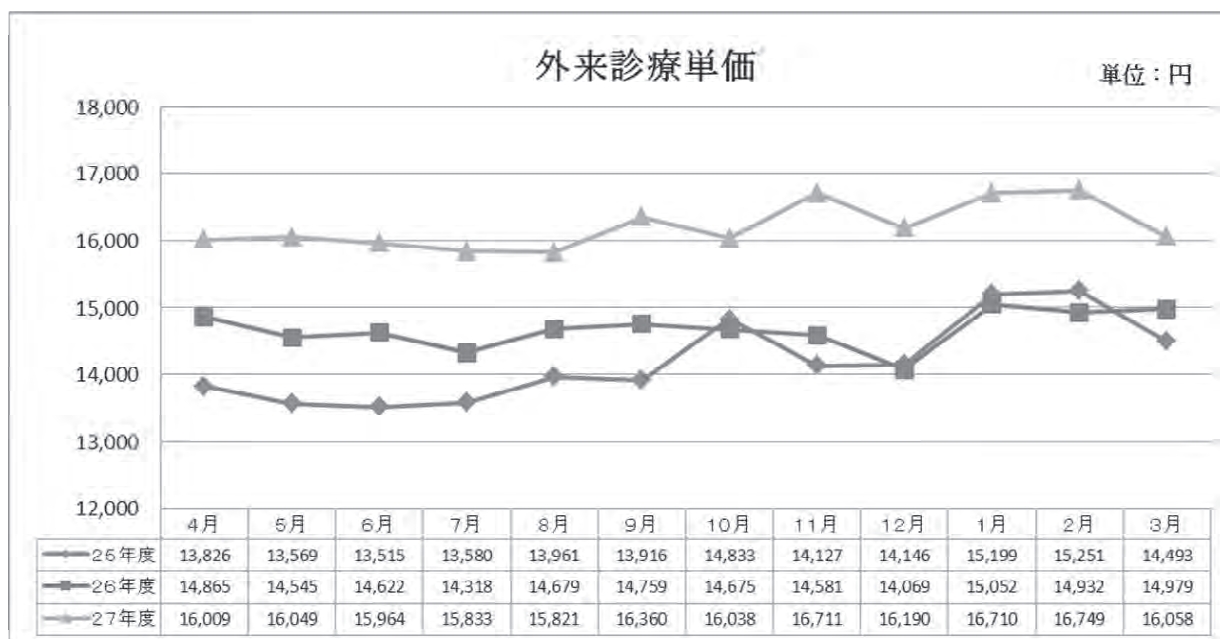
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
内 科	41,008	39,100	42,555	40,324	42,401
小 児 科	3,966	3,583	4,146	4,443	4,030
外 科	16,111	16,611	15,781	15,402	15,520
整 形 外 科	18,189	17,920	16,172	18,124	17,817
脳神経外科	10,133	10,029	12,130	10,656	11,332
皮 膚 科	792	783	1,000	857	1,075
泌 尿 器 科	1,955	2,696	2,531	2,633	2,649
産 婦 人 科	4,381	3,917	3,740	4,025	3,562
眼 科	1,937	2,039	2,068	2,336	2,717
耳鼻咽喉科					
放 射 線 科	292	199	5	4	0
麻 酔 科	1	4	6	5	7
救 急 科	709	976	659	715	855
形 成 外 科					
菌 科					
合 計	99,474	97,857	100,793	99,524	101,965



(5)平成27年度月別

	入院				外来		
	実日数 (日)	患者数 (人)	1日平均 (人)	病床利用 率(%)	実日数 (日)	患者数 (人)	1日平均 (人)
4月	30	8,289	276.3	86.1%	21	9,137	435.1
5月	31	8,265	266.6	83.6%	17	8,283	487.2
6月	30	8,246	274.9	85.6%	22	9,831	446.9
7月	31	8,467	273.1	85.0%	22	9,753	443.3
8月	31	8,103	261.4	81.3%	21	9,268	441.3
9月	30	8,287	276.2	86.0%	19	9,253	487.0
10月	31	8,912	287.5	89.3%	21	9,644	459.2
11月	30	8,707	290.2	90.8%	19	8,822	464.3
12月	31	8,558	276.1	85.2%	19	9,518	500.9
1月	31	8,695	280.5	88.1%	19	8,565	450.8
2月	29	8,527	294.0	91.5%	20	9,415	470.8
3月	31	8,909	287.4	89.4%	22	10,203	463.8
合計	366	101,965	278.6	86.8%	242	111,692	461.5

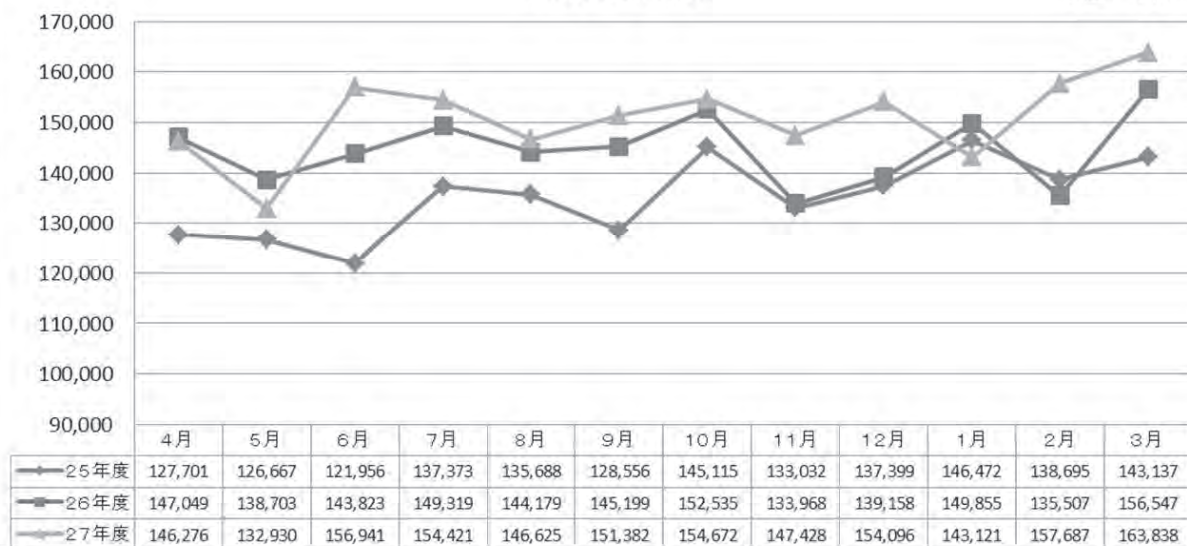
2. 稼働統計





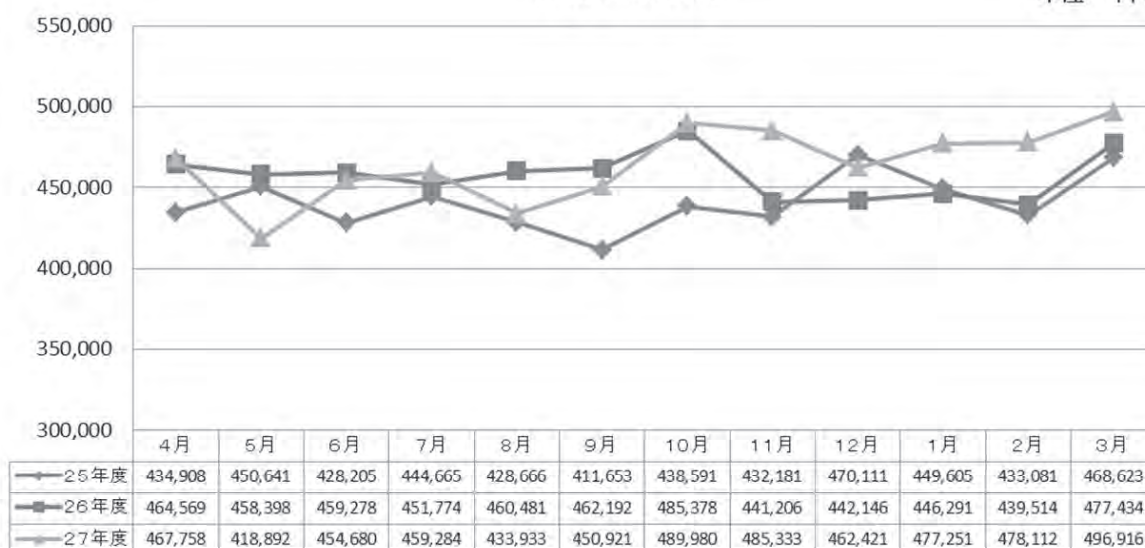
外来稼働額

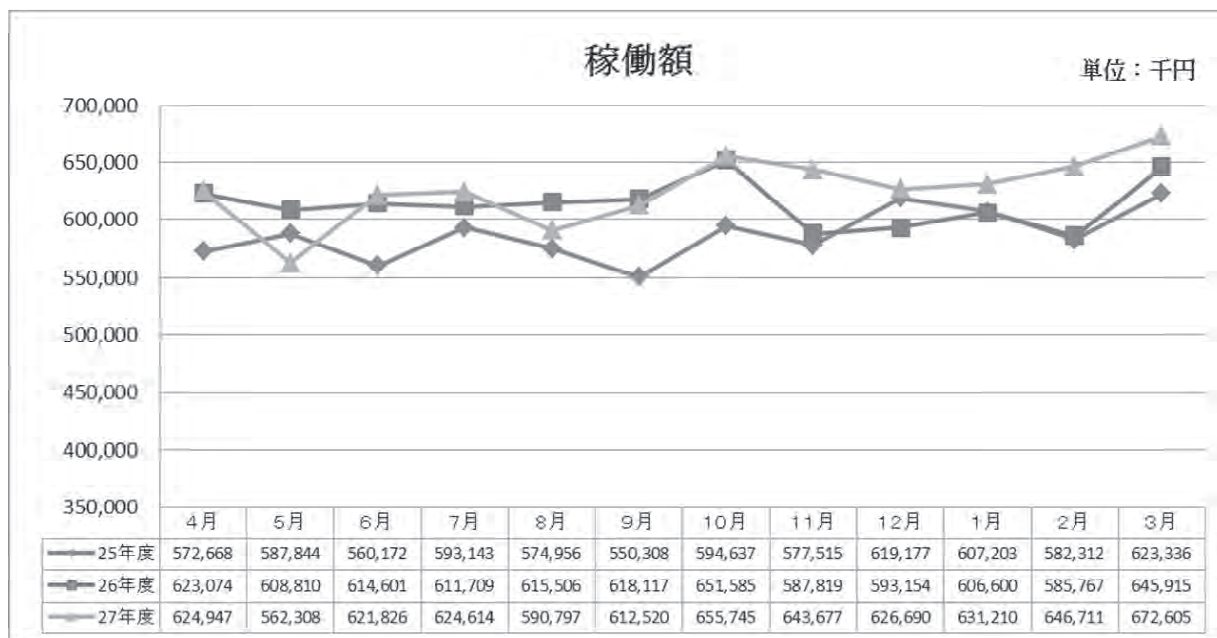
単位：千円



入院稼働額

単位：千円







3. 手術統計

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
内科	396	442	429	575	709
腎内科	11	6	32	49	68
循環器内科	214	219	223	165	213
小児科	21	25	18	17	24
外科	823	940	925	960	964
整形外科	1053	1120	897	994	983
脳神経外科	306	284	356	306	289
皮膚科	134	125	96	107	104
泌尿器科	143	165	143	207	210
産婦人科	252	248	264	309	299
眼科	473	457	536	641	626
耳鼻咽喉科	4	5	13	14	6
放射線科	7	3	0	0	5
麻酔科	25	30	33	41	37
救急科	46	48	40	66	83
形成外科	5	22	18	22	20
歯科	908	732	675	589	
合計	4821	4871	4698	5062	4640



4. 業務統計

(人)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
検査	一般	4,058	4,100	4,536
	生理	193,052	206,063	210,483
	血液	36,667	37,833	40,147
	生化学	52,315	51,176	51,366
	血清(免疫学的)	49,511	51,765	53,403
	細菌(微生物学的)	4,368	4,280	9,829
	病理	10,113	11,124	10,611
	合計	350,084	366,341	380,375
放射線撮影	一般撮影	37,605	40,621	38,817
	消化管透視	1,548	1,623	1,574
	CT検査	9,821	10,852	11,647
	MRI検査	3,844	4,253	4,373
	RI検査	523	552	419
	血管造影	166	157	166
	心臓カテーテル	347	372	320
	放射線治療	10,617	10,441	9,934
	超音波	7,882	8,352	8,225
	合計	72,353	77,223	75,475



				平成25年度	平成26年度	平成27年度
薬剤業務	調剤業務	調剤薬処方箋(枚)	外来	7,045	6,979	7,111
			入院	59,373	61,997	61,128
			合計	66,418	68,976	68,239
		注射箋(枚)	外来	16,178	15,556	15,212
			入院	62,455	61,953	61,013
			合計	78,633	77,509	76,225
		院外処方箋	枚数	58,093	60,734	59,188
			発行率	89.18%	89.69%	89.27%
		TPN の無菌調整		件数	267	303
			本数	267	303	150
	抗癌剤の無菌調整		件数	3,687	3,525	3,624
			本数	6,041	6,013	6,651
	院内製剤の調整		品目数	14	13	13
	その他	薬剤管理指導	病棟数	9	9	9
			件数	4, 075	4, 695	4, 611
		錠剤鑑別件数		19,535	20,588	21,735
		DIニュース回数		87	76	77
給食	常食			86,251	84,090	76,520
	軟菜食			31,621	26,731	24,691
	特別食			131,148	122,786	123,317
	合計			249,020	233,607	224,528

Ⅲ 各部門の概況



糖尿病内科

1. スタッフ（平成 28 年 3 月 31 日現在）

茨木一夫 昭和 52 年卒 副院長

日本内科学会認定医・指導医

日本腎臓学会専門医

日本透析医学会専門医・指導医

日本糖尿病学会

竹之下博正 平成 15 年卒 内科医師

日本内科学会専門医・指導医

日本糖尿病学会専門医

日本内分泌学会

日本循環器学会、日本下肢救済学会、日本慢性疾患重症化予防

2. 臨床実績（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで）

入院患者

1 型糖尿病 9 名

2 型糖尿病 62 名

妊娠糖尿病 1 名

内分泌疾患 3 名

その他 11 名

合計 86 名

3. 学会

日本慢性疾患重症化予防学会 サマーセミナーシンポジウム平成 27 年 8 月 9 日

「当院はこうやって疾病管理テンプレートを立ち上げた」

下肢救済足病学会 九州地方会 平成 27 年 9 月 26 日

「糖尿病患者における足部関節可動域と糖尿病神経障害との関係」

日本慢性疾患重症化予防学会 第二回年次学術集会 平成 28 年 2 月 13 日

「糖尿病腎症 3 期を停める臨床診断」

4. 講演会・研究会

平成 27 年 6 月 18 日 唐松地区薬剤師研修会（唐松地区薬剤師会主催）

平成 28 年 1 月 27 日 小城・多久地区 糖尿病対策協議会

平成 28 年 3 月 13 日 コメディカルの為の外来糖尿病セミナー 保険福祉事務所主催

平成 28 年 3 月 19 日 大分県看護協会 糖尿病重症化予防研修 大分県看護協会主催



その他 34 の唐津東松浦医師会学術講演会や研究会等にて座長及び発表

5. 講義

佐賀県療養師研修会（佐賀大学）

糖尿病看護認定看護師授業（福岡県立大学）

6. 唐津糖尿病臨床カンファレンス（唐津赤十字病院にて開催）

- 1) 平成 27 年 4 月 27 日 症例検討
- 2) 平成 27 年 10 月 26 日 症例検討
- 4) 平成 28 年 2 月 29 日 特別講演

「糖尿病と歯周病の基礎知識」

佐賀市立国民健康保険三瀬診療所 重松正仁先生

7. 講義

佐賀県療養師研修会（佐賀大学）

糖尿病看護認定看護師授業（福岡県立大学）

8. この一年の歩み

糖尿病腎症による透析導入予防のために疾病管理マップを導入し、当院糖尿病患者の **high risk** 群のスクリーニングは完了した。糖尿病腎症進行予防には血糖コントロールはもちろん高血圧管理や禁煙などが重要である。塩分制限は高血圧コントロールのために必須である。また ACE 阻害薬や ARB の腎機能保護作用は塩分摂取が多いと減弱すると報告されている。患者指導用のツールとして「あいうえお塩分表・唐津版」が糖尿病腎症連絡会のメンバーで作成された。唐津地区特有の食材・食品中の塩分含有量も表されており親しみやすく日常で使いやすい表になっている。薬物療法では EMPA-REG OUTCOME 試験で SGLT2 阻害薬の心・腎イベント抑制効果が報告された。驚くべき結果が示されており、今後糖尿病合併症治療のパラダイムシフトとなる可能性も否定できない。当院でも **high risk** 患者に投与を開始している。平成 27 年 11 月より新しく開発中の経口血糖降下薬の GPR119 の第Ⅱ相治験に参加した。

1 型糖尿病におけるインスリンポンプ療法では、SAP（Sensor Augmented Pump）療法を開始した。これは CGM で測定されたセンサグルコース値がリアルタイムでインスリンポンプのモニタ画面に表示されるため、患者自身で血糖変動を随時確認することができ、導入患者のコントロールも安定した結果を得られている。



腎臓内科

1. スタッフ紹介（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

第二内科部長	長嶋昭憲	昭和 62 年卒	日本内科学会専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会透析専門医
第二内科副部長	冬野誠太	平成 13 年卒	日本内科学会認定内科医 日本腎臓学会 日本透析学会

2. 臨床業績（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

(1)入院疾患内訳（のべ人数）

疾患区分	件数
ネフローゼ・腎炎・電解質異常	30
急性腎不全・多臓器不全など	10
末期腎不全(透析導入)	23
シャント造設・シャント PTA	15
透析患者の合併症	34
CKD または CKD 患者合併症	10
その他	19
計	141

(2)血液透析 総回数 2974 回（ICU での緊急透析 23 回を含む）

新規血液透析導入患者	24 名
シャント PTA（入院・外来）	13 件
内シャント造設術	32 件
腹膜透析 患者数	10 名
新規腹膜透析導入患者	3 名

アフエレーシス

CHDF 117 回 エンドトキシン吸着 4 例

(3)腎生検 14 例

組織診断内訳

IgA 腎症 5 例、紫斑病腎炎 1 例、膜性腎症 4 例、壊死性血管炎 1 例、巣状糸球体硬化症 1 例、糖尿病性腎症 1 例、急性尿細管壊死 1 例



(4) 病理解剖

5 例

- 80 才代男性 気管支肺炎 尿毒症（腎硬化）
- 80 才代女性 急性心筋梗塞 末期腎不全（腹膜透析導入後）
- 70 才代男性 急性胆嚢炎 末期腎不全（維持血液透析）
- 60 才代男性 敗血症性ショック 肺炎 NOMI 急性腎不全
- 60 才代男性 多臓器不全 腎後性腎不全

3. 研究業績

【学会発表】

第 309 回日本内科学会九州地方会（2015-05-30）

IFN 治療後に発症した 1 型糖尿病の 3 例

松本 佑慈、黒木 和哉、竹之下 博正、井手 康史、長嶋 昭憲、宮原 正晴、茨木 一夫

第311回日本内科学会九州地方会（2015-11-15）

少量の芍薬甘草湯で発症した重症偽性アルドステロン症の一例

山口 博史、冬野 誠太、長嶋 昭憲、茨木 一夫

【その他】

唐津東松浦医師会学術講演会（2015-04-23）

地域ぐるみのCKDへの取り組み

長嶋昭憲

唐津東松浦医師会学術講演会（2015-12-10）

テルミサルタン/アムロジピンで治療した悪性高血圧症

長嶋昭憲

4. この一年の歩み

腎臓内科部門

開業医に慢性腎臓病（CKD）の概念が浸透し、早期の腎障害や健診での検尿異常の紹介が増え、例年同様、年間 203 例の新患紹介がありました。腎炎を疑う症例には積極的に腎生検を行い、IgA 腎症には積極的に扁桃・ステロイドパルス療法など治療を行っています。

血液浄化部門

日本透析医学会によると、近い将来透析患者数はピークに達し減少傾向へ転じることが予想されていますが、当地区は年々増加し続けています。特に、当院糖尿病内科の熱心な指導にも関わらず比較的若年者の糖尿病性腎症の透析導入が多く、また高齢者の腎硬化症による透析導入患者も増加しています。腎臓以外の合併症のため通院透析が困難な症例も多く、地域の透析施設に多大な協力を頂き感謝しています。



消化器内科

1. スタッフ紹介

部長 野田 隆博	昭和 61 年卒	日本内科学会	総合内科専門医・指導医
		日本消化器病学会	専門医・学会評議員
		日本消化器内視鏡学会	指導医・支部評議員
		日本消化管学会	認定医
		プライマリケア学会	認定医
		がん治療認定医機構	認定医・暫定教育医
		臨床腫瘍学会	
宮原 貢一	平成 16 年卒	日本内科学会	認定医
		日本消化器病学会	専門医
		日本消化器内視鏡学会	専門医
		日本消化管学会	指導医
		日本ヘリコバクター学会	認定医
		がん治療認定医機構	認定医
		日本胆道学会	
		日本膵臓学会	
藤本 洋	平成 24 年卒	日本内科学会	
		日本消化器病学会	
		日本消化器内視鏡学会	
武富 啓展	平成 25 年卒	日本内科学会	
		日本消化器病学会	

前年度より引き続き野田・宮原貢一・藤本が残留。松浦が3月で移動し、4月より武富が加入した。

2. 臨床業績

入院は悪性腫瘍の内視鏡治療・化学療法・緩和治療、消化管出血の内視鏡治療、炎症性腸疾患増悪の内科的治療、イレウスの保存的治療、急性膵炎・急性胆嚢炎・総胆管結石の内科的治療等を中心に診療を行った。

外来は難治性逆流性食道炎、ヘリコバクター除菌、炎症性腸疾患、および消化管出血・



急性腹症・イレウス等の救急診療等を行った。検診精査も多数施行した。
内視鏡検査は約 3700 件施行した。消化管ステント術・超音波内視鏡下穿刺術・胆膵内
視鏡が増加した。
治験にも積極的に取り組んでいる。

3. 研究業績

右表参照



3. 研究業績

【学会発表】

2015. 5. 29-31	第89回日本消化器内視鏡学会総会	ESDを行うことで診断できた肺癌胃転移の1例	宮原 貢一、藤本 洋、後藤 聡子、嬉野 博志、井手 康史、野田 隆博
2015. 6. 19-20	第105回日本消化器病学会九州支部例会	IgG4関連疾患の治療中に膵癌を合併した一例	後藤聡子、武富啓展、藤本洋、宮原貢一、井手康史、野田隆博
2015. 6. 19-20	第99回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	胃内自然穿破したWONに対し内視鏡的ネクロセクトミーで改善を得た一例	藤本 洋、武富 啓展、後藤 聡子、宮原 貢一、井手 康史、野田 隆博
2015. 10. 8-10	第90回日本消化器内視鏡学会総会	生検で胃腺腫と診断された症例に対する内視鏡治療の妥当性についての検討	宮原貢一、藤本洋、武富啓展、後藤聡子、嬉野博志、井出康史、野田隆博
2015. 10. 8-10	第90回日本消化器内視鏡学会総会	出血性胃十二指腸潰瘍止血術後の再出血に関する検討ー佐賀県市中拠点病院による多施設共同研究ー	澁木太郎1, 富永直之1, 田中雄一郎1, 鶴岡ななえ2, 3, 山本甲二4, 川副広明1, 緒方伸一4, 野田隆博3, 水田敏彦1
2015. 12. 4-5	第100回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	H. pylori除菌療法で寛解に至ったがその後再発した直腸原発MALTリンパ腫の一例	藤本 洋、武富 啓展、宮原 貢一、野田 隆博
2015. 12. 2-6	Asian Pacific Digestive Week 2015	Trends in the eradication therapy of Helicobacter pylori infection for seven years.	H Takedomi et al.
2016. 2. 27-28	第12回日本消化管学会総会	下部消化管内視鏡検査中に腸管裂創と気腹症を来した一例	藤本 洋、武富 啓展、宮原 貢一、井手 康史、野田 隆博
【その他】			
2015. 7. 9	佐賀胃腸懇話会	症例提示	武富敬展
2015. 7. 10	佐賀UC Expert Meeting	ステロイド依存性潰瘍性大腸炎にアダリムマブを使用した1例	武富敬展
2015. 7. 21	唐津東松浦消化器研究会	シヨートレクチャー『NET』	野田隆博
2015. 11. 17	唐津東松浦消化器研究会	症例提示	武富敬展
2016. 1. 14	佐賀胃腸懇話会	レクチャー『胃癌深達度診断』	宮原貢一
2016. 3. 15	唐津東松浦消化器研究会	シヨートレクチャー『腸アニサキス』	野田隆博



呼吸器内科

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

梅口 仁美 平成 17 年卒 日本内科学会 認定医・総合内科専門医
 日本呼吸器学会 専門医
 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
 ICD（インфекションコントロールドクター）
 日本肺癌学会
 日本感染症学会
 日本緩和医療学会

井上 周 平成 21 年卒 日本内科学会 認定医
 日本呼吸器学会
 日本呼吸器内視鏡学会
 日本肺癌学会

2. 臨床業績（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

診療統計

疾患別入院患者数（延べ人数）

疾患区分	患者数
肺感染症（上気道感染、細菌性肺炎）	32
肺癌	132
呼吸不全	27
間質性肺炎	25
気胸	7
喘息	9
膿胸	3
抗酸菌感染	3
その他	86
計	324

気管支鏡検査（延べ人数）

症例数 131 件

（内訳）

経気管肺生検法 57 件、気管支肺胞洗浄法 18 件、気管支洗浄 21 件

内腔観察 27 件 その他処置等 8 件



化学療法（点滴）

症例数 延べ 453 件

（登録レジメン）

CDDP+CPT-11、分割 CDDP+CPT-11、CBDCA+CPT-11、CDDP+VP-16、CBDCA+VP-16、
CDDP+VP-16+RT、AMR、CDDP+VNR、VNR 単剤、CBDCA+PTX、CBDCA+PTX+RT、CDDP+DOC+RT、
DOC 単剤、CBDCA+Pem+Bev、CBDCA+Pem、Pem 単剤、Pem+Bev メンテナンス、Pem メンテナンス、
Bev メンテナンス、CDDP+TS-1、CBDCA+TS-1、TS-1 単剤、CDDP+GEM、CBDCA+GEM、GEM 単剤
Gefitinib、Erlotinib、Afatinib、Crizotinib、Alectinib、Nivolumab

3. 研究業績

学会発表

第 75 回日本呼吸器学会・結核病学会 九州支部秋季学術講演会

「重症 MSSA 肺炎の治療経過中に多発ニューマトセルを形成した一例」 井上 周

第 75 回日本呼吸器学会・結核病学会 九州支部秋季学術講演会

「悪性胸膜中皮腫との鑑別を要した肉腫様癌の 2 例」 梅口 仁美

4. この 1 年の歩み

平成 27 年度の呼吸器内科は常勤医師 2 名の体制となりました。

外来診療では、昨年度までの月、火、水、金曜日に加えて新たに木曜日も外来を開設し、平日のすべての曜日で新患・定期外来患者さんの対応ができるようになりました。

入院患者さんに対しては、今年度より医師、看護師、理学療法士、メディカルソーシャルワーカー等の多職種が参加し、慢性および急性呼吸器疾患や癌患者さんのリハビリテーションや、退院・転院にむけた社会的資源の利用について多角的視点で検討する“呼吸器リハカンファレンス”を週 1 回定期開催することができるようになりました。

呼吸器科の代表的業務としては、

- ① 急性呼吸窮迫症候群や間質性肺炎の急性増悪、肺胞出血などの急性呼吸不全症例に対する人工呼吸器管理をはじめとした集中治療・早期リハビリテーション
- ② 入院適応となる中等症～重症肺炎症例の管理
- ③ COPD や間質性肺炎、気管支喘息などの慢性疾患に対する長期管理と患者教育
- ④ 慢性呼吸不全症例に対する HOT 導入、NIPPV 導入
- ⑤ 結核疑い症例の抽出と診断・治療による公衆衛生への貢献
- ⑥ 肺癌症例についての気管支鏡検査による診断、EGFR 遺伝子変異など molecular marker の検索、CT/MRI/骨シンチや他院と連携した PET-CT による病期診断、手術・放射線療法・化学療法を組み合わせた集学的・標準的治療



などがあげられ、診療範囲が多岐に亘ることが特徴です。その他、慢性咳嗽の診療や器質化肺炎・好酸球性肺炎などのアレルギー疾患の診断、胸水疾患の鑑別、縦隔腫瘍の診療なども行っており、地域の医療機関から多くの貴重な症例を御紹介頂いています。

また、上記のような多彩な個々の症例に対し、患者様・御家族と十分にコミュニケーションの上、特に慢性期呼吸不全症例の呼吸リハビリテーションや、肺癌症例の終末期医療などについて、地域の医療機関と連携・協力しながら全人的医療の実践を目標に日々取り組んでいます。



血液内科

1. スタッフ紹介（平成28年4月1日現在）

部長 宮原 正晴 平成2年卒

日本内科学会：総合内科専門医・指導医

日本血液学会：専門医・指導医

日本臨床血液学会

日本造血幹細胞移植学会

日本がん治療認定医機構：がん治療認定・暫定教育医

日本臨床腫瘍学会：暫定指導医

日本輸血細胞療法学会

日本感染症学会

ICT（インフェクションコントロールドクター）

日本プライマリ・ケア連合学会：認定医

日本医療マネジメント学会

医師 蒲池 和晴 平成20年卒

日本内科学会：認定医

日本血液学会

日本臨床血液学会

日本臨床腫瘍学会

日本造血幹細胞移植学会

日本血栓止血学会

医師 田邊 桃香 平成24年卒

日本内科学会

日本血液学会

日本臨床血液学会

非常勤医師

医師 富栴 りか 平成7年卒

日本血液学会：専門医

日本臨床血液学会

日本内科学会：認定医

医師 進藤 岳朗 平成9年卒

日本血液学会：専門医

日本臨床血液学会

日本内科学会：認定医

常勤医師3名、非常勤医師2名で診療しています。



2.臨床業績

入院患者内訳（のべ人数）（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	疾患名	患者数
	急性骨髄性白血病	24
	慢性骨髄性白血病	0
	急性リンパ性白血病	4
	骨髄増殖性腫瘍	4
	成人T細胞白血病リンパ腫	27
	原発性マクログロブリン血症	0
	悪性リンパ腫	104
	多発性骨髄腫	10
	骨髄形成症候群	16
	特発性血小板減少性紫斑病	1
	再生不良性貧血	3
	その他貧血、感染症など	101
	合計	294

新患患者内訳（入院+外来）（平成27年1月～平成27年12月）

	疾患名	患者数
	急性骨髄性白血病	6
	慢性骨髄性白血病	2
	急性リンパ性白血病	2
	骨髄増殖性腫瘍	2
	成人T細胞白血病リンパ腫	13
	悪性リンパ腫	27
	原発性マクログロブリン血症	0
	多発性骨髄腫	8
	骨髄形成症候群	15
	特発性血小板減少性紫斑病	1
	再生不良性貧血	3
	その他貧血、感染症など	101
	合計	176



3.研究業績

【学会報告】

第 37 回日本血栓止血学会 (2015.5.21-23) 約 15 年間、胆道出血を繰り返す Bernard-Soulier syndrome の一例 蒲池和晴、久保田寧、佐野雅之、山口享祐、西岡敦二郎、吉原麻里、北村浩晃、横尾眞子、進藤岳朗、安藤寿彦、小島研介、末岡栄三郎、木村晋也

第 77 回日本血液学会総会(2015.10.16-18) R-CHOP-Induced Kaposi's sarcoma in an HIV-negative patient with DLBL 田邊桃香、嬉野博志、安藤寿彦、小島研介、板村英和、土井和子、大島孝一、黒木和哉、宮原正晴、木村晋也

第 77 回日本血液学会総会(2015.10.16-18) Successful auto-HSCT for CD138-plasmactoma with deletion 17p followed by bortezomib maintenance 北村浩晃、久保田寧、蒲池和晴、西岡敦二郎、山口享祐、横尾眞子、進藤岳朗、安藤寿彦、小島研介、木村晋也

第 77 回日本血液学会総会(2015.10.16-18) Clinical features and treatment outcomes of acute Erythroid leukemia in the last decade 西岡敦二郎、久保田寧、山口享祐、蒲池和晴、北村浩晃、横尾眞子、進藤岳朗、安藤寿彦、小島研介、末岡栄三郎、木村晋也

日本 HTLV-1 学会学術総会 (2015.8.22) 成人 T 細胞白血病に対するモガムリズマブの効果は活性型 NK 細胞受容体とリガンドのマッチングによって予測できる可能性がある 進藤岳朗、楠木靖史、嬉野博志、宮原正晴、渡邊達郎 末岡栄三郎、森脇裕司、吉田真一郎、一戸辰夫、Luis J Espinoza、高見昭良、田中秀則、佐治博夫、木村晋也

日本組織適合性学会大会(2015.9.10) 成人 T 細胞白血病に対するモガムリズマブの効果は活性型 NK 細胞受容体とリガンドのマッチングによって予測できる可能性がある 進藤岳朗、楠木靖史、嬉野博志、宮原正晴、渡邊達郎 末岡栄三郎、森脇裕司、吉田真一郎、一戸辰夫、Luis J Espinoza、高見昭良、田中秀則、佐治博夫、木村晋也

日本血液疾患免疫療法研究会学術集会(2015.9.25) ATL 患者におけるモガムリズマブの有効性と制御性 T 細胞、TCR レパトア、HLA および NK 細胞受容体多型の解析 進藤岳朗、楠木靖史、鈴木隆二、北浦一孝、西川博嘉、渡辺信和、渡邊達郎、末岡栄三郎、嬉野博志、宮原正晴、森脇裕司、吉田真一郎、一戸辰夫、Luis J Espinoza、高見昭良、田中秀則、佐治博夫、坂口志文、木村晋也

第 90 回日本感染症学会総会・シンポジウム 9 : シンポジスト
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) による院内感染事例
宮原 正晴



【論文】

Spontaneous regression of methotrexate-related lymphoproliferative disorder with T cell large granular lymphocytosis.

Hiroshi Ureshino, Chiho Kadota, Kazuya Kurogi, Masaharu Miyahara, and Shinya Kimura
Inter Med 54:2235-2239, 2015

Rituximab-containing chemotherapy (R-CHOP)-induced Kaposi's sarcoma in an HIV-negative patient with diffuse large B cell lymphoma.

Hiroshi Ureshino, Toshihiko Ando, Kensuke Kojima, Hidekazu Itamura, Shunichi Jinnai, Kazuko Doi, Koichi Ohshima, Kazuya Kurogi, Masaharu Miyahara, and Shinya Kimura
Inter Med 54:3205-3208, 2015

Treatment and survival among 1594 patients with ATL

Hiroo Katsuya, Kenji Ishisuka, Atae Utsunomiya, Shuichi Hanada, Tetsuya Eto, Yuki Yoshi Moriuchi, Yosio Saburi, Masaharu Miyahara, Eisaburo Sueoka, et al
Blood, 10 December 2015; 126(24):2570-2577

4. この一年の歩み

血液内科では、造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫など）や造血障害（再生不良性血、骨髄異形性症候群など）血小板凝固異常症（出血傾向や血栓傾向を生じる疾患）などの専門的診断と治療を行っています。患者様、ご家族との十分なコミュニケーションの上での、全人的医療の実践を目標に、各疾患の標準的治療を実施してきています。当院は無菌室 3 床を有し、化学療法、放射線療法、免疫療法、分子標的治療薬、自家末梢血幹細胞移植など実施してきています。

また同種幹細胞移植が必要な症例は、移植施設との連携をとり積極的に移植目的の紹介をしています。

地域医療支援病院として地域の連携医療機関から多くの患者さまを紹介いただいております。また県内の他の血液疾患専門診療施設（佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館）とも医療連携を行い、定期的に情報交換をしながら治療成績向上をめざしています。



肝臓内科

1. スタッフ紹介（平成28年3月31日現在）

副部長 井手 康史 平成12年卒 日本内科学会総合内科専門医・指導医
 日本肝臓学会認定専門医
 日本消化器病学会専門医・支部評議員
 がん治療認定医
 日本消化器内視鏡学会
 日本糖尿病学会

小平 俊一 平成21年卒 日本内科学会認定医
 日本肝臓学会
 日本消化器病学会
 日本消化器内視鏡学会

2. 臨床業績（平成27年4月～平成28年3月）

【肝臓治療】

経皮的ラジオ波焼灼療法（RFA）	14件
経皮的エタノール注入療法（PEIT）	2件
肝動脈化学塞栓術（TACE）	27件
肝動脈注入療法（Lip-TAI）	1件
分子標的治療薬導入	1件
その他化学療法	1件

【肝炎治療】

経皮的肝生検（腫瘍生検を除く） 16件

C型肝炎抗ウイルス療法

ダクラタスビル＋アスナプレビル療法	6件
ソホスブビル＋リバビリン療法	19件
ソホスブビル＋レディパスビル療法	20件
オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル療法	0件

B型肝炎抗ウイルス療法

インターフェロン療法	1件
核酸アナログ製剤導入	3件



3. 研究業績（平成27年4月～平成28年3月）

（学会、講演、論文等）

1. がん地域連携拠点病院公開講習会（4/13）
肝臓対策の現況とこれから
井手康史
2. 唐津東松浦郡肝疾患研究会（4/21）
日本肝臓学会C型肝炎治療ガイドライン（第3.3版）について
井手康史
3. 唐津東松浦医師会学術講演会（8/24）
ジェノタイプ2型C型肝炎に対するソホスブビル・リバビリンの使用経験
井手康史
4. 佐賀県肝炎コーディネーター養成研修会（11/7）
NASHと栄養
井手康史
5. 唐津東松浦郡肝疾患研究会（12/15）
現時点でのC型肝炎に対する抗ウイルス治療戦略
井手康史
6. 透析とC型肝炎を考える会（2/29）
C型肝炎に対するインターフェロンフリー治療の進歩
井手康史

4. この1年のあゆみ

当科ではウイルス性肝炎の治療や肝障害の鑑別診断、肝がんの内科的治療などを主に、各種肝疾患の診断や治療を行っています。

C型肝炎に対する抗ウイルス療法については年々進歩しており、2014年11月末には待望のインターフェロンフリーの治療であるダクラタスビル・アスナプレビル併用療法が保険適応となりました。ついで2015年にはソホスブビル・リバビリン併用療法、ソ



ホスブビル・アスナプレビル併用療法、オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル併用療法が登場し、さらにインターフェロンフリー治療の選択肢が増えました。当科ではC型慢性肝炎の撲滅に向けて積極的に治療導入を行っています。今後は透析患者などのこれまで治療困難であった症例に対しても積極的に治療を導入するべく、病診連携のための研究会などの活動を積極的行いました。

ウイルス性肝炎患者のキャリア数減少に伴い、全国的な動向と同様に当院でも肝細胞癌患者は減少傾向にあります。一方で脂肪性肝疾患や糖尿病などの生活習慣病やアルコール性肝障害を背景とした肝細胞癌が増多傾向にあります。発見時には進行していることも多く、また合併症も多い傾向にあるため、内科的治療の重要度は高まっていると考えられます。

また、胆膵疾患に対しても、消化器内科と協働で取り組んでいます。ERCPやPTBDなどの手技による治療や化学療法を行っています。

今年度より小平医師が加わって当科は2人体制となりました。これにより昨年度よりも柔軟に急患や重症患者に対応することが可能となっています。外来患者数も増え、より多くの肝胆膵疾患患者に対する治療を行うことができるようになったと考えています。



循環器内科

1. スタッフ紹介（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

部長	森 唯史	昭和 63 年卒	第 1 循環器内科部長 日本内科学会専門医 日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医 日本心臓リハビリテーション学会・指導士
部長	橋本 重正	昭和 62 年卒	第 2 循環器内科部長 日本内科学会専門医 日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医 日本心臓リハビリテーション学会
	轟木 渉	H18 年卒	日本内科学会 日本循環器学会 日本医学放射線学会
	古川 陽介	H19 年卒	日本内科学会 日本循環器学会 日本心血管インターベンション治療学会
	柿本 洋介	H21 年卒	日本内科学会 認定医 日本循環器学会
	有馬 岳史	H25 年卒	

2. 臨床業績（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）

心臓カテーテル検査	212 件
冠動脈インターベンション	103 件 (うち緊急 32 件)
末梢血管インターベンション	2 件
ペースメーカー植え込み術	新規 35 件 交換 17 件
冠動脈 CT	81 件
心エコー	2702 件
ホルター心電図	125 件



3.研究業績

【学会発表】

- 1) 発作性夜間ヘモグロビン尿症の増悪を契機に発症した急性冠症候群の1例
有馬 岳史、他
第51回日本赤十字社医学界総会
- 2) 循環器内科外来で経験した高度低カリウム血症を呈した神経性食思不振症の1例
橋本 重正
第6回日本プライマリケア連合学会学術集会

4.この一年の歩み

平成27年は、4月は九州大学より有馬医師が赴任されましたが、1増2減の一人減員でのスタートとなりました。しかし、5月には以前当院で放射線科医として仕事をされていた轟木医師が循環器科医師として赴任、昨年同様の6人体制で再スタートをきることが出来ました。轟木医師は放射線科専門医でもあり、奥深い読影力でもって診断に大活躍してもらっています。

冠動脈インターベンションは、27年度も継続して年間100例を超えて、冠動脈インターベンション治療学会の研修関連施設の維持が今後も可能になっており、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設とも併せ充実した研修も行えております。他院とも協力し、急患の受け入れ、緊急の冠動脈造影、インターベンションも24時間体制でこれまで通り行えました。



小児科

1. 小児科診療スタッフ

平成27年度も前年度にひき続き5名の小児科医で診療に当たった。平成19年から8年半当院に勤務した村山康郎が村山小児科に就職するため9月30日を以て退職し、森田駿が佐賀大学小児科からの派遣で11月1日から着任した。

部長：辻 功介	佐賀医科大学	平成6年卒業	小児科専門医
医員：村山 康郎	鹿児島大学	平成11年卒業	小児科専門医
(平成27年9月30日退職)			

医員：阿部 淳	佐賀大学	平成13年卒業	小児科専門医
医員：須山 ゆかり	佐賀大学	平成22年卒業	平成27年小児科専門医取得
医員：中村 拓自	佐賀大学	平成22年卒業	平成27年小児科専門医取得
レジデント：森田 駿	佐賀大学	平成24年卒業	
(平成27年11月1日着任)			

2. 概要

後期研修期間中の者は小児科専門医取得を目指し、入院診療や健康診査・予防接種はもちろん一般外来診療にも積極的に参加してもらい研鑽を積んだ。阿部は感染症をサブスペシャリティとし、院内感染対策委員となりICTの一員として横断的な介入を行ないCRE院内感染の対応に大きく貢献した。須山・中村は入院診療の実質的な中心として精力的に働くとともに自らの研鑽も怠らず年度内に小児科専門医を取得した。森田は後期研修初年度内に当院のような実践的医療機関へ突然派遣され当初は戸惑いも大きかった様だが持ち前のバイタリティーで心技体ともに大きく伸びた。平日午後の予約外受診や近隣医療機関からの診療・入院依頼には当番医師が随時対応し、また夜間や時間外・休日の小児患者の診療・受診依頼および医療機関からのご紹介に対してもオンコール医師が直接に対応する体制は前年度から継続している。

3. 外来診療

外来診療受付開始時間は平日の08:30、診療開始時間は09:00。基本的に午前中は一般外来、午後は予約外来、乳児健診（1か月健診は院内出生のみ）、各種予防接種を実施している。この他、毎週水曜日には九州大学小児科から小児循環器外来と小児神経外来を、毎月第一火曜日午後には佐賀大学文化教育学部の久野先生に小児内分泌・代謝外来を依頼し、専門的診察や処置の必要な小児に対応している。また辻はアレルギー専門外来を担当している。もちろん医療機関からのご紹介や救急搬送はいずれの時間や事情に関わらず全例受諾している。

平成27年度の外来受診患者総数（健診・予防接種除く）は概ねこれまでと大きな変動はない。

健康診査・予防接種件数は両ワクチンの種類や接種回数が増えているため今後も件数が増加していくと予想される。



4. 入院診療

小児の入院は主に東3階病棟（33床）で受け入れている。産婦人科との混合病棟だが、小児病床として通常、個室4～6室、2人部屋1～2室、4人部屋1室を感染隔離の必要性に応じて使い分けている。

平日は8時と17時から、休日は9時からベッドサイドプレゼンテーションにて回診し、全員が全ての入院患者の状態や症状の変化を把握し、症状の推移や施行した検査結果などについて意見を出しあって検討している。

平成27年度の小児科入院患者数は630件であった。他医療機関からのご紹介による入院割合は約40%、時間外に紹介をいただく唐津救急医療センターの場合は紹介患者の約80%という高い確率で入院となっている状況は昨年度までと同様の傾向である。

5. 時間外診療

当科では平日夜間帯や休日の小児診療に応需すべく、基本的に毎日小児科医2名を（第1・第2）オンコールとしている。唐津市救急医療センターや他医療機関、また基礎疾患を持ち当科の専門外来へ定期受診している小児からの診療や入院の依頼、入院加療を要する新生児診療の依頼などには、当直医を通さずオンコール小児科医が直接対応している。平成27年度の時間外受診件数は昨年度と殆ど変わらなかった。なお、時間外・休日の緊急入院件数は入院総数の約4割強に達する。当科の時間外診療はどちらかというと2次医療に特化していることもあり、時間外・休日の受診における紹介および入院比率は高い傾向にある。一般医療機関が受付を終了する平日夕方と土曜日午後は、地域急患センターが開く時間までオンコール小児科医が院内待機して急な小児患者の受診や紹介を応需しているが、小児患者の紹介ではない時間外一般受診はやはりこの時間帯が多くを占め、また1次救急の患者の割合が高い。

6. 新生児診療

産婦人科・小児科病棟である東3階病棟には新生児治療室も備えており、最大で4床のクベースが稼働できる。院内出生児、唐津市内の産婦人科施設から依頼を受け新生児診療に当たってはいるが、現在の小児科スタッフには新生児専門医が居ないこと、看護スタッフも新生児診療に十分に時間や人材を配備できないという事情などから、現時点ではリスクの高くない新生児に限って診療しているのが実情である。国立病院機構佐賀病院のNICUと連携して重症新生児は迅速にドクターカーによるお迎えをお願いしている。唐津市を含む佐賀県北部医療圏には市中の産科クリニックが人口・分娩数に対して少なく、院内出生数も増加傾向を示している。居住地で安心して出産が出来るような体制作りを模索している。

7. 唐津救急医療センターとの連携

唐津・玄海地区の小児の時間外・休日1次診療は唐津救急医療センターに大部分を担っていただいております、また近年は伊万里地区からの受診患者数も漸増傾向にある。救急医療センターの開設時間は平日夜間が20:00～翌06:00、土曜日が17:00～翌06:00、日祝日は09:00～翌06:00と長時間をカバーし、時間外小児1次診療の多くを応需していただいている。救急医療センターからご紹介いただいた小児は高い確率で専門的検査・処置や入院加療が必要とされており、ご紹介いただいた際は迅速に対応するよう務めている。

8. 業績（臨床・研究）

＊学会発表・講演会に若干数



外科

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

副院長	湯ノ谷 誠二	昭和 57 年卒	兼がん医療推進センター長
		日本外科学会	認定医・専門医・指導医
		日本消化器外科学会	認定医・専門医・指導医
			消化器がん外科治療認定医
		日本消化器病学会	専門医
		日本内視鏡外科学会	評議員
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医・暫定教育医
		日本胃癌学会	
		日本癌治療学会	
		日本腹部緊急医学会	
		日本緩和医療学会	
		佐賀大学医学部臨床教授	他
部長	鮫島 隆一郎	平成 2 年卒	第 1 外科部長
		日本外科学会	認定医・専門医
		日本消化器外科学会	専門医・消化器がん外科治療認定医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
部長	井久保 丹	昭和 63 年卒	第 2 外科部長
		日本外科学会	認定医・専門医・指導医
		日本消化器外科学会	認定医・専門医・指導医
			消化器がん外科治療認定医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医・暫定教育医
部長	田淵 正延	昭和 54 年卒	乳腺外科部長
		日本外科学会	認定医・専門医・指導医
		日本消化器外科学会	認定医・指導医
			消化器がん外科治療認定医
		日本消化器内視鏡学会	専門医
		日本乳癌学会	認定医
		日本乳癌検診学会	評議員
		NPO 法人日本マンモグラフィ検診精度中央委員会	検診マンモグラフィ読影認定医



日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・暫定教育医
 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
 日本乳腺甲状腺超音波医学会
 日本臨床細胞学会

部長　加藤　雅人

昭和 54 年卒　呼吸器外科部長
 日本外科学会　　　　　認定医・専門医・指導医
 日本消化器外科学会　　指導医
 日本臨床外科学会
 日本呼吸器外科学会　　専門医
 日本胸部外科学会　　認定医
 日本乳癌学会　　　　　認定医
 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・暫定教育医
 日本肺癌学会
 日本癌治療学会
 日本臨床腫瘍学会
 日本緩和医療学会

副部長　神谷　尚彦

平成 3 年卒　第 1 外科副部長
 日本外科学会　　　　　専門医
 日本消化器外科学会　　専門医
 　　　　　　　　　　　消化器がん外科治療認定医
 日本消化器病学会
 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医

副部長　酒井　正

昭和 63 年卒　第 2 外科副部長
 日本外科学会　　　　　認定医・専門医
 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医

山田　浩平

平成 22 年卒
 日本外科学会
 日本臨床外科学会

鶴　安浩

平成 23 年卒
 日本外科学会
 日本消化器外科学会
 日本内視鏡外科学会
 日本臨床外科学会



2. 臨床業績

外科年間手術症例数（平成 27 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

全手術件数	668 例
定期手術	549 例
緊急手術	119 例
食道手術	3 例
食道悪性腫瘍手術（うち鏡視下）	3（2）例
胃・十二指腸手術	44 例
胃全摘術	7 例
幽門側胃切除術（うち鏡視下）	23（14）例
胃空腸吻合術（うち鏡視下）	5（4）例
穿孔性潰瘍手術（うち鏡視下）	9（4）例
小腸・虫垂手術	56 例
小腸切除術	14 例
虫垂切除術（うち鏡視下）	42（40）例
結腸・直腸・肛門	107 例
結腸悪性腫瘍手術（うち鏡視下）	57（47）例
結腸良性腫瘍手術（うち鏡視下）	1（1）例
人工肛門・腸瘻造設・閉鎖	21 例
その他結腸手術	2 例
直腸悪性腫瘍前方切除術（うち鏡視下）	19（16）例
直腸切断術（うち鏡視下）	4（2）例
その他直腸手術	3 例
肝・胆・膵・脾	118 例
肝切除術（亜区域以上）	2 例
肝部分切除術（うち鏡視下）	11（1）例
肝膿瘍・肝嚢胞切開術	1 例
胆道悪性腫瘍手術	2 例
胆嚢摘出術（うち鏡視下）	83（63）例
胆管消化管吻合術	1 例
その他胆嚢・胆管手術	3 例
膵頭十二指腸切除術	8 例
膵体尾部悪性腫瘍手術	2 例
膵腫瘍摘出術	2 例
脾摘出術	2 例



乳腺手術	67 例
乳房切除	18 例
乳房温存	33 例
乳腺腫瘍摘出	11 例
その他乳腺手術	5 例
胸部手術	94 例
肺悪性腫瘍手術(うち鏡視下)	41 (39) 例
肺切除術 (うち鏡視下)	25 (23) 例
縦隔腫瘍手術 (うち鏡視下)	13 (13) 例
胸膜手術 (うち鏡視下)	15 (5) 例
甲状腺手術	11 例
その他	168 例
汎発性腹膜炎手術	9 例
癒着剥離術(うち鏡視下)	15 (7) 例
腹壁ヘルニア手術(うち鏡視下)	22 (10) 例
鼠径ヘルニア(うち鏡視下)	46 (28) 例
試験開腹術(うち鏡視下)	4 (4) 例
その他	72 例

3. 研究業績 (平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日)

【論文】

1、Ueki T, Manabe T, Inoue S, Ienaga J, Yamanaka N, Egami T, Ishikawa M, Konomi H, Ikubo A, Nagayoshi K, Nakamura M, Tanaka M. : A Feasibility Study of Neoadjuvant XELOX Without Radiotherapy for Locally Advanced Lower Rectal Cancer. Anticancer Res. 2016 Feb ; 36(2) : 741-7.

【学会発表】

1、神谷尚彦、鶴安浩、山田浩平、古賀智子、鮫島隆一郎、酒井正、井久保丹、田渕正延、加藤雅人、湯ノ谷誠二：腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術について 佐賀大学一般・消化器外科総医局会 2015. 6. 6 佐賀

2、山田浩平、神谷尚彦、田渕正延、鶴安浩、古賀智子、鮫島隆一郎、酒井正、井久保丹、加藤雅人、湯ノ谷誠二：胆管走向異常のある急性胆嚢炎の一切除例 佐賀胆膵研究 2015. 6. 15 佐賀

3、古賀智子、加藤雅人、湯ノ谷誠二：術前化学-放射線療法後に VATS-bilobectomy を行った局所進行肺癌の一例 第 5 回福岡胸部外科疾患研究会 2015. 6. 27 福岡



- 4、神谷尚彦：パネルディスカッション 虫垂炎・ヘルニア
1 虫垂炎治療法の選択、2 鼠径ヘルニアの術式およびプロステーシス選択 第36回佐賀外科治療フォーラム 2015.7.11 佐賀
- 5、古賀智子、加藤雅人、湯ノ谷誠二：SBRT 後の再増大でサルベージ手術を行った肺癌の一例 第48回日本胸部外科学会九州地方会総会 2015.8.6-7 佐賀
- 6、古賀智子、加藤雅人、湯ノ谷誠二：高度癒着症例に対し胸腔鏡下右葉切除を施行した一例 第48回日本胸部外科学会九州地方会総会 2015.8.6-7 佐賀
- 7、加藤雅人、古賀智子、湯ノ谷誠二：胸腔鏡下葉切除症例の検討 第48回 日本胸部外科学会九州地方会総会 2015.8.6-7 佐賀
- 8、山田浩平、神谷尚彦、湯ノ谷誠二：術前 ENBD チューブ留置が有用であった胆道走向異常を有した胆石症の1例 第25回九州内視鏡下外科手術研究会 2015.8.29 熊本
- 9、鶴安浩、鮫島隆一郎、山田浩平、神谷尚彦、酒井正、井久保丹、湯ノ谷誠二：切除不能・進行再発大腸癌に対する TAS-102 の使用経験 第40回 日本大腸肛門学会九州地方会 2015.9.26 沖縄
- 10、山口瑞貴、百武和子、園田満理、岩田亜衣、鮫島隆一郎：シンポジウム 2 右上腕部切断患者のストーマケア自律への支援～在宅ケアに向けて地域との連携をふりかえる～ 第30回九州ストーマリハビリテーション研究会 2015.9.26 沖縄
- 11、古賀智子、加藤雅人、湯ノ谷誠二：体幹部定位放射線治療後に再増大を認めサルベージ手術を行った転移性肺癌の一例 第75回日本呼吸器学会日本結核病学会日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 2015.10.3 佐賀
- 12、藤田直子、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二：ドセタキセルによる爪障害予防対策としての手足冷却の経験 第51回日本赤十字社医学会総会 2015.10.15-16 北見
- 13、古賀智子、加藤雅人、湯ノ谷誠二：体幹部定位放射線治療後に再増大を認めサルベージ手術を行った転移性肺癌の一例 第53回日本癌治療学会学術集会 2015.10.30 京都
- 14、鶴安浩、神谷尚彦、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二：悪性リンパ腫との鑑別を要した多発脾膿瘍の一例 第77回日本臨床外科学会総会 2015.11.26-28 福岡
- 15、古賀智子、加藤雅人、湯ノ谷誠二、井上 周、梅口 仁美：術前化学-放射線療法後に VATS-bilobectomy を行った局所進行肺癌の一例 第56回日本肺癌学会学術集会 2015.11.27 横浜
- 16、古賀智子、加藤雅人、湯ノ谷誠二、井上 周、梅口 仁美：同時性5重肺癌の1切除例 第56回日本肺癌学会学術集会 2015.11.27 横浜
- 17、山田浩平、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二：閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置後における腹腔鏡下手術の検討 第28回日本内視鏡外科学会総会 2015.12.10-12 大阪
- 18、山田浩平、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二、木戸伸一：Signet-like cell を伴った胃 MALT リンパ腫の1例 第88回日本胃癌学会総会 2016.3.17-19 大分



19、鶴安浩、神谷尚彦、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二：精神症状で発症し診断に苦慮し、急激な転帰をたどった胃癌による癌性髄膜炎の一例 第 88 回日本胃癌学会総会 2016. 3. 17-19 大分

20、山田浩平、井久保丹、湯ノ谷誠二：食道癌術後 3 年、膵癌術後 4 カ月で上腸間膜 (SMV) 閉塞を来した急性腹症の 1 例 第 6 回日本臨床外科学会佐賀県支部学術集会 2016. 3. 23 佐賀

【諸学会座長・司会等】

1、湯ノ谷誠二：第 105 回日本消化器病学会九州支部例会 研修医発表 食道 2015. 6. 19-20 長崎

2、神谷尚彦：唐津東松浦医師会 NST 講演会 一般演題 2015. 7. 8 唐津

3、加藤雅人：第 48 回日本胸部外科学会九州地方会総会 縦隔・胸壁疾患 1 2015. 8. 6-7 佐賀

4、湯ノ谷誠二 企画責任者：平成 27 年度唐津赤十字病院緩和ケア研修会 2015. 8. 22-23 唐津 (唐津赤十字病院)

5、湯ノ谷誠二：第一部 講演 I 「大腸癌における分子標的薬の現状と未来」 佐賀県医療センター好生館 腫瘍内科部長 嬉野紀夫先生 第 1 回佐賀がんフォーラム (第 137 回佐賀県胃癌・大腸癌検診医会研修会) 佐賀

6、湯ノ谷誠二：一般示説 腹壁・腹膜・後腹膜 第 77 回日本臨床外科学会総会 2015. 11. 26-28 福岡

【講演・講義】

1、「疾病治療論Ⅱ消化器」 鮫島隆一郎 平成 27 年度唐津看護専門学校看護専門課程講義 2015. 6. 10-7. 15

2、「呼吸困難」 湯ノ谷誠二 平成 27 年度佐賀県医療センター好生館緩和ケア研修会 (ファシリテーター) 2015 7. 4-5 佐賀

3、「呼吸困難」 加藤雅人 平成 27 年度唐津赤十字病院緩和ケア研修会 (ファシリテーター) 2015. 8. 22-23 唐津 (唐津赤十字病院)

4、「当科における呼吸器外科手術の現状」 古賀智子 唐津東松浦医師会学術講演会 2015. 10. 23 佐賀

5、「呼吸困難」 湯ノ谷誠二 平成 27 年度佐賀大学緩和ケア研修会 (ファシリテーター) 2015 10. 24-25 佐賀

6、「消化器症状」 湯ノ谷誠二 平成 27 年度嬉野医療センター緩和ケア研修会 (ファシリテーター) 2015 . 1. 23-24 嬉野

7、「がん治療の最前線」 湯ノ谷誠二 九州国際看護大学 2016. 1. 13 福岡

【院内講演座長・司会等】

1、神谷尚彦：「肝がん対策の現況とこれから」 第 1 内科副部長 井手康史 第 20 回唐津赤十字病院地域がん診療連携拠点病院公開講習会 2015. 4. 13



2、鮫島隆一郎：「急性期病院における口腔管理～好生館歯科口腔外科新設2年の現状と展望～」佐賀県医療センター好生館歯科口腔外科部長 野口信弘先生 第19回唐津赤十字病院地域がん診療連携拠点病院公開講演会 2015. 5. 29

3、加藤雅人：「肺癌診断と化学療法の進歩」佐賀大学医学部附属病院血液・呼吸器・腫瘍内科準教授 荒金尚子先生 「呼吸器外科医からみた肺癌治療の個別化」埼玉県立がんセンター胸部外科科長兼部長 浦本秀隆先生 第8回唐津赤十字病院地域がん診療連携拠点病院特別講演会 2015. 7. 10 唐津シーサイドホテル

4、加藤雅人：「がん薬物療法専門医の役割と今後の展望」呼吸器・腫瘍内科 梅口仁美 第21回唐津赤十字病院地域がん診療連携拠点病院公開講習会 2015. 9. 28

5、湯ノ谷誠二：「もし、その時が近づいたなら・・・」特別講演「いのちを受けとめる町づくり～在宅ホスピスのススメ～」にのさかクリニック院長 ニノ坂保喜先生 一般講演「ホスピスでの限界とこれからの展望」 河畔病院緩和ケア部長 前里喜一先生 一般講演「大切な人と、居たいところで・・・」 あおぞら胃腸科 笠原健太郎先生 第6回唐津赤十字病院市民公開講座 2015. 11. 6 唐津市文化体育館

6、鮫島隆一郎：「チーム医療で挑む大腸癌治療～更なる治療成績向上に向けて～」 岐阜大学大学院腫瘍制御学講座腫瘍外科講師 高橋孝夫先生 第9回唐津赤十字病院地域がん診療連携拠点病院特別講演会 2016. 3. 11 唐津シーサイドホテル

4. この1年の歩み

【人事異動】

- ・平成27年4月1日赴任
山田浩平：唐津市馬渡島診療所より
古賀智子：JCHO九州病院より
- ・平成28年3月31日辞任
加藤雅人：医療法人ひらまつ病院へ
鶴 安浩：藤田保健衛生大学病院総合消化器外科へ

【教育】

- ・臨床研修1名（1年次）
山口博史：平成28年1月1日～平成28年3月31日
- ・佐賀大学医学部医学科5年次臨床実習28名 学生担当：山田浩平

鼠径ヘルニア根治術として腹腔鏡下修復術（TAPP）を導入した。呼吸器外科の昨年度からの本格稼働に伴い、本年度も胸部手術が95例とさらに増加し、そのほとんどが鏡視下手術であった。本年度から佐賀大学医学部医学科5年次臨床実習が要望通り2名/1クールとなり、より充実した実習ができるようになった。



整形外科部

1. スタッフ紹介

院長 志田原 哲 昭和 51 年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医

整形外科部

部長 生田 光 平成元年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本整形外科学会脊椎内視鏡下手術技術認定医
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

副部長 北村 貴弘 平成 9 年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定スポーツ医

増田 圭吾 平成 18 年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医
富永 冬樹 平成 20 年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医
櫻木 高秀 平成 23 年卒
甲斐 一広 平成 25 年卒

リハビリテーション部

部長 仙波 英之 平成元年卒 日本整形外科学会認定整形外科専門医

2. 臨床実績

手術件数

総件数		664 件
大腿骨近位部骨折		131 件
四肢の骨折・脱臼		145 件
人工関節置換術	股関節	14 件
	膝関節	22 件
関節鏡視下手術		18 件
脊椎手術		143 件
	内視鏡下手術	37 件



3.研究業績

学会発表

1. 腰椎変性すべり症に対する内視鏡下除圧術後のすべり増大に関連する因子の検討
生田 光、増田圭吾
第44回日本脊椎脊髄病学会
2015年4月16～18日（福岡市）
2. Dose surgical decompression at the single level make alterations of the spinal sagittal alignment in patients of lumbar spinal stenosis?
Ikuta K, Masuda K, Nakamura K, et al.
16th EFORT Congress 2015
2015年5月27～29日（Prague, Czech Republic）
3. Clinical and radiological outcomes of multi-level decompression for lumbar spinal stenosis.
Nakamura K, Ikuta K, Masuda K, et al.
16th EFORT Congress 2015
2015年5月27～29日（Prague, Czech Republic）
4. Clinical and radiological features of extraforaminal lumbar disc herniation that could be successfully treated by conservative treatment.
Kitamura K, Ikuta K, Nakamura K, et al.
16th EFORT Congress 2015
2015年5月27～29日（Prague, Czech Republic）
5. Minimally invasive stabilization using percutaneous pedicle screws in treatment for intractable pyogenic spondylitis.
Masuda K, Ikuta K, Nakamura K, et al.
16th EFORT Congress 2015
2015年5月27～29日（Prague, Czech Republic）
6. 経皮的経椎弓根的椎体間固定術の経験
生田 光、増田圭吾
第22回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会
2015年9月18～19日（東京都）
7. 鹿児島赤十字病院との人事交流
生田 光



第 51 回日本赤十字社医学会総会

2015 年 10 月 15～16 日（北見市）

8. Adjacent segment pathology following cervical laminoplasty

Ikuta K, Masuda K, Kitamura T, et al

EANS 2015 Annual Meeting

2015 年 10 月 18～21 日（Madrid, Spain）

9. A delayed onset neurological deterioration following balloon kyphoplasty for osteoporotic vertebral compression fracture

Tominaga F, Ikuta K, Masuda K.

EANS 2015 Annual Meeting

2015 年 10 月 18～21 日（Madrid, Spain）

10. 従来法と経皮的刺入による椎弓根スクリューの刺入精度

増田圭吾、生田 光、仙波英之、他

第 130 回西日本整形・災害外科学会

2015 年 11 月 14-15 日（宮崎市）

11. Ankylosing spinal disorders に伴う椎体骨折 6 例の検討

甲斐一広、増田圭吾、生田 光、他

第 130 回西日本整形・災害外科学会

2015 年 11 月 14-15 日（宮崎市）

12. 高齢者の上腕骨小頭骨折 3 例に対する治療経験

櫻木高秀、北村貴弘、仙波英之、他

第 130 回西日本整形・災害外科学会

2015 年 11 月 14-15 日（宮崎市）

シンポジウム

1. この 10 年の MED の動向

生田 光

第 18 回日本低侵襲脊椎外科学会

シンポジウム：MED をゴールドスタンダードにするために必要なもの

2015 年 11 月 26-27 日（東京都）



1. 第4回佐賀県北骨コッ病診連携会
志田原 哲、生田 光
2015年6月11日（伊万里市）
2. 第5回佐賀県北骨コッ病診連携会
志田原 哲、生田 光
2015年11月12日（唐津市）
3. 佐賀県骨折治療研究会
仙波 英之
2015年6月6日（唐津市）

論文

1. Tarukado K, Ikuta K, Fukutoku Y, et al. : Spontaneous regression of posterior epidural migrated lumbar disc fragments: case series. Spine J 2015,15(6): e57-62.
2. Ikuta K, Masuda K, Yonekura Y, et al. : Percutaneous traspedicular interbody fusion technique in percutaneous pedicle screw stabilization for pseudoarthrosis following pyogenic spondylitis: Technical Note Asian Spine J 2016, 10(2): 343-348.
3. Baba S, Ikuta K, Ikeuchi H, et al. : Risk factor analysis of C5 palsy after double-door open laminoplasty for cervical spondylotic myelopathy. Asian Spine J 2016, 10(2): 298-308.
4. Ikuta K, Masuda K, Tominaga F, et al. : Clinical and radiological study focused on relief of low back pain following decompression surgery in selected patients of lumbar spinal stenosis associated with Grade I degenerative spondylolisthesis. Spine 2016 (accepted).

4.この1年の歩み

4月1日より九州大学整形外科教室より富永冬樹先生、櫻木高秀先生、甲斐一広先生が赴任され、新たな1年がスタートしました。高齢化社会の到来と共に整形外科の手術件数は増加傾向にあり、今年度は664件でした。多忙な毎日となっていますが、佐賀県北部地区の基幹病院の整形外科として今後も地域医療に貢献出来る様、スタッフ一同頑張っていきたいと考えています。



脳神経外科

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

部長	鈴山堅志	平成 7 年卒	日本脳神経外科学会 専門医・指導医 日本脳卒中学会 専門医 日本脳神経血管内治療学会 日本脳卒中の外科学会 日本脳神経外科コンGRES 医学博士
副部長	岡本浩昌	平成 8 年卒	日本脳神経外科学会 専門医・指導医 日本脳卒中学会 専門医 日本脳卒中の外科学会 日本脳神経内視鏡学会 技術認定医 日本脳神経外科コンGRES 医学博士
医師	高松裕一郎	平成 19 年卒	日本脳神経外科学会 日本脳卒中学会 日本脳神経血管内治療学会
医師	古川隆		

2. 臨床業績

入院患者数	451 名
手術件数	145 件
動脈瘤クリッピング術	13 件（破裂 10 件 未破裂 3 件）
動脈瘤塞栓術	14 件（破裂 11 件 未破裂 3 件）
腫瘍摘出術	7 件
腫瘍生検	2 件
頸動脈内膜剥離術	4 件
頸動脈ステント	1 件
開頭血腫除去術	18 件
水頭症手術	12 件
慢性硬膜下血腫	47 件
血栓回収療法	3 例
その他	24 件



3.研究業績

急性硬膜外血腫との鑑別が困難であった器質化硬膜下血腫の1例

鈴山堅志

佐賀脳神経外科手術手技研究会

当院における、透析患者に合併した頭蓋内出血の手術例の検討

中城博子

佐賀脳神経外科懇話会

大理石病に伴う両側内頸動脈狭窄症の1例

岡本浩昌

STROKE 2015

当院における抗血栓薬内服中の外傷性頭蓋内出血症例の検討

中城博子 高松裕一郎 岡本浩昌 鈴山堅志

第46回佐賀脳神経外科懇話会

Treatment of a ruptured aneurysm involved in a double origin of the posterior inferior cerebellar artery.

Uchiyama T, Okamoto H, Ogata A, Tajima Y, Takase Y, Suzuyama K.

Interv Neuroradiol. 2015 Aug;21(4):451-455. Epub 2015 Jun 25

深部脳静脈血栓症の3症例

内山拓 岡本浩昌 田島裕 香畑智彦 鈴山堅志

脳卒中の外科 42. 2015

4.この1年のあゆみ

脳卒中や頭部外傷などの救急疾患が診療の中心となっておりますことは例年と比較し変化ありません。特に虚血性脳卒中については血管内治療（血栓回収療法）の導入・普及により超急性期治療の **time window** が延長し治療成績の更なる向上が期待される分野となっていますので当科でも積極的に展開していきたいと考えています。



皮膚科

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

副部長 土井 和子 平成 15 年卒 日本皮膚科学会
西日本皮膚科学会
武 信肇 平成 23 年卒 日本皮膚科学会
西日本皮膚科学会

2. 研究業績

《学会発表》

1) 皮下脂肪織に結節性病変を生じた ATLL の一例

武 信肇、土井 和子

日本皮膚科学会第 80 回佐賀地方会（2015.5.10）

2) α 、 β 群 HPV が検出された疣贅状表皮発育異常症の一例

土井 和子、安川晋輔、宮原 正晴、古江 増隆、三石 剛

第 114 回日本皮膚科学会総会（2015.5.30）

3. この 1 年の歩み

今年度は陣内医師と交代で武信肇医師が赴任し、診療を行いました。

外来診療は火、木、金曜日の午前中、月曜日は外来での小手術、水曜日には手術室での植皮術や悪性腫瘍切除等をおこなっています。

近隣地域で麻酔医のもと皮膚科手術を行っているのは当院のみですので、熱傷、悪性腫瘍などを積極的に受け入れ、地域医療に貢献してまいりたいと思います。



泌尿器科

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

部長 明利 浩行 平成 2 年卒 日本泌尿器学会専門医

副部長 西村 和重 平成 4 年卒 日本泌尿器学会専門医・指導医

2. 臨床業績（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

手術症例内訳

	術式	件数
悪性腫瘍	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術・その他のもの）	15
	膀胱悪性腫瘍手術（全摘・回腸又は結腸導管利用し尿路変更行う）	1
	精巣悪性腫瘍手術	1
	腎（尿管）悪性腫瘍手術	9
良性腫瘍	経尿道的前立腺切除術（前立腺肥大症）	7
	経尿道的腎盂尿管腫瘍摘出術	1
結石	経尿道的尿路結石除去術（その他のもの）	11
	経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	3
	膀胱結石摘出術（経尿道的手術）	1
	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（ESWL）	14
	経皮的尿路結石除去術	4
	ピンハンマー式尿路結石破砕術	2
その他	経尿道的電気凝固術	1
	経皮的腎（腎盂）瘻造設術	9
	経尿道的尿管ステント留置術	58
	経尿道的尿管ステント抜去術	13
	経尿道的尿管狭窄拡張術	2
	包茎手術（背面切開術）	1
	包茎手術（環状切除術）	1
	陰嚢水腫手術（その他）	2



	腎摘出術	1
	腎部分切除術	1
	麻酔下膀胱拡張術	1
	膀胱瘻造設術	1
	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	1
	腎瘻拡張術	1
	経皮的腎嚢胞穿刺術	1
	経皮的尿管拡張術	1
	試験開腹術	1
	尿管皮膚瘻造設術	2
	精巣摘出術	1
合 計		168

3. 研究業績

【学会発表】

女子尿道憩室の一例

門田千穂・西村和重・明利浩行（唐津赤十字病院 泌尿器科）

日本泌尿器科学会 第80回 佐賀地方会 2015.9.5

4. この一年の歩み

平成27年度の泌尿器科は常勤医師2名で診療をしてまいりました。患者さま一人ひとりの身体的、精神的状況に合わせた治療を行なっております。

佐賀県北部地区の地域支援病院として、尿路性器悪性腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石、感染症を主に治療しております。

地域の前立腺検診と連携し、PSA検査により前立腺癌の早期発見に努めております。結石の治療では、ESWLをはじめ内視鏡的摘出術を積極的に進めてきました。

また、地域医療連携に努めており、地域の連携医療機関から多くの患者さまを紹介いただいております。



産婦人科

1. スタッフ紹介（平成 27 年 3 月 31 日現在）

部長 萩尾洋介 昭和 54 年卒 日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医師

医師 小野剛史 平成 19 年卒 日本産科婦人科学会専門医

徳永真梨子 平成 23 年卒 日本産科婦人科学会

2. 臨床業績（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

<分娩統計>

分娩数	帝王切開	70
	経膈分娩	70
	合計	140

<手術統計>

(1) 産科手術

帝王切開術	70
シロツカー式子宮頸管縫縮術	1
膈壁血腫除去術	3
異所性妊娠	
腹腔鏡下卵管切除術	3
腹式卵管切除術	4
合計	81

(2) 婦人科手術

卵巢癌根治術	3
単純子宮全摘術	38
膈上部切断術	3
子宮筋腫核出術	3
付属器摘出術	14
卵巢囊腫核出術	6
卵管切除術	2
腹腔鏡補助下卵巢囊腫核出術	3



後腹膜腫瘍摘出術	1
試験開腹術	2
外陰切除術	1
腔式子宮全摘術	7
マンチェスター術	3
膣壁形成術	3
膣閉鎖術	3
円錐切除術	24
子宮頸部切断術	1
バルトリン腺嚢胞造袋術	3
尖圭コンジローマ蒸散術	1
子宮筋腫分娩捻除術	1
合計	122

3. 研究業績

<学会・講演など> 口述

1) 「産婦人科悪性腫瘍脳転移症例の検討」

萩尾洋介、徳永真梨子、小野剛史

平成 27 年 12 月 12 日、第 213 回佐賀産科婦人科学会学術研修会

佐賀県医師会成人病予防センター(佐賀市)

4. この 1 年のあゆみ

ハイリスク妊娠症例のご紹介が増加傾向にあり、分娩数や帝王切開数が増加傾向にあります。婦人科手術も様々な疾患に対し、症例にあわせて多種多様な手術を行いました。



眼科

1. スタッフ紹介（平成 27 年 3 月 31 日現在）

部長医師 木村 篤仁 昭和 58 年卒

医師 藤田 秀昭 平成 20 年卒

医師 上野 智弘 平成 23 年卒

視機能訓練士 萩原智恵

視機能訓練士 松尾由貴

2. 臨床業績（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

手術症例（手術室を用いた症例数）総数は、613 例 となります。

白内障手術(眼内レンズ挿入等も含む)	427
水晶体嚢内摘出	5
翼状片手術	13
抗 VEGF 注射	114
緑内障手術(トラベクトミー トラベクロトミー チューブシャント手術含む)	17
濾過胞再建術(ニードリング手術)	6
内反症手術	6
眼瞼下垂手術	6
眼内レンズ二次移植	3
硝子体手術	4
球結膜手術	2
穿孔性眼外傷手術	4
眼球摘出	1
眼窩内腫瘍摘出	2
前房内異物摘出	1

合計手術件数は、623 件

同一症例にて同時手術等を行っていますので症例数と手術件数とは、若干の数字に違いが出ていますのは、その為です。

以上です。

3.この一年の歩み

まずは、人事の変貌からご紹介とします。部長は、木村篤仁が勤めております。他医師 2 名は、藤田秀昭 先生と 2015 年 3 月 31 日をもって退職された大門先生に変わり、福岡大学眼科医局より 2015 年 4 月 1 日上野智弘 先生が赴任となりました。前年、大門先生が赴



任される前は、二人体制でありまして、その後も三人体制を維持できた年でありました。ORTの視機能訓練士の先生の異動等はなく、萩原先生と松尾先生のメンバーにて行っております。この年の一年間は、手術件数等は、後でのべますが、あいかわらず白内障手術が多くそれ以外にも緑内障手術にも少し変化があり力を入れた形となった年です。緑内障の手術方式にて従来からあった手術方法ではありますが新しいツールが使用できるようになり、ニードリングの手術を行う機会が増えました。難治の白内障手術に際して前嚢を染色して行う方法がそのシステム等の改善もあり使用しやすくなった年でもあります。また、抗VEGF治療の適応拡大もあり、対応症例の増加、また白内障の外来手術が少し増加でしました。地域の先生方との連携の会にて、2015年6月26日金曜日 唐津眼科病診連携の会にて◇気になる症例シリーズとして地域先生方からご紹介のあった症例の経過報告にて①急性前部ブドウ膜炎症例2例 ②当科の出血性緑内障に対するアプローチ例を報告させていただきました。また、当科での特徴でもある。緑内障の取り組みのひとつとして◇改善する視野を求めて視野解析ソフトEye suite からみた緑内障点眼液 を報告させてもらいました。

平成28年1月15日には、ドライアイ勉強会を伊藤医院にて眼科をご開業しながら、東京大学臨床教授 慶応義塾大学眼科講師とご活躍のマイボグラフィーで有名な有田先生を講師としてメーカーのご協力もあり講演会と楽しい時間を過ごしました。地域の先生とともに医療情報を共有できたのは、良かったと思います。

この年は、来年度に移転となるため病院の変革の前年度であり、新病院にあたり電子カルテ化の本格的導入もあり、いままでの仕事内容を検討していく作業も入り雑用に追われた一年でもあります。新病院移転に伴い、各病棟の構成も変化する為、眼科は、現在の内科・整形外科・泌尿器科・眼科の混合病棟体制から脳神経外科・腎内科・眼科の混合病棟へと変わります。この為新病棟での看護スタッフとの打ち合わせ・勉強会を2月よりスタートして上野先生には大変尽力いただきました。

他に いままでどおり、月に一回ではありますが福岡大学病院 眼科外来にて緑内障専門外来に臨床教授として参加させていただき、大学病院眼科との交流を継続しております。



放射線科

1. スタッフ紹介

部長 眞武 邦茂	平成 6 年卒	日本医学放射線学会・専門医 指導医 日本インターベンショナルラジオロジー学会 専門医 日本脈管学会 専門医 検診マンモグラフィ読影 認定医 腹部大動脈ステントグラフト 実施医
高橋 行彦	平成 14 年卒	日本医学放射線学会・専門医 指導医 本消化器内視鏡学会
前村 大将	平成 23 年卒	日本医学放射線学会 日本インターベンショナルラジオロジー学会

2. 臨床業績

C T ; 11939 件、 MR I ; 6156 件、 R I ; 419 件
血管造影 ; 131 件、 放射線治療 ; 165 件、 消化管検査 ; 1607 件

3. 研究業績

学会・研究会発表

1) 持続する喘鳴を呈した重複大動脈弓(血管輪)の 2 例

唐津赤十字病院 放射線科 前村大将、高橋行彦、眞武邦茂
小児科 辻功介

佐賀県医療センター好生館 放射線科 川野倫作、相部仁
小児科 浦島真由美、一ノ瀬文男、西村真二

第 181 回日本医学放射線学会九州地方会 2015. 7. 11-12 別府市

2) ループス腸炎の 1 例

高橋 行彦

第 251 回唐津東松浦消化器研究会 平成 27 年 7 月 21 日 唐津市

3) S 状結腸癌と鑑別を要した、魚骨による炎症性変化の 1 例』

前村 大将

第 253 回唐津東松浦消化器研究会 平成 27 年 11 月 30 日 (火)

4) ミニレクチャー

『下部消化管の X 線診断』

唐津赤十字病院 放射線科 眞武 邦茂

第 253 回唐津東松浦消化器研究会 平成 27 年 11 月 30 日 (火)



5) 上腸間膜静脈閉塞により急性腹症を来した1例

前村 大将

第255回唐津東松浦消化器研究会 平成28年3月15日(火)

6) 好生館での経験に基づく下肢動脈ハイブリット血行再建術の検討

前村 大将

九大放射線科医局早起き会 2015.9.15 福岡市

7) 術前CTでの深部静脈血栓症スクリーニングについての検討

高橋 行彦

九大放射線科医局早起き会 2015.12.1 福岡市

8) 両側鎖骨下動脈狭窄に対し、stent留置を行い、術後穿刺部仮性動脈瘤を生じた一例

唐津赤十字病院 放射線科

真武 邦茂 前村 大将 高橋 行彦

佐賀県医療センター好生館 放射線科 川野 倫作 相部 仁

第19回 福岡IVRカンファレンス 平成27年7月24日 福岡市

9) 「重症下肢虚血に対するEVTの1例」

唐津赤十字病院 放射線科 真武邦茂、前村大将、高橋行彦

第20回 福岡IVRカンファレンス 平成27年9月25日 福岡市

10) 「長時間を要したアスペルギローマ術前塞栓術の1例」

唐津赤十字病院 放射線科 真武邦茂、前村大将、高橋行彦

第21回 福岡IVRカンファレンス 平成27年11月27日 福岡市

4. この1年の歩み

11年半にわたって当病院を支えてきた林部長に代わり、真武が赴任した。また中島医師から前村医師に交代した。

従来の画像診断、IVR、放射線治療を踏襲しつつ、末梢血管の血行再建術も積極的に行うようになった。



麻酔科

1. スタッフ紹介

部長	検見崎 裕	麻酔指導医 福岡大学臨床教授 日本麻酔科学会会員 日本ペインクリニック学会会員
副部長	白武 孝久	麻酔専門医 日本麻酔科学会会員 日本臨床麻酔学会会員
医師	嘉手川 繁登	麻酔認定医 日本麻酔科学会会員
非常勤医師	中森 絵里砂	4月1日から9月30日
	大川 人豪	4月1日から9月30日
	吉本 如良	4月1日から3月31日
	郷原 的	10月1日から10月31日
	熊野 仁美	10月1日から1月31日
	内山 夏希	11月1日から3月31日
	外山 恵美子	2月1日から3月31日
	内山 夏希	11月1日から3月31日

2. 臨床業績 27年度

麻酔科担当症例総数	1518 例
全身麻酔	389 例
全身麻酔＋硬、脊、伝	940 例
硬膜外麻酔	14 例
脊椎くも膜下麻酔	77 例
脊椎くも膜下硬膜外併用麻酔	76 例
伝達麻酔	8 例
その他	14 例

3. 研究業績

6月13日(土) 福岡局所麻酔研究会

高度心機能低下を合併した透析患者の CAPD チューブ抜去術の麻酔管理で
腹直筋鞘ブロックが有用であった一例

発表者 検見崎 裕

12月19日(土) 福岡麻酔科学セミナー

クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群患者に対する乳房切除術の麻酔経験

発表者 検見崎 裕

4. この一年の歩み

手術麻酔症例総数は昨年度の 1498 例より 20 例増加し 1518 例であった。

非常勤医師の派遣を前年度と同様に週 3 日、午後より福岡大学麻酔科に依頼した。

多忙であったが、特に問題なく経過した。



救急科

1. スタッフ紹介

部 長 中島 厚士

副部長 藤田 亮

吉武 邦将

2. 臨床業績

救命救急センター 年間重篤患者数（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

番号	疾病名	基準(基準を満たすもののみ数えること)	患者数 (人)	退院・転院 (転棟を含む) (人)	死亡 (人)
1	病院外心停止	病院前心拍再開例、外来での死亡確認例を含む	88	8	80
2	重症急性冠症候群	切迫心筋梗塞、急性心筋梗塞又は緊急冠動脈カテーテル施行例	56	52	4
3	重症大動脈疾患	急性大動脈解離又は大動脈瘤破裂	11	9	2
4	重症脳血管障害	来院時 JCS 100 以上、開頭術、血管内手術施行例又は tPA 療法施行症例	72	51	21
5	重症外傷	Max AIS が 3 以上又は緊急手術施行例	249	238	11
6	重症熱傷	Artz の基準による	5	5	0
7	重症急性中毒	来院時 JCS 100 以上又は血液浄化法施行例	7	7	0
8	重症消化管出血	緊急内視鏡施行例	57	55	2
9	重症敗血症	感染性 SIRS で臓器不全、組織低灌流又は低血圧を呈する例	10	6	4
10	重症体温異常	熱中症又は偶発性低体温症で臓器不全を呈する例	1	0	1
11	特殊感染症	ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風等	1	0	1
12	重症呼吸不全	人工呼吸器管理症例(1から11までを除く。)	20	12	8
13	重症急性心不全	人工呼吸器管理症例又は Swan-Ganz カテーテル、PCPS 若しくは IABP 使用症例(1から11までを除く。)	14	10	4



14	重症出血性ショック	24 時間以内に 10 単位以上の輸血必要例(1から11までを除く。)	0	0	0
15	重症意識障害	JCS 100 以上が 24 時間以上持続(1から11までを除く。)	2	2	0
16	重篤な肝不全	血漿交換又は血液浄化療法施行例(1から11までを除く。)	0	0	0
17	重篤な急性腎不全	血液浄化療法施行例(1から11までを除く。)	4	3	1
18	その他の重症病態	重症肺炎、内分泌クリーゼ、溶血性尿毒症性症候群などで持続動注療法、血漿交換又は手術療法を実施した症例(1から17までを除く。)	61	56	6
合計 (評価の「10. 年間重篤患者数」) →			658	513	145

3.研究業績

【学会発表】

- 腎機能の保たれた下部消化管狭窄病変に合併した高マグネシウム血症の 1 例
吉武邦将
日本救急医学会総会（15 年 10 月 東京）
- 二度にわたる市販薬の大量服薬にて異なる形のタコツボ型心筋症を発症した一例
中島厚士
日本救急医学会総会（15 年 10 月 東京）
- Septic shock を契機に発見された急性骨髄性白血病の一例
藤田 亮
日本集中治療医学会学術集会（16 年 2 月 神戸）

【座長】

第 19 回日本救急医学会九州地方会（15 年 5 月）

【消防関係】

佐賀県 MC 作業部会

佐賀県 MC 協議会

救急救命士病院実習指導

救急救命士九州研修所学生実習指導

【ドクターヘリ】

佐賀県ドクターヘリ運航調整委員会



4.この1年の歩み

吉武先生が離島診療を終えられ、当院の救命センターで働いてくれることとなりました。
また藤田先生が唐津へ復帰され、心強い限りです。人員が増え、月に数回佐賀県ドクターヘリへの搭乗も行えるようになりました。佐賀大学高度救命センターへ吉武先生が1か月研修に行き、大学の後期研修医が当院へ2か月研修に来られました。
これからもさらに一層診療に励んできたいと思います。



形成外科

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

非常勤 高木 誠司 （福岡大学 形成外科より）（第 1 週以外の水曜日）
非常勤 有吉 瑞葉 （福岡大学 形成外科より）（第 1 週の水曜日）

2. 臨床業績（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

手術室での手術症例数 15 例 （形成外科の症例 8、他科の症例 7）

3. この 1 年の歩み

引き続き、毎週水曜日の午前中の中のみの診療です。外来では、近隣の産婦人科や小児科から小児形成外科疾患の症例を御紹介されることが増えてきた印象です。手術では、形成外科疾患で全身麻酔を要する症例は、基本的には「手術は福岡大学病院で、術後フォローは唐津日赤で、」としております。本年度は他科からの御相談を受け手術を行ったものが 7 例ありました。そのうち 6 例は難治性潰瘍・縫合不全の症例で、幸いにもいずれも順調に創治癒を果たしました。体表創傷外科の専門医として諸科の御期待に応えられたかな、と感じております。

なんでも気軽に相談できる形成外科を心がけていますので、次年度も引き続きどうぞよろしくお願い致します。



2. 薬剤部

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

薬剤部長 湯ノ谷誠二 【副院長】

薬剤課長 岩田 和弥（平成 8 年九州大学卒）
 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
 日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師
 日本薬剤師研修センター認定薬剤師
 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
 日本静脈経腸栄養学会 N S T 専門薬剤師
 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト

調剤係長 中村 栄子（平成 2 年福岡大学卒）
 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
 日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師
 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
 糖尿病薬物療法准認定薬剤師
 介護支援専門員資格取得薬剤師
 佐賀県肝炎コーディネーター

製剤係長 青山 敦子（平成 6 年長崎大学卒）
 日本病院薬剤師会認定薬剤師
 日本静脈経腸栄養学会 N S T 専門薬剤師
 佐賀県肝炎コーディネーター

木下 智広（平成 19 年九州大学卒 平成 21 年同修士）
 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
 がん薬物療法認定薬剤師
 寺田 麻弥（平成 21 年九州保健福祉大学卒）
 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
 宮崎 裕士（平成 18 年京都薬科大学卒）
 日本病院薬剤師会認定薬剤師
 佐賀県肝炎コーディネーター
 坂本亜佐子（平成 18 年九州大学卒）
 日本病院薬剤師会認定薬剤師
 横田 智也（平成 25 年広島国際大学卒）
 日本病院薬剤師会認定薬剤師
 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト
 光瀬佳奈子（平成 25 年長崎国際大学卒）
 日本病院薬剤師会認定薬剤師
 田渕 友梨（平成 25 年同志社女子大学卒）
 日本病院薬剤師会認定薬剤師
 柳原 佑美（平成 27 年同志社女子大学卒）
 岩崎 集平（平成 26 年長崎国際大学卒）

常勤嘱託事務員
 川添 淳子 【薬剤部業務補助】
 井本 鼓 【薬剤部業務補助】



2. 臨床業績（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

【処方箋枚数】

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
処 方 箋	5,170	4,633	4,918	4,750	4,749	5,192	5,010	5,074	5,011	4,957	5,135	5,247	59,846
注 射 箋	4,955	4,630	4,687	4,829	4,622	4,871	5,285	4,835	5,146	4,839	4,645	4,800	58,144
麻 薬 処 方 箋	139	78	90	116	156	162	90	120	95	81	67	88	1,282
麻 薬 注 射 箋	242	267	255	272	239	248	258	182	190	221	249	246	2,869

外 来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
処 方 箋	492	537	583	591	614	563	540	563	580	593	777	678	7,111
注 射 箋	1,341	1,127	1,416	1,353	1,296	1,271	1,236	1,238	1,281	1,190	1,204	1,259	15,212
院 外 処 方 箋	4,944	4,455	5,121	5,035	4,874	4,886	5,047	4,730	5,024	4,580	5,030	5,462	59,188
院 外 発 行 率	90.9%	89.2%	89.8%	89.5%	88.8%	89.7%	90.3%	89.4%	89.7%	88.5%	86.6%	89.0%	89.3%

【調剤技術基本料】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入 院 件 数	34	32	37	37	38	27	34	33	33	35	28	31	399
外 来 件 数	136	173	187	193	226	184	174	181	180	192	311	240	2,377

【薬剤情報提供料】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
外 来 提 供 件 数	180	229	235	241	286	238	214	232	237	244	411	300	3,047

【持参薬鑑別業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
薬 剤 鑑 別 依 頼 人 数	243	192	252	250	243	257	241	261	202	234	241	274	2,890
薬 剤 鑑 別 依 頼 数	1,824	1,567	1,975	1,964	1,690	1,871	1,770	2,007	1,540	1,726	1,812	1,989	21,735

【調剤済薬剤支援業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
調 剤 支 援 実 施 人 数	122	107	133	134	127	142	120	150	129	139	126	135	1,564

【無菌調製業務】

抗 癌 剤	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入 院 調 製 本 数	236	220	271	223	217	248	244	234	195	219	212	250	2,769
外 来 調 製 本 数	320	265	418	367	350	345	298	306	305	294	295	319	3,882

T P N 製 剤	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入 院 調 製 本 数	9	3	26	13	12	2	15	6	44	16	0	4	150

そ の 他 製 剤	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入 院 調 製 本 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
外 来 調 製 本 数	9	9	9	10	7	11	9	9	8	5	7	8	101

【薬剤管理指導業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
実 施 回 数	402	332	373	367	355	364	404	340	446	356	441	431	4,611

【輸血用血液管理業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
血 液 取 扱 い 本 数	151	120	119	109	150	163	197	162	140	127	149	142	1,729

【佐賀県血液センター委託業務】（唐津・東松浦地区医療圏緊急時血液配送事業）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
配 送 件 数	39	36	47	43	30	41	41	56	49	40	41	43	506



3. 研究業績

【学会発表】

- 1) 口腔粘膜吸収性フェンタニルの使用調査と適正使用のための活動
○坂本 亜佐子
第9回日本緩和医療薬学会年会 2015. 10. 3 神奈川
- 2) HBV 再活性化対策への取り組みとその評価
○中村 栄子
第51回日本赤十字社医学会総会 2015. 10. 16 北海道
- 3) 持参薬鑑別報告書を利用した糖尿病治療への介入
○中村 栄子
第25回日本医療薬学会年会 2015. 11. 22 神奈川

【研修会発表】

- 1) 唐津赤十字病院薬剤部でのバランススコアカード (BSC) への取り組み
○岩田 和弥 上田 麻弥 青山 敦子
平成27年度日赤九州ブロック薬剤師研修会 2015. 7. 18 福岡
- 2) 口腔粘膜吸収性フェンタニルの使用調査と適正使用のための活動
○坂本 亜佐子
平成27年度日赤九州ブロック薬剤師研修会 2015. 7. 18 福岡
- 3) リスクマネジメント～ヒューマンエラーについて～
○岩田 和弥
平成27年度佐賀県病院薬剤師会新採用薬剤師及び卒後教育研修会
2015. 11. 7 武雄
- 4) 調剤事故防止研修会～ヒューマンエラーについて～
○岩田 和弥
平成27年度唐津東松浦薬剤師会研修会 2016. 2. 15 唐津
- 5) 当院におけるレナリドミドカプセルの使用状況調査
○木下 智広
佐賀県病院薬剤師会第5回オンコロジー研修会 2016. 3. 6 佐賀
- 6) HBV 再活性化対策への取り組みとその評価
○中村 栄子
佐賀県病院薬剤師会学術講演会 2016. 3. 19 伊万里

【その他】

- 1) 座長
○岩田 和弥
唐津東松浦薬剤師会学術研修会 2015. 5. 29 唐津

4. この一年の歩み

この一年、下記の基本柱を念頭に、病院薬剤師職能の充実に努めつつ、病棟薬剤業務の拡大に向けた業務転換の足掛かりを作る努力をしました。



- 1) 医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進
- 2) 人材の育成・確保
- 3) 病棟薬剤業務の拡大

- ① チーム医療の充実にに向けた取り組みに対し、専門の認定薬剤師取得とともに、チーム内における薬剤師存在意義の確立を求め、個人としての向上心を求めました。平成 27 年度はがん薬物療法認定薬剤師 1 名、糖尿病薬物療法准認定薬剤師 1 名の認定資格者が誕生しました。
- ② 患者に安全かつ安心して薬物療法を受けてもらうために、入院中の服薬指導から退院時服薬指導まで、その内容の充実に努めてきました。退院時指導については、入院中の服用薬剤の確認並びに退院時処方との関連性について説明し、患者が居宅においても安心して薬物治療に臨めるように可能な限りの情報提供を行ってきました。
- ③ 近年、専門・認定薬剤師の取得・継続が早急の課題となっており、病棟薬剤業務を開始するためにも薬剤師を途切れることなく配置できる体制を整える必要があります。薬剤師の確保への取り組みとしては、薬学部生奨学金制度を平成 24 年度から開始しています。平成 27 年度は唐津東高校出身の薬学部 1 年生 2 名に対して、新たに奨学金の付与を決定しました。平成 28 年 3 月 31 日現在、合計 3 名の薬学部生に奨学金を付与しています。
- ④ 平成 27 年度の薬剤部には 2 名の認定実務実習指導薬剤師が在籍しました。薬学部 5 年生に対する長期実務実習（2.5 ヶ月）については、平成 27 年度は 2 名（1 期 1 名、2 期 1 名）の実習指導を行いました。
- ⑤ 平成 26 年 6 月から 5 階病棟での薬剤師常駐制を開始し、入院時の初回面談や持参薬の確認、退院時処方の確認や日数調整などを中心とした業務を行っています。平成 27 年度はさらに南 3 階病棟での薬剤師常駐制を平成 28 年 1 月より開始しました。今後さらに病棟を拡大し、全病棟薬剤師常駐制へ向けて業務を展開していく予定です。

最後に、病院薬剤師は、臨床薬剤師として他の医療スタッフから様々な期待をされています。その期待に応えるべく、個々のさらなる資質向上を目指していきたいと考えています。



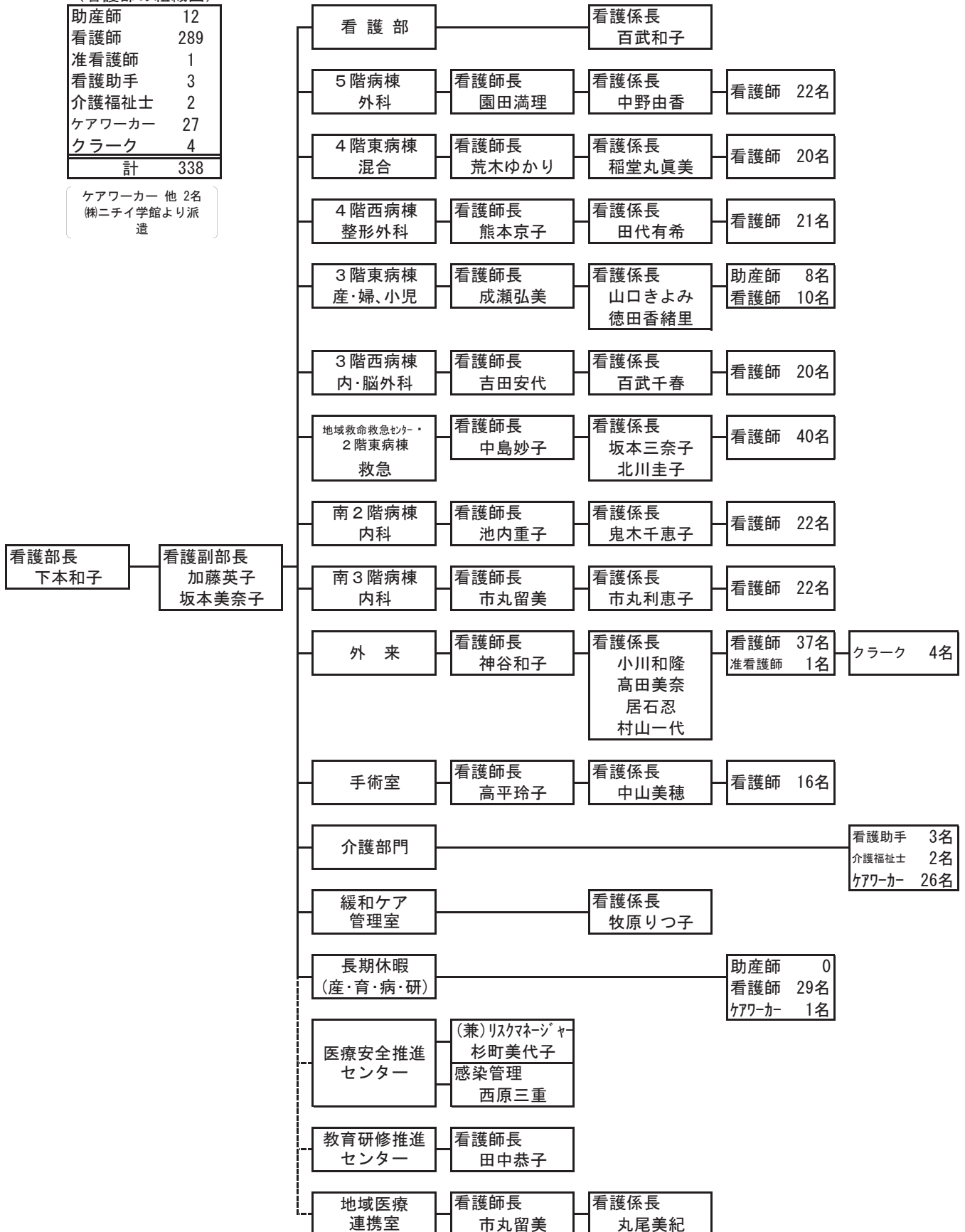
3. 看護部

1. スタッフ紹介（平成28年 3月 31日現在）

（看護部の組織図）

助産師	12
看護師	289
准看護師	1
看護助手	3
介護福祉士	2
ケアワーカー	27
クラーク	4
計	338

ケアワーカー 他 2名
（兼）ニチイ学館より派遣





2. 研修業績（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

1) 院内看護部研修

No.	日 時	テーマ・内容	講師・担当
1	4 月 8 日～3 日間・27 日	看護部オリエンテーション・看護技術研修	看護部・看護係長
2	4 月 25 日	看護診断NANDA-I 研修	神奈川歯科大学短期大学看護学部准教授棚橋泰之先生
3	5 月 11 日	第 1 回認定看護師研修会 「呼吸器ケア①」	市丸利恵子
4	5 月 27 日	管理補佐研修会 I	看護部
5	6 月 1 日	第 2 回認定看護師研修会 「窒息・誤嚥時の看護」	岩崎里恵
6	6 月 12 日	新人支援スタッフ研修会 II	看護部教育委員会
7	6 月 24 日	コーチング研修会	日本看護キャリア開発センター 江藤節代先生
8	6 月 30 日	新採用者 3 ヶ月研修会<臨床研修のまとめ>	看護部 坂本美奈子
9	7 月 6 日	第 3 回認定看護師研修会「インスリン療法と低血糖」	坂本三奈子
10	7 月 9 日	新採用者 4 ヶ月研修	看護部教育委員会
11	8 月 3 日	第 4 回認定看護師研修会「がん化学療法看護の基礎」	藤田直子
12	8 月 7 日～3 日間	赤十字救急法研修	赤十字救急法指導員
13	8 月 17 日	エンゼルケア勉強会	緩和ケアリンクナース委員
14	8 月 27 日	新採用者看護技術フォローアップ研修	看護副部長・看護係長
15	8 月 31 日	看護部医療制度勉強会	看護部企画 医事課長講師
16	9 月 2 日	新採用者 6 ヶ月研修	看護部教育委員会
17	9 月 7 日～9 月 15 日	急性・周術期看護研修 II	看護部教育委員会
18	9 月 7 日	第 5 回認定看護師研修会 「呼吸ケア②体位ドレナージ・吸引」	市丸利恵子
19	9 月 11 日、9 月 25 日	PNS 研修会	PNS プロジェクト委員会
20	10 月 5 日	第 6 回認定看護師研修会 「せん妄ケア」	牧原りつ子
21	10 月 14 日	PNS 研修会	PNS プロジェクト委員会
22	10 月 16・17 日	災害看護論研修	赤十字プロジェクト委員会
23	10 月 21 日	管理補佐研修 II	看護部
24	10 月 22 日	新採用者 7 ヶ月研修	看護部教育委員会
25	11 月 2 日	第 7 回認定看護師研修会 「感染対策の基礎を学ぼう」	西原三重
26	11 月 7 日	こころのケア研修	赤十字プロジェクト委員会
27	12 月 1 日	スキン・ケア勉強会 「スキン・ケアの予防と管理」	百武和子
28	12 月 7 日	第 8 回認定看護師研修会「ストーマケア」～事例を通して	百武和子



29	12月21日	新採用者9ヶ月研修「看取りのケア」	牧原りつ子
30	1月23日	ケーススタディ発表会	看護部教育委員会
31	2月1日	第10回認定看護師研修会「呼吸ケア③人工呼吸」	市丸利恵子
32	3月18日	新採用者12ヶ月研修	看護部 坂本美奈子
33	3月23日	新人支援スタッフ研修会Ⅰ	看護部教育委員会
34	3月29日	平成28年度新採用看護師事前研修会	看護部 坂本美奈子

2) 院外短期研修

No.	日 時	名 称	参加者
1	4月16日	佐看協)看護研究Ⅰ研修会	4名
2	5月7日	佐看協)看護研究Ⅱ研修会	8名
3	5月8日5月9日	第4回佐賀県排泄管理研修会〔浜松市〕	1名
4	5月19日	佐看協)チームリーダーとしての知識と役割研修会	2名
5	5月21日	佐看協)認知症患者の看護研修会	2名
6	5月23日	佐看協)小児救急看護研修会	1名
7	5月24日	佐看協)PNS研修会	16名
8	5月25日	佐看協)いきいきと働くためのメンタルヘルスケア研修会	1名
9	5月30日	第1回訪問看護師及び退院支援看護師のための研修会	3名
10	6月13日	佐看協)助産師実践能力習熟段階(助産ケアと倫理)研修会	3名
11	6月14日	重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修	8名
12	6月20日～6月22日	こころのケア指導者養成研修会〔本社〕	1名
13	7月1日	佐看協)労働者として知っておきたい労働基準の知識研修	1名
14	7月6日	佐看協)助産師実践能力習熟段階ステップアップ研修 助産師のキャリアパス・クリニカルリーダーの基礎的理解	2名
15	7月6日	特定行為看護師説明会〔福岡厚生局〕	1名
16	7月6日～7月8日	PNS研修〔福井大学〕	4名
17	7月7日	佐看協)がん化学療法看護の基礎研修会	3名
18	7月11日	第1回日本赤十字社緊急度判定支援システム「JTASプロバイダーコース」〔名古屋第二赤十字病院〕	1名
19	7月15日	佐看協)助産実践能力習熟段階レベルⅢ認証申請のための必須研修③・④・⑤	2名
20	7月15日	佐看協)助産実践能力習熟段階(出血時の対応)	2名
21	7月22日	佐看協)助産実践能力習熟段階レベルⅢ認証申請必須研修①・②	2名
22	7月22日～7月23日	赤十字医療施設研修責任者研修会〔本社〕	1名
23	8月20日	佐看協)看護倫理～ジレンマとどう向き合うか～研修会	2名
24	8月20日8月21日	自衛消防隊員研修〔福岡〕	1名
25	9月10日	佐看協)NSTにおける看護師の役割研修会	1名
26	9月12日～9月19日	熊本赤十字主催ヨーロッパ視察研修	1名



27	9月14日～9月18日	九州ブロック看護師長研修 [熊本赤十字]	1名
28	9月28日～10月2日	九州ブロック看護師長研修 [大分赤十字]	1名
29	9月29日～9月30日	佐看協)佐賀県がん看護研修会	7名
30	10月5日	佐看協)医療安全管理者研修コース集合教育公開講座	7名
31	10月8日～10月9日、 10月20日	新人看護職員等集合研修事業教育担当者研修会	1名
32	10月16日	日赤佐賀支部管内施設合同広報研修会 [佐賀県支部]	2名
33	10月27日～28日	佐看協)佐賀県がん看護研修会	7名
34	10月29日	佐看協)人工呼吸器装着患者の看護研修	6名
35	11月11日	佐看協)感染対策の基礎研修会	5名
36	11月13日 11月27日	新人看護職員等集合研修事業教育担当者研修会	1名
37	11月17日	佐看協)佐賀県がん看護研修会	7名
38	11月21日	九州ブロック認定看護師研修会 [長崎原爆病院]	4名
39	11月25日 11月26日	赤十字医療施設中間管理者研修会 [本社]	1名
40	11月28日	赤十字医療施設九州ブロック看護管理者研修会 [福岡]	12名
41	11月28日	「看護師に対する緩和ケア教育」の指導者研修 [神戸]	1名
42	11月28日	健康生活支援講習・幼児安全法指導員伝達研修会	3名
43	1月13日	唐津東松浦地区自殺対策（かかりつけ医療連携推進）研修会 「救急・一般医療機関における自殺予防対策について」	3名
44	2月12日	2016年診療報酬改定の詳細解説と完全算定に向け急がれる準備と対応策研修	1名
45	2月18日	学会認定・臨床輸血看護師制度平成27年度施設研修	1名
46	2月27日～2月28日	赤十字幼児安全法新任指導員研修会 [佐賀県支部]	1名
47	2月29日	学会認定・臨床輸血看護師制度平成27年度施設研修	1名
48	3月3日～3月5日	第27回九州ストーリーマリハビリテーション講習会 [佐賀大学セミナーハウス]	1名
49	3月5日	佐賀県災害医療従事者研修会（総合基本コース）	1名
50	3月15日	佐看協)診療報酬改定説明会	2名

3) 院外長期研修

No.	期間	名 称	氏 名
1	平成27年6月1日～ 平成27年11月30日	がん放射線療法認定看護師教育課程	佐藤真美
2	平成27年6月1日～ 平成27年12月27日	救急看護認定看護師教育課程	坂本聡
3	平成27年9月1日～ 平成28年3月11日	感染管理認定看護師教育課程	中山美穂
4	平成27年5月29日 ～ 平成27年12月11日	佐看協) 認定看護管理者教育課程ファーストレベル	徳田香緒里 熊本弘美



4) 学会

No.	日 時	名 称	氏名
1	6 月 12 日 6 月 13 日	第 17 回日本医療マネジメント学会	坂本美奈子
2	6 月 19 日 6 月 20 日	第 20 回日本緩和医療学会	牧原りつ子
3	7 月 11 日 7 月 12 日	第 7 回日本下肢救済・足病学会	坂本三奈子・吉田のぞみ
4	8 月 6 日 8 月 7 日	第 46 回日本看護学会〈看護教育〉	平尾和恵・佐々木瑞穂
5	8 月 28 日 8 月 29 日	第 19 回日本看護管理学会	加藤英子・増本智子
6	9 月 1 日	日本看護サミット 2015 [東京]	坂本美奈子・熊本京子
7	9 月 2 日 9 月 3 日	第 46 回日本看護学会〈慢性期看護〉	江島沙織・木下紗希
8	9 月 8 日 9 月 9 日	第 46 回日本看護学会〈看護管理〉	下本和子・田中恭子・神谷和子
9	9 月 11 日 9 月 12 日	第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会	岩崎里恵
10	9 月 21 日 9 月 22 日	日本糖尿病教育 看護学会	坂本三奈子・諸岡智子
11	9 月 26 日	第 4 回日本下肢救済・足病学会 九州・沖縄地方会学術集会「フットケア実技広場」	吉田のぞみ
12	9 月 26 日	第 31 回九州ストーマリハビリテーション研究会	山口瑞貴・百武和子
13	9 月 29 日 9 月 30 日	日本看護学会〈急性期看護〉[愛媛]	市丸美恵子・谷口友梨
14	10 月 2 日 10 月 3 日	日本看護学会〈在宅看護〉[名古屋]	井上雅美
15	10 月 15 日 10 月 16 日	第 51 回日本赤十字社医学会総会 [北海道]	市丸留美・藤田直子 岩崎里恵・堤絹江
16	11 月 5 日 11 月 7 日	第 46 回日本看護学会ヘルスプロモーション	原田三保
17	11 月 20 日 11 月 21 日	九州医療マネジメント学会	下本和子
18	2 月 6 日	九州緩和ケア研究会第 1 回学術集会	牧原りつ子
19	2 月 6 日 2 月 7 日	日本フットケア学会 [神戸]	吉田のぞみ
20	2 月 20 日 2 月 21 日	第 30 回日本がん看護学会学術集会	古川悦子
21	2 月 27 日	日本医療マネジメント学会 第 14 回佐賀支部学術集会	下本和子 加藤英子 坂本美奈子田中恭子
22	3 月 12 日	佐賀県看護研究学会 [佐賀市民会館]	北原・米倉利・浪口(発表)

5) 救護班要員研修

No.	日 時	名 称	氏 名
1	7 月 4 日～7 月 6 日	全国赤十字救護班研修会 (指導スタッフ候補生として参加)	市丸留美
2	9 月 26 日～9 月 27 日	支部管内赤十字救護班要員研修会 [波戸岬少年自然の家]	1 班～3 班
3	12 月 21 日～12 月 22 日	第 3 回九州・沖縄ブロック DMA T 技能維持研修 [大分]	市丸留美・市丸利恵子
4	1 月 9 日～1 月 11 日	第 4 回全国赤十字救護班研修会 [石巻]	小川和隆



6) 訓練

No.	日 時	名 称	氏 名
1	5 月 17 日	国土交通省水防訓練 [小城市]	牧原りつこ・熊本弘美・濱本圭介
2	11 月 7 日～11 月 8 日	九州・沖縄ブロック DMAT 実働訓練	小川和隆
3	11 月 28 日	佐賀県原子力防災訓練	鬼木千恵子・田代有希・井上靖之
4	11 月 29 日～11 月 30 日	九州八県支部合同災害救護訓練	坂本三奈子・山下拓哉・木下紗希

7) 救護員派遣

No.	派遣日時	救護名 (派遣名)	氏 名
1	4 月 5 日	さが桜マラソン 2015	八木靖和・田中浩美
2	4 月 29 日	有田陶器市	伊藤良子
3	6 月 21 日	虹の松原トライアスロン	運転手のみ
4	7 月 19 日	第 63 回九州花火大会	山下拓哉・岡本綾香
5	9 月 6 日	第 68 回松浦地区青年相撲大会	中島ゆかり
6	10 月 26 日～11 月 27 日	福島県いわき市内に避難している浪江町民に対する健康調査支援事業の継続にかかる看護師派遣について	中村亜希子
7	1 月 31 日	第 69 回東西松浦駅伝大会	中島妙子
8	2 月 14 日	唐津 10 マイルロードレース大会	甲斐真奈美
9	3 月 27 日	第 26 回虹の松原カップ小学生駅伝大会	小山歩美

8) 講師派遣

No.	派遣日	派遣名	氏 名
1	4 月 25 日	佐賀県糖尿病コーディネート看護師育成研修会	江島沙織
2	5 月 29 日～5 月 30 日	認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修「看護管理概論」	加藤英子
3	7 月 3 日	いのちの教育 [唐津商業高校]	山口きよみ
4	7 月 13 日	いのちの教育 [西唐津中学校]	松本利久子
5	9 月 15 日	佐看協) 基礎から学ぶ糖尿病看護研修会	坂本三奈子
6	10 月 8 日	新人看護職員等集合研修事業教育担当者研修会	坂本美奈子
7	10 月 20 日	唐津看護専門学校講義	下本和子
8	11 月 5 日	唐津看護専門学校講義	下本和子
9	11 月 6 日	いのちの教育 [七山小学校]	松本利久子
10	11 月 9 日	健康生活支援講習 [相知]	田中恭子
11	11 月 10 日	唐津看護専門学校講義	下本和子
12	11 月 11 日	佐賀県糖尿病コーディネート看護師育成・支援事業連絡会	吉田安代
13	11 月 20 日	アカデミー看護専門学校講義「災害看護」	中島妙子
14	11 月 24 日	いのちの教育 [海青中学校]	田中恭子
15	11 月 27 日	アカデミー看護専門学校講義「災害看護」	中島妙子
16	12 月 1 日	健康生活支援講習 [相知]	田中恭子・市丸留美



17	12月4日	アカデミー看護専門学校講義 「災害看護」	中島妙子
18	12月4日	いのちの教育 [玄海中学校]	北原利恵
19	12月9日	健康生活支援講習 [相知]	下本和子・市丸留美
20	12月11日	いのちの教育 [馬渡島小中学校]	田中恭子
21	12月17日	いのちの教育 [肥前中学校]	北原利恵
22	1月25日	第43回唐津糖尿病臨床カンファレンス	諸岡智子
23	2月17日	日本赤十字九州国際看護大学就職支援セミナー	木下紗希
24	2月20日～ 2月21日	Japan Endovascular Treatment Conference 2016	吉田のぞみ
25	2月26日	在宅介護施設スキンケア研修会	百武和子
26	3月4日	健康生活支援講習	市丸留美
27	3月5日	佐賀県糖尿病コーディネート看護師育成・支援事業第4回公開講座「広げよう糖尿病地域医療連携」	坂本三奈子

9) 院外活動

No.	日 時	名 称	氏 名
1	4月25日	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 [長崎]	西原三重
2	4月29日	マイナビ就職説明会 [福岡]	坂本美奈子・打越有希
3	5月20日	看護学校訪問 [佐賀・鳥栖]	加藤英子
4	6月2日	唐津・伊万里地区子育て支援地域サポート検討会 [唐津保健福祉事務所]	吉田智代
5	7月11日	マイナビ合同病院説明会 [福岡]	加藤英子
6	7月18日	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 [長崎]	西原三重
7	10月5日	インドネシア看護師病院訪問打合せ [九看大]	下本和子
8	11月8日	第6回唐津赤十字病院市民公開講座「もしその時が近づいたなら・・・」	牧原りつ子
9	11月11日	CRE 感染対策に係る岡山赤十字病院視察	加藤英子・西原三重・成瀬弘美
10	11月28日	日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会 [長崎]	西原三重
11	11月30日～12月1日	CRE 感染対策に係る旭川赤十字病院視察	加藤英子・西原三重・成瀬弘美
12	1月22日	赤十字医療施設九州ブロック継続教育システム推進者連絡会義 [大分赤十字病院]	田中恭子
13	2月17日	日本赤十字九州国際看護大学合同就職説明会	加藤英子・田中綾
14	3月17日	第2回唐津地区自殺対策実務者検討会 [唐津保健福祉事務所]	坂本三奈子
15	3月21日	ナース専科合同就職説明会 [福岡国際センター]	坂本美奈子・山本理香



10) その他

	日 時	名 称
1	4 月 17 日	看護学生インターンシップ (12 名)
2	5 月 13 日	看護学生インターンシップ (1 名)
3	5 月 14 日	看護の日イベント
4	5 月 19 日	九州国際看護大学フィールド体験実習 (12 名)
5	6 月 6 日	看護学生病院見学会 (3 名)
6	6 月 10 日	看護学生インターンシップ (2 名)
7	6 月 23 日～6 月 30 日	九州国際看護大学統合実習 (10 名)
8	7 月 14 日	看護学生病院見学会 (1 名)
9	7 月 15 日	平成 28 年度看護師採用試験 (推薦枠)
10	7 月 18 日	看護学生病院見学会 (4 名)
11	7 月 28 日	看護学生病院見学会 (2 名)
12	7 月 29 日	ふれあい看護体験 (12 名)
13	8 月 11 日	看護学生病院見学会 (4 名)
14	8 月 19 日	看護学生病院見学会 (2 名)
15	9 月 24 日	看護学生病院見学会 (1 名)
16	9 月 28 日～10 月 2 日	九州ブロック看護師長研修受け入れ 2 名 (長崎原爆・沖縄より)
17	9 月 29 日	看護学生病院見学会 (1 名)
18	10 月 8 日	インドネシア看護師病院訪問 (9 名)

3. この 1 年の歩み

今年も病院 B S C に基づき、看護部の B S C を作成し活動をおこなった。

平成 28 年 8 月に新築移転を控え、移転準備に向けて取り組んできた。その中で、看護体制について検討を行い、P N S 導入の準備をおこなった。まず福井大学において看護管理者 4 名が研修を受け、その後院内で集合研修を 3 回を行い、看護職員全員に周知した。11 月より 2 病棟で先行導入した。導入 1 月と 3 月のアンケート結果では、安心する、勤務終了が早くなったなど良い結果であった。平成 28 年度には全病棟導入の準備を行っている。

キャリア開発ラダーは、今年は管理者ラダー I レベル申請者が 6 名あった。

電子カルテに向けて N A N D A - I を導入することとなった。看護診断に関する調査では理解が不十分で不安も多く聞かれ、外部講師を招いて研修会をおこなった。

平成 27 年 5 月に C R E 院内感染が発生し、国立感染症センターをはじめ日本赤十字社や多くの医療機関からの支援を受けながら対策を講じた。設備改修や、P P E フォルダの設置を行い、カーットの整備、物品のディスポ化、整理整頓をおこなった。I C N と看護部と部署の看護師長 3 人で毎日ラウンドを実施して現場教育をおこなった。標準予防策の徹底を目指しているが、まだまだ対策強化が必要である。



4.医療技術部門

栄養課

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

栄養課長（兼係長）	池田 敦子
管理栄養士	高崎 桂子
管理栄養士	近藤 まゆ子
管理栄養士	伊東 優
調理師	木下 きよ
調理師	井上 正彦
調理師	北村 一政
調理師	三好 滋人

LEOC 委託 25 名（調理責任者 1 名 栄養士 4 名 調理師 8 名 調理員 4 名
食器洗浄員 8 名）

2. 臨床業績（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日）

栄養指導件数 343 件（入院患者 223 件 外来患者 120 件）
病棟訪問 389 名
栄養管理委員会 合計 4 回開催

3. 研究業績（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日）

研修会等

2015.4 唐津東松浦医師会学術講演会「CKD」

2015.5 佐賀医療連携懇話会

TNT - D 更新セミナー

佐賀 CDE 総会

2015.6 唐津医師・糖尿病療養合同カンファレンス・コーチング 2 回目

佐賀摂食嚥下研究会

佐賀県栄養士会総会

佐賀 NST 研究会

2015.7 唐津東松浦医師会学術集会

指導者のための栄養セミナー

2015.8 栄養士会研修会

佐賀県栄養士会・生涯学習

日赤栄養士会本社研修

栄養士会唐津支部研修会



- 2015.9 佐賀県栄養士会・生涯学習
医療安全九州ブロック研修会
- 2015.10 唐津医師・糖尿病療養合同カンファレンス・コーチング 3 回目
合同広報研修会
ウォークラリー小城
佐賀県栄養士会・生涯学習
- 2015.11 佐賀県栄養士会・生涯学習
日曜糖尿病教室
- 2015.12 佐賀県栄養士会・生涯学習
肝疾患医療支援学講座「サルビアの会」
- 2016.1 日赤栄養士会九州ブロック会議
- 2016.2 佐賀 NST 研究会
医療安全管理者養成研修会
佐賀県 CKD 対策医療従事者研修会
JSPEN 教育セミナー

4. この 1 年の歩み

献立では LEOC の調理責任者及び栄養士と毎月 1 回、献立ミーティングを継続して開催し改善を行ってきました。衛生管理では昼のミーティング時に食品の衛生についての勉強会を実施しました。栄養指導では勉強会を開催し指導用パンフレットの見直し、減塩についてのポスター掲示、栄養指導の患者向けチラシを配布しました。BSC の 27 年度目標にも挙げていた全体の栄養指導件数は目標値までには到達しませんでした、26 年度と比べ透析予防指導は増加しました。新病院建設に向けては、新栄養システム・温冷配膳車・備品類（調理器具、食器等）についての打合せを行ってきました。また、約束食事箋の改訂案の作成に取り組み、各診療部への相談及び南 3 階病棟の化学療法で入院中患者へのアンケートを実施しました。栄養管理委員会では温冷配膳車仕様、栄養指導報告（26 年度）、入院透析患者の配膳時間及び外来透析患者の食事の廃止、診療報酬改定（28 年度）について討議しました。



臨床工学技術課

1. スタッフ紹介(平成 28 年 3 月 31 日現在)

課長 加勢田 達矢
係長 小池 昭男
臨床工学技士 川村 晃
臨床工学技士 藤岡 涼

【認定および資格取得】

・ MD I C 認定士 4 名



藤岡

川村

小池

加勢田

2. 透析室業務実績

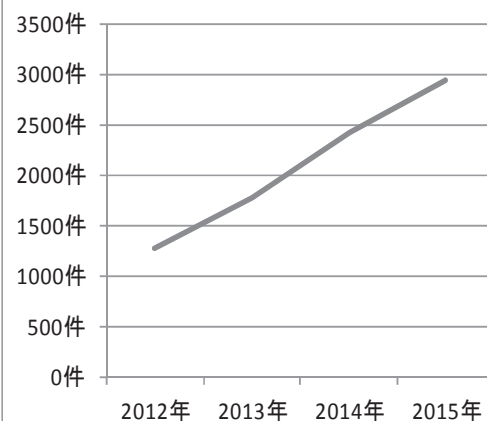
透析勤務 人員配置 2 名〔 時間外休祭日は、1 名 呼出待機体制 〕

ベッド数 12 台〔 患者監視装置 11 台, 個人用透析装置 2 台, CHDF 装置 1 台〕

【透析件数】

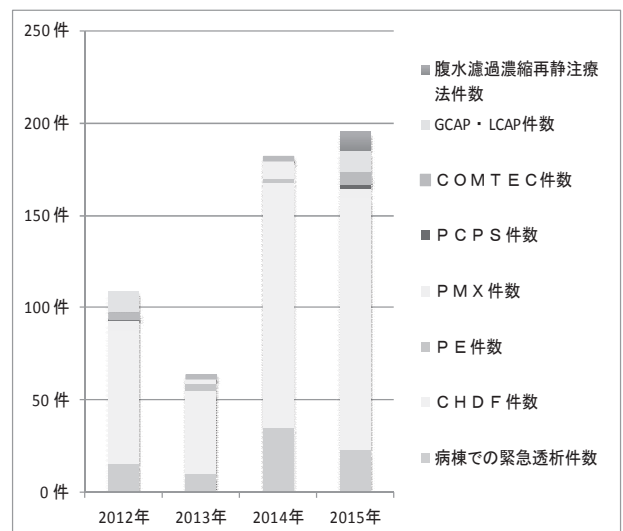
	2012年	2013年	2014年	2015年
透析室での 施行件数	1287件	1777件	2432件	2951件

透析室での施行件数



【病棟での緊急治療件数】

	2012年	2013年	2014年	2015年
病棟での緊急透析件数	15 件	10 件	35 件	23 件
CHDF 件数	72 件	45 件	133 件	137 件
PE 件数	0 件	4 件	2 件	0 件
PMX 件数	6 件	3 件	10 件	4 件
PCPS 件数	1 件	0 件	0 件	3 件
COMTEC 件数	4 件	2 件	2 件	7 件
GCAP・LCAP 件数	11 件	0 件	0 件	11 件
腹水濾過濃縮再静注療法件数	0 件	0 件	0 件	11 件
総件数	109 件	64 件	182 件	196 件





3. ME 室業務実績

ME 室勤務人員配置 2 名 業務内容

(1) 管理機器数 : 下記ME 機器の保守点検業務を行っております。

全体の管理機器総数は、2015 年 3 月 31 日現在にて 75 機種 341 台で、詳細は下記のとおりです。

【中央管理機器】

名 称	2014年	2015年
輸液ポンプ	58	66
シリンジポンプ (PCA機能付)	3	5
シリンジポンプ	56	56
経腸栄養ポンプ	21	26
低圧持続吸引器	14	14
COM TEC	1	1
IVガードル台S	16	16
バック・バルブ・マスク	0	77
合 計	169	261

【透析関連機器】

名 称	2014年	2015年
透析用水処理システム	1	1
多人数用透析液供給装置	1	1
透析B剤溶解装置	1	1
透析用監視装置	11	11
個人用透析装置	2	2
ハリアフリースケール	1	1
(フリンタ内蔵型)		
リフトスケール	1	1
ベッドスケール	1	2
JUN-55X	1	1
合 計	21	21

【分散管理機器】

名 称	2014年	2015年
AED	1	9
除細動装置	8	8
PCPS関連機器	5	5
レベルシステム1000	1	1
生体モニター(セントラル)	3	3
生体モニター(テレメーター)	19	19
生体モニター(ベッドサイド)	42	44
生体モニター(送信機)	70	67
人工呼吸器	8	8
搬送用人工呼吸器	3	3
体温管理システム	1	2
分娩監視装置	0	4
合 計	161	173

(2) 中央管理機器の貸出状況とレンタル状況

【機器別貸出件数】

	2013年	2014年	2015年
経腸栄養ポンプ	274	294	284
輸液ポンプ	2142	2848	2853
PCA小型シリンジポンプ	48	61	64
シリンジポンプ	1916	2213	2155
低圧持続吸引器	139	175	217
バック バルブ マスク	0	455	432
合計	4519	6047	5979

【レンタル件数】

	2013年			2014年		2015年		
	日数	件数	レンタル集計開始	日数	件数	日数	件数	
PCAシリンジポンプ	579	30	2013/10/25	550	60	11	5	
シリンジポンプ	148	7	2013/12/17	286	10	2244	116	
輸液ポンプ	434	7	2013/12/12	648	16	910	52	
人工呼吸器	994	38	2013/08/30	2336	110	91	4	
合計	2155	82		3820	196	3256	177	



【保守点検件数】

	2013年	2014年	2015年
人工呼吸器	214	214	247
経腸栄養ポンプ	283	339	277
輸液ポンプ	2152	2987	2852
PCA小型シリンジポンプ	47	68	74
シリンジポンプ	1962	2358	2062
低圧持続吸引器	182	227	242
除細動器	41	61	87
AED	0	70	114
生体モニター	39	71	627
PCPS	3	9	12
COMTEC	6	6	12
輸血・輸液加温システム	9	11	12
冷温水層	7	10	12
体温管理システム	2	5	8
バックバルブマスク	0	455	398
ウィズエアー	0	1	6
JUN-55X	0	0	11
分娩監視装置	0	0	36
計	4947	6892	7089

4. 1 年の歩み

2015/4/1	MDIC 認定取得 藤岡涼
2015/4/1	日本赤十字社臨床工学技士会選挙管理委員会委員 加勢田達矢
2015/4/18～4/19	第6回日本赤十字社臨床工学技士会研修会 加勢田達矢
2015/7/16	平成27年度透析療法十字職員研修会 藤岡涼
2015/9/19	九州CHDF技術検討会 加勢田達矢・藤岡涼
2015/11/14～11/15	日本赤十字社臨床工学技士会九州・沖縄ブロック研修会 藤岡涼
2015/12/5	平成27年度医療機器安全管理責任者研修会 加勢田達矢
2015/12/13	第1回透析液安全管理基礎セミナー 小池昭男

上記のようなセミナー講習会等に参加しながら、保守点検技術の習得・工学技士としてのスキルアップを行うとともに、業務拡大の準備を行ってきました。透析室業務も臨床工学技術室勤務も資料のとおり、業務繁忙となっておりますが、臨床工学技術課関与の加算の取得および算定を実現しつつ、更なる医療安全に寄与していきたいと考えます。



検査技術課

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 現在）

医療技術部長	酒井 正			
医療技術部技師長	木下政憲			
臨床検査技師	永石信二（課長）	尾形正也（係長）		
	川内保彦（係長）	不動寺康弘（係長）		
	増本和隆	井手理恵	寺田克也	鬼木孝弘
	宮原美幸	成村和子	井上慎介	峯悠太郎
	高田知佳	靄田有紗	鶴田志穂	徳田英理子
	横尾亜矢子			

【認定及び資格取得一覧】

永石 信二	国際・国内細胞学会認定細胞検査士 日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師 日本超音波医学会認定 超音波検査士（循環器） 特定化学物質作業主任者
尾形 正也	国際・国内細胞学会認定細胞検査士 日本超音波医学会認定 超音波検査士（消化器、体表臓器） 日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師 特定化学物質作業主任者 2級臨床検査士（病理学）
増本 和隆	日本超音波医学会認定 超音波検査士（消化器、体表臓器）
川内 保彦	日本超音波医学会認定 超音波検査士（消化器、体表臓器） 日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師 微生物検査技師 2級臨床検査士（血液学）
鬼木 孝弘	日本超音波医学会認定 超音波検査士（体表臓器） 日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師
成村 和子	日本超音波医学会認定 超音波検査士（循環器、体表臓器、血管）
井上 慎介	佐賀糖尿病療養指導士 国内細胞学会認定細胞検査士 日本糖尿病療養指導士
峯 悠太郎	日本超音波医学会認定 超音波検査士（循環器、血管） 2級臨床検査士（呼吸生理学）
靄田 有紗	国際・国内細胞学会認定細胞検査士 佐賀糖尿病療養指導士



高田 知佳：2 級臨床検査士（病理学）

日本超音波医学会認定 超音波検査士（消化器、体表臓器）

鶴田 志穂：2 級臨床検査士（血液学）

2. 研究業績

1) 赤十字九州ブロック臨床検査技師会

演題：巨大な疣贅を合併した心内膜感染症の一例

○峯 悠太郎 成村和子 永石信二 不動時康弘 橋本重正 森唯史

2) 日赤臨床検査技師学術大会

演題：近年、当院におけるダニ刺咬による感染症の検出例と夜間休

日救急外来のマニュアルについて

○川内保彦 井上慎介 西原三重 宮原正晴 安藤克幸

3) 第 4 回九州 ICMT を育てる会

伝達講習「認定臨床微生物検査技師試験を受験して」

○川内保彦

3. その他活動内容

- ・佐賀県臨床検査技師会理事 川内保彦
- ・平成 28 年度日本臨床検査医学会九州学会 佐賀学会実行委員 宮原美幸
- ・平成 29 年度九州細胞診研修会 準備委員会役員 尾形正也 永石信二
- ・熊本震災救護活動 高田知佳 峯悠太郎

4. この一年の歩み

H27 年度スタートから間もなくカルバペネム耐性菌（CRE）が検出され、院内における感染対策の強化が急務となった。病院にとって感染対策は最も重要な事項であり、感染症の情報発信や感染対策ラウンドなど検査課の役割は大きく、今後 CRE の鎮静化に向け貢献できるよう努力していく事が大切である。H28 年度 8 月は病院移転が控えており、検査課においても検査システム、病理システムを更新し、生理では画像システムを増設。また輸血システムを新規導入し、輸血検査の院内構築のため他施設を視察しシステムや運用面について検討を重ねた。検査課では輸血の一元管理を 28 年 8 月より実施予定で輸血製剤の院内・院外払い出しの業務を担当する。システム化と同時に輸血に関する院内運用のマニュアルの作成が急務である。また分析機も生化学、血液、凝固・線溶、免疫血清が一新され、分析機の機能充実により結果報告までの時間短縮が可能となり、診察時間など診療体制にも貢献できるものと思われる。検体ラベル発行も検査、中央処置室以外、各病棟にも設置するため採血の問い合わせや検体採取間違いの防止に繋がり医療安全面でも効果が期待できる。病理検査では陰圧環境が整備され、特定化学物質の取り



扱い環境基準の規制に伴い、局所排気装置が設置されたことで安全な環境が整った。外注検査項目の一部を院内検査に導入することで、診断や治療に貢献できると思う。今後は更に検査結果に付加価値をつけ、検査の役割を高められるよう努力していきたいと思います。



放射線技術課

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

医療技術部部長 : 酒井 正
 医療技術部技師長 : 木下 政憲
 放射線技術課課長 : 平田 一英
 同係長 : 坂井 征一郎 江口 教久
 放射線技師 : 牧原 靖司 千綿 直也 服部 重雄 江頭 紀史
 槇 康児 立川 圭彦 池田 健人 吉海ひかる 三浦有貴
 受 付 : 藤原 征司 林田 昭予（～6月） 中山 みのり（7月～）

2. 業務件数（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

業務件数の推移（過去5年）

	MRI	CT	治療	血管造影	心カテ	マンモ	RI
23 年度	3526	9473	152	101	359	878	569
24 年度	3717	9575	135	129	335	933	538
25 年度	3844	9821	157	166	347	865	523
26 年度	4253	10852	148	157	372	925	552
27 年度	4373	11647	143	166	320	886	419

MRI、CT 共に年々増加している。 RI 検査は今年、大きく減少した。

認定技師

放射線治療専門放射線技師	1 名
放射線治療品質管理士	1 名
医用画像情報管理士	1 名
検診マンモグラフィ撮影放射線技師	3 名
放射線取扱主任試験 1 種合格者	3 名
放射線管理士	2 名



3. この一年の歩み

4月より眞武部長、前村医師を迎えた。特に大きな動きはなかったが新病院移転を前に、多少慌ただしかった。昨年採用の技師3名も、大きな戦力となり業務に貢献できるようになった。業績としては、CT、MRI共に検査数が増加し新病院での2台体制への大きな弾みとなりそう。一方、RI検査が大きく減少、放射線治療が減少した。

2015年度

- | | |
|-----|---|
| 4月 | 20日 東芝CT勉強会開催【当院】 |
| | 27日 フィリップスMRI勉強会開催【当院】 |
| 5月 | 9日～10日 第12回全国X線撮影技術読影研究会【九州大学】(平田、千綿、吉海、三浦) |
| | 15日 VSDAD Liveセミナー【唐津市】(平田、坂井、立川) |
| | 29日 筑後、有明CT・MRIセミナー(立川、池田) |
| | 30日 第7回九州CTセミナー【福岡市】(坂井、江頭、池田) |
| | 31日 第28回高精度放射線治療研究会【京都】(江口) |
| 6月 | 5日 上級救命講習会(立川) |
| | 11日～12日 日本赤十字社放射線技師会総会及び学術総会【東京】(平田) |
| | 20日 佐賀県放射線技師会学術研修会及び総会 |
| | 28日 富士メディカル セミナー2015 in Fukuoka【福岡市】(吉海、三浦) |
| 7月 | 3日 CTコア研究会(坂井) |
| | 9日～10日 課長研修【福岡赤十字】(平田) |
| 8月 | 9日 マンモグラフィー研修、試験【広島大学】(服部) |
| | 22日～23日 被ばく医療アドバイザー会議【本社】(坂井) |
| | 26日 かちかちワイド放映(吉海、三浦) |
| | 30日 放射線管理士 試験【大阪】(平田、坂井) |
| 9月 | 5日～6日 日本赤十字社九州ブロック研修会【熊本】(平田(シンポジスト)、千綿、服部) |
| | 19日 CT認定技師指定講習会【佐賀市】(坂井、服部、江頭、立川) |
| 10月 | 4日 ピンクリボンキャンペーン【唐津市】(平田、服部、江口、吉海、三浦) |
| | 16日 広報研修会【佐賀市】(江頭) |
| | 17日 リフレッシュセミナー【佐賀】(講師 平田) |
| 11月 | 1日 乳癌検診学会【筑波市】(三浦) |
| | 7日～8日 DMAT研修【大分】(江頭) |
| | 8日 市民公開講座【唐津・りふれ】(平田、吉海) |
| | 12日 緊急被ばく医療講習会【唐津】(三浦) |
| | 13日～14日 全国BSC学会【大阪】(平田、服部発表) |
| | 19日 日本放射線腫瘍学会【前橋市】(江口) |
| | 28日 原子力防災訓練【当院】(除染作業 槇・吉海) |
| 12月 | 3日 緊急被ばくアドバイザー会議【本社】(坂井) |
| | 5日～6日 業務拡大講習会【佐賀】(平田、坂井、牧原、千綿、服部) |
| 1月 | 25日～26日 ホールボディー研修会【放医研】(江口) |
| 3月 | 2日 ダットスキャン勉強会開催【当院】 |
| | 23日 心カテ 側面管球交換(初回) |



リハビリテーション技術課

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

部長： 仙波 英之

課長： 麻生 昭秀

係長： 小倉 智朗

理学療法士： 田港 智恵美 小峠 直之 安河内 祐太

川本 千聖 永石 隼也 松本 維也

作業療法士： 吉富 竜一 横山 拓也 田口 智彩

言語聴覚士： 湯地 真澄

マッサージ師： 姉川 勝正

2. 臨床業績（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

総得点 11,600,590 点

年間件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	理学療法	作業療法	言語療法
脳血管疾患	407	394	377	300	196
廃用症候群	145	157	141	6	49
運動器疾患	673	605	531	93	
呼吸器疾患	142	125	125		
がん疾患	58	67	55	12	
心大疾患	37	91	91	1	
摂食機能	55	15			15
計	1,345	1,454	1,320	412	260

3. 業績

・介護認定審査会委員 麻生 昭秀 PT

・地域包括推進リーダー取得 麻生 昭秀 PT

・第 24 回佐賀県理学療法士学会 座長：麻生 昭秀 PT

・佐賀県理学療法士学会

学会発表：「意識障害を伴うくも膜下血腫後広範囲脳梗塞患者の理学療法経験」

田港 智恵美 PT

・唐津東松浦広域部症例検討会

学会発表：「重度の感覚障害を伴う急性期右片麻痺患者の理学療法経過」

田港 智恵美 PT



・第12回日本神経理学療法学会学術大会

学会発表：「意識障害を伴うくも膜下出血後広範囲脳梗塞患者の理学療法経験 ～早期からの感覚刺激に焦点をあてた運動療法をとおして～」

田港 智恵美 PT

「感覚運動障害を伴った右片麻痺患者の急性期からの理学療法経過 ～みえないしょうがい～」 田港 智恵美 PT

・唐津市地域包括支援センター派遣事業参加 吉富 竜一 OT

4. この1年のあゆみ

今年度の増員はなく、理学療法士8名、作業療法士3名、言語聴覚士1名、マッサージ師1名、計13名でリハビリテーションの提供を行ってきました。

今年是新卒者3名も救急センターに入院中の脳血管障害患者さまに対し土曜出勤も開始となり、より課として3分野での早期介入が軌道にのってきた1年となりました。

今後も1人1人専門的な知識、技術を身につけれるよう、日々精進し、チーム医療の一員としての関わりを行っていきたいと思います。



5.医療安全推進センター

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

医療安全推進センター長（副院長） 茨木 一夫（ゼネラルリスクマネージャー）（兼）
専任リスクマネージャー（看護師長） 杉町 美代子（専従）

2. 委員会

医療安全管理委員会	毎月 1 回	各部長以上
医療安全小委員会	毎週 1 回	診療部、看護部、薬剤部、医療技術部 医療社会事業部、GRM、専従 RM
リスクマネジメント検討会	毎月 1 回	各部署リスクマネージャー
事例検討会	必要時	
医療事故調査委員会	必要時	

3. 活動実績

【委員会】

・医療安全管理委員会	計 12 回 開催
・医療安全小委員会	計 40 回 開催
・リスクマネジメント検討会	計 12 回 開催
・事例検討会	計 13 回（13 事例）開催
・事故調査委員会	開催 なし

【研修会開催】

月 日	研修内容	講 師	対象・参加人数
平成 27 年 4 月 10 日 (院内)	「医療安全」「医療安全推進担当者の役割」 「ヒューマンエラー」「医療事故とその対応」 「検視について」	杉町 美代子	リスクマネージャー 18 名 新係長 (看護師) 4 名
平成 27 年 5 月 8 日 (院内)	事例分析方法について エラー対策の思考手順について	杉町 美代子	リスクマネージャー 20 名
平成 27 年 6 月 29 日 (院内)	第 1 回医療安全管理研修会 「患者さんやご家族と良い人間関係をつくる 対応方法を学ぼう～医療メディエーション」	聖マリア病院 医療メディエーター 吉本 譲爾	全職員 374 名
平成 27 年 7 月 13 日 (院内)	「みんなで慣れよう！AED」	中島 厚士 市丸 留美 小川 和隆	新採用者対象 53 名
平成 27 年 9 月 18 日 (院外)	「医療事故調査制度」について	九州大学医療 安全管理経営 学講座准教授 鮎沢 純子	全職員 63 名



平成 27 年 9 月 30 日 (院内)	「医療事故調査制度の概要」について	茨木 一夫	全職員 116 名
平成 27 年 10 月 26 日 (院内)	「輸血勉強会～製剤から取扱いまで～」	佐賀県血液センター 東島 悦子 当院薬剤師 上田 麻弥	医師、看護師 81 名
平成 27 年 11 月 30 日 (院内)	「体験型医療安全管理研修会」 ・抗がん剤の暴露状況を可視化しよう ・褥瘡予防～車椅子で体圧とズレを可視化しよう ・誤嚥防止～とろみ食とソフト食を体験しよう～ ・静脈血栓塞栓予防～弾性ストッキングとウイズエアを体験しよう～ ・AEDを使ってみよう ・インスリンの種類を知ろう。自分の血糖値を測定しよう。		全職員 実数 356 名 述べ人数 872 名
平成 27 年 12 月 1 日 (院内)	「スキン・ケア」勉強会 ・皮膚医の立場から ・皮膚排泄創傷ケア認定看護師の立場から	武 信肇 百武 和子	医師、看護師 53 名
平成 28 年 1 月 13 日 (院内)	「医療安全概論」(DVD) 約 45 分間 ・「組織の中の医療安全について」「私が考える医療安全行動とは」についてのレポート提出		医療安全管理 研修会 未受講者 12 名

【院外で受講研修会】

月 日	会議・研修会名	出席者	場所
平成 27 年 8 月 27 日	佐賀県医師会医療安全（院内感染防止対策）医療従事者研修会	木下 政憲 入江富美夫 杉町美代子 西原 三重	佐賀市文化会館
平成 27 年 8 月 31 日	平成 27 年度医療安全管理者交流会	杉町美代子 坂井由紀子 伊藤 良子	佐賀県看護協会 看護センター
平成 27 年 9 月～ 平成 28 年 1 月	日本赤十字社 平成 27 年度 e-ラーニングを活用した医療安全管理者研修、集合研修	高崎 桂子	日本赤十字社 本社
平成 27 年 9 月 17 日 ～18 日	平成 27 年度九州ブロック日本赤十字社医療安全推進担当者研修会	野田 隆博 岩田 和弥 鬼木 千恵子 高崎 桂子	唐津ロイヤル ホテル



平成 27 年 10 月 21 日	平成 27 年度医療安全に関するワークショップ	茨木 一夫 入江富美夫 杉町美代子	福岡 国際会議場
平成 27 年 10 月 21 日	第 2 回日本赤十字社医療対話推進者養成研修	柿木 伸也	クロス・ウェーブ船橋
平成 28 年 2 月 5 日	平成 27 年度医療事故調査制度に関する医療機関向け研修会	茨木 一夫	福岡 国際会議場

【院外への会議】

月 日	会議・研修会名	出席者	場所
平成 27 年 5 月～10 月 (4 回)	佐賀県看護協会医療・看護安全推進委員会	杉町 美代子	佐賀県看護協会 看護センター
平成 27 年 6 月 5 日	平成 27 年度第 1 回日本赤十字社九州ブロック医療安全管理者会議	杉町 美代子	福岡赤十字病院
平成 27 年 7 月 31 日	日本赤十字社平成 27 年度医療安全推進室長会議	茨木 一夫	日本赤十字本社
平成 27 年 10 月 1 日	平成 27 年度第 2 回日本赤十字社九州ブロック医療安全管理者会議	杉町 美代子	日本赤十字本社
平成 27 年 10 月 2 日	日本赤十字社平成 27 年度医療安全管理者会議	杉町 美代子	日本赤十字本社

4.この 1 年の歩み

医療安全推進センターのこれまでの取り組みに加え、今年度は特に大きな 2 つの課題に取り組んだ 1 年であった。

1 つは、平成 27 年 9 月 17～18 日に平成 27 年度九州ブロック日本赤十字社医療安全推進担当者研修会を、初めて当院主催で開催したことである。前年度からの万全の準備の下、九州ブロックの赤十字医療安全推進担当者 25 名の参加を得て、実りある研修会とすることができた。特別講演のテーマは「医療事故調査制度について」で、10 月 1 日の運用開始直前という時期に重なっており非常に良い学びの機会となった。2 つ目は、当院で初めて体験型医療安全管理研修会を開催したことである。6 つのテーマで、他部門の協力の下一丸となり研修会開催の準備に取り組むことで、多くの職員が患者の立場で医療安全を考える機会となり、高い評価を得ることができた。

また、10 月 1 日より運用が始まった「医療事故調査制度」に対する研修会を院内でも開催し、当院での対応を検討した。制度の主旨を理解し、改めて医療事故防止に取り組む認識を高め、リスク管理の重要性を共有することができた。

医療安全は全ての病院職員に共通したキーワードであることを念頭に、今後も病院全体で取り組みを深化させていきたい。



平成 27 年度のインシデント・アクシデント報告件数

報告内容項目	アクシデント	インシデント	合計
報告件数	11	973	984

平成 27 年度 内容別報告件数

内容項目	指示 伝達	薬剤 輸血	治療 処置	用具 チューブ	検査	療養上 の世話	転倒 転落	給食 栄養	その他
件数	34	240	76	189	68	38	256	30	53

平成 27 年度 職種別報告件数

職種	医師	看護師	薬剤師	検査技師	放科技師	栄養課	リハビリ	ME	事務部	その他
件数	24	846	45	22	10	17	2	2	8	8

平成 27 年度「広めよう、深めよう、安全対策」

	部署	事 例	部署	事 例
6 月	外来	透析時の採血の取り忘れ	2 階東	ペルサンチンの希釈間違い投与
7 月	4 階東	インスリン注射施行忘れ	薬剤部	抗がん剤調製ミス
8 月	5 階	F P 療法中にアリメバッグの接続部 が外れ暴露した	栄養課	卵アレルギーの患者に卵を使った変わり 焼きを配膳
9 月	南 2 階	不穏患者のギャッチアップ後の転倒	リハビリ	車椅子からベッドへの移乗時の転倒
10 月	3 階東	F F P の投与不足	4 階西	採血スピッツ間違い
11 月	手術室	カフが膨らんだまま尿道カテーテル を誤抜去した事例	放射線科	胸部撮影、腹部撮影での画像の左右反転
12 月	3 階西	持続型インスリンの指示受けエラー	南 3 階	外泊中のナース管理分薬剤渡し忘れ
1 月	検査部	大腸EMR後の検体紛失	臨床工学 技術課	顆粒球吸着療法における静脈圧上昇に伴 う緊急停止
	事務部	患者カルテの誤り		



医療安全推進センター 感染管理

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

院内感染対策委員長（副院長） 茨木 一夫
感染管理認定看護師（看護師長） 西原 三重

感染対策チーム（ICT）

第 3 内科部長 宮原 正晴（兼） 薬剤師 田渕 友梨（兼）
臨床検査技師 川内 保彦（兼） 臨床検査技師 井上 慎介（兼）
看護係長 中山 美穂（兼） 看護係長 鬼木 千恵子（兼）
感染管理認定看護師 西原 三重（専任）

2. 委員会

院内感染対策委員会 毎月 1 回
臨時院内感染対策委員会 必要時

3. 活動実績

院内感染対策委員会 計 12 回開催
臨時院内感染対策委員会 計 2 回開催
ICT ラウンド 毎週 計 46 回開催
CRE に係る外部評価委員会 計 2 回開催

【院内研修会】

月 日	研修内容	講師	対象・参加人数
平成 27 年 4 月 3 日	感染管理 感染対策の基本	感染管理認定看護師 西原 三重	新規採用者 参加人数 32 名
平成 27 年 7 月 24 日	公開講演会 感染制御 ～理想と現実の挟間で～	小児科医師 阿部 淳	医療従事者 参加人数 277 名
平成 27 年 11 月 30 日	体験型医療安全管理研修会 感染予防 ～自分の手洗い状況を知ろう	協力業者 SARAYA	医療従事者 参加人数 277 名
平成 27 年 12 月 4 日	公開講演会 忍び寄る耐性菌 ～アウトブレイクはすぐそこに～	国立感染症研究所 疫学感染症センター 第一室主任研究官 島田 知恵 先生	医療従事者 参加人数 152 名



平成 28 年 2 月 22 日	公開講演会 抗菌薬の慣習的投与が地域医療に もたらす脅威 ～抗菌薬を使ってはいけない理由 および抗菌薬を使わなくてもよい 事例～	佐賀大学付属病院 感染制御部 教授 青木 洋介 先生	医療従事者 参加人数 125 名
---------------------	---	----------------------------------	---------------------

【看護部対象の研修会】

月 日	テーマ	対象、参加人数
平成 27 年 4 月 27 日	感染管理 感染対策の基本	看護部新規採用者 参加人数 24 名
平成 27 年 5 月 29 日	感染対策の基本 リンクナースとしての役割	リンクナース 参加人数 10 名
平成 27 年 6 月 5 日	手術部位サーベイランス (Surgical Site Infection:SSI)	リンクナース 参加人数 11 名
平成 27 年 10 月 7 日	感染管理 感染対策の基本	看護部中途採用者 参加人数 7 名
平成 27 年 11 月 2 日	感染対策の基本を学ぼう ～日頃から感染予防ができるために～	看護部・ケアワーカー 参加人数 40 名

【院内感染防止対策会議】 ～5 病院合同開催～

月 日	会議の内容	開催場所
平成 27 年 5 月 18 日	各施設の耐性菌検出状況報告 結核診断におけるインターフェロン γ 遊離試験(IGRA) 検査について	唐津赤十字病院
平成 27 年 7 月 24 日	各施設の耐性菌検出状況報告 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の対応について	唐津赤十字病院
平成 27 年 12 月 4 日	各施設の耐性菌検出状況報告 インフルエンザ、ノロウイルス対応について インフルエンザワクチン接種状況報告 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の経過と対策	唐津赤十字病院
平成 28 年 2 月 15 日	各施設の耐性菌検出状況報告 インフルエンザ、ノロウイルス感染症の罹患状況と対策 ジカウイルス感染症について	唐津赤十字病院



【院外研修会】

月 日	研修内容	講師	対象・参加人数
平成 27 年 11 月 18 日	感染管理 看護師の役割を学ぼう	感染管理認定看護師 西原 三重	看護学生 参加人数 69 名

【訪問支援】

月 日	目的	訪問施設
平成 28 年 1 月 6 日	河畔病院施設見学（CRE 受け入れに向けて） ・当院で実施している感染対策の提示 ・河畔病院での感染対策の確認	河畔病院 花音病棟

【感染対策評価】

月 日	内容	開催場所
平成 28 年 2 月 10 日	書類による評価	唐津赤十字病院
平成 28 年 2 月 17 日	感染防止対策地域連携加算チェック項目表を用いたラウンドによる評価	唐津赤十字病院
平成 28 年 3 月 4 日	書類による評価	済生会唐津病院
平成 28 年 3 月 9 日	感染防止対策地域連携加算チェック項目表を用いたラウンドによる評価	済生会唐津病院

4. この 1 年の歩み

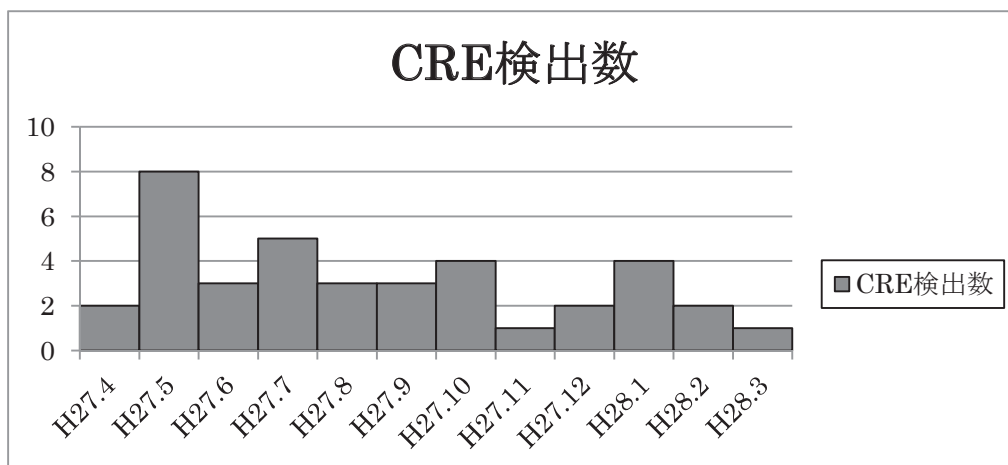
平成 27 年 3 月、整形外科術後患者の創部よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) の検出を認め個室管理による接触予防策を開始した。4 月以降、救命病棟及び救命病棟を経由した患者を中心に CRE 検出がみられ(4/30～5/23：10 名)、アウトブレイクと考え保健所に報告とともに、救命病棟の入院受け入れを中止(5/16～5/25)するなどの対応を行い、CRE 制御と終息に向け緊急事態を宣言し対策を行った。

また、CRE 検出 10 例となった時点で、正式な CRE アウトブレイクに伴う届け出、記者会見等の対応を行った。佐賀大学感染制御部並びに保健所の合同ラウンドにより、対策提言を受け、対策提言による感染対策の見直し・強化により CRE の新規検出も認めず終息に向かうかと思われたが、7 月以降も散発的に CRE 検出認め、8 月には CRE に係る外部評価委員会を発足し、再度外部支援・指導を受けることとなった。

積極的監視培養を行い、届け出基準を満たす CRE 感染症は 3 例、保菌者を含めた CRE 検出が 9 月末には 25 例となり、国立感染研究所(9/28～10/2)及び、本社感染対策専門部会(9/29)の訪問指導を受け、環境整備・標準予防策の徹底・接触予防策の強化を継続した。さらに、抗菌薬の適正使用、ICT ラウンドのほかに、看護部・院長による環境ラウンドを行うなど対策の他者評価など多職種・多部門が組織的に感染対策に取り組



み対応した。しかし、平成 28 年 3 月末現在、監視培養による CRE 検出は 39 例となりまだ終息に至っていない。



CRE 監視培養の実施に伴い、耐性菌分離率は以下のように推移している。

(院内感染対策サーベイランス事業：JANIS 集計引用)

	平成 26 年度	平成 27 年度
第 3 世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	1.07%	1.49%
第 3 世代セファロスポリン耐性大腸菌	1.27%	3.32%
フルオロキノロン耐性大腸菌	8.02%	11.83%

MRSA 検出人数は平成 26 年度 164 人で平成 27 年度 134 人（同一患者含まず）、CD 検出人数平成 26 年度 23 人、平成 27 年度 13 人となっている。

平成 22 年以降多剤耐性緑膿菌（MDRP）の検出はなかったが、平成 27 年 1 月に入院時喀痰培養検査で 1 人検出があり、隔離対策を行い感染拡大しないように努め、院内における新規発生は認めていない。また、多剤耐性アシネトバクター(MDRA)、バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)の検出も認めていない。

平成 27 年度シーズンよりインフルエンザワクチンが 3 価から A 型 2 価・B 型 2 価の 4 価ワクチンとなった。インフルエンザ対策として、インフルエンザ予防のポスター、手洗い、うがいの啓蒙を行い、例年と同様職員へのインフルエンザワクチン接種を促した。職員のワクチン接種率は 85%(前年 92.4%)であった。平成 28 年 1 月からインフルエンザが流行し、入院患者 18 人(昨年 5 人)、職員 34 人(昨年 6 人)がインフルエンザに罹患し、同室患者のべ 14 人(前年 14 人)、職員のべ 200 人(前年 117 人)に抗インフルエンザ薬を予防投与した。職員におけるワクチン接種とインフルエンザ罹患の状況把握ができておらず次年度の課題とした。

平成 28 年度は、新病院移転を迎える。CRE アウトブレイクは、感染管理体制の再構築ならびに、感染対策の再教育の機会ととらえ、抗菌薬の適正使用を推進し、標準予防策の徹底と、標準予防策に付加した感染経路別予防策が習慣的に実施できるように、組織横断的に、迅速に活動していきたい。



6. 教育研修推進センター

1. スタッフ紹介（平成28年3月31日現在）

責任者	センター長	橋本 重正			
配属職員	看護師長	田中 恭子			
	メディカルクラーク	轟木 聖子	松尾 有希子	松本 みのり	
		田中 由美	日高 純子	山崎 胤美	
		川崎 沙也加	中嶋 香織	石橋 奈穂子	
		瀬戸口 直子	池田 香織	松尾 さやか	
		榎 宗子			

2. 業務内容（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

1) 研修医に関すること

(1) 臨床研修（基幹型・協力型）病院の関係書類作成

① REIS 入力 4月30日までに必須（九州厚生局提出）

平成26年度の実績、平成27年度指導体制などの入力

- ・唐津赤十字病院の情報・実績
- ・協力病院（松籟病院・虹と海のホスピタル）の情報・実績
- ・協力施設（唐津市民病院きたはた・脇山内科・久保田産婦人科麻酔科病院・唐津市馬渡島診療所・唐津市小川島診療所・唐津市加唐島診療所・佐賀県赤十字血液センター）の情報・実績

② 九州厚生局・佐賀大学・九州大学・日本赤十字社へ研修の実績等の書類作成・提出

③ EPOC 画面への研修医登録と指導医割付

(2) 医師臨床研修マッチング参加を申込スケジュールに沿って申し込み実施

- ・初期研修医 応募受付・面接試験準備

4名の面接実施

- ・研修医3名マッチング成立、2次募集にて1名採用決定

(3) 次年度研修医募集のプレゼンテーション参加

- ・九州大学医学部 初期研修プログラム説明会（橋本部長・轟木・田中）
- ・九州厚生局 九州ブロック臨床研修進路説明会（橋本部長・山口先生（研修医）・轟木・田中）
- ・レジナビフェア 臨床研修説明会（橋本部長・山口先生（研修医）・轟木・田中）
- ・佐賀大学医学部 初期臨床研修プログラム説明会（橋本部長）

(4) 2年次研修医（1名）の院外研修に関する契約

- ・久保田産婦人科・馬渡島診療所・赤十字血液センター

(5) 研修医勉強会（1回／2週間）企画・準備等

(6) 研修医の評価 EPOC 評価入力の依頼及び確認

(7) 指導医養成ワークショップ受講に関する手続き（2名）

- ・眞武 邦茂先生（九州大学）・木戸 伸一先生（佐賀）



- (8) 臨床研修委員会開催（院内・院外合同1回）
- (9) 病院見学者（6名）の受付・対応
- ・佐賀大学3名（5年2名、6年1名）・産業医科大学1名（6年）・久留米大学1名（5年）
 - ・熊本大学1名（5年）

2) 臨床研修の企画・実施に関すること

- (1) 自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習26名（1日）受け入れ計画・準備
- (2) 地域枠入学生特別プログラム実習（1年生2名、3日間）受け入れ計画・準備

3) 施設認定申請手続きに関すること

日本臨床腫瘍学会 専門医制度 認定施設審査部会 「認定研修施設認定申請」 手続

日本臨床腫瘍学会 専門医制度 指導医審査部会 「暫定指導医新規申請」 手続

日本専門医機構 専門研修プログラム連携施設認定申請書の作成補助（九州大学・佐賀大学）

4) 院内の教育研修に関すること

- (1) 職員研修委員会開催（新任管理者研修会、秋期接遇研修会）
- (2) 新採用者研修会企画、準備、進行、終了後のアンケート集計

5) 医師の業務軽減に関すること

- (1) メディカルクラークの業務及び具体的数値

業務内容項目		平成26年度	平成27年度
診断書等書類作成		4, 850	5, 100
実施済み薬入力		27, 857	30, 025
病名登録患者		25, 887	27, 403
抗血栓薬休薬日入力		81	104
DPC 入力		1, 446	1, 759
退院証明書発行		706	607
院外等処方訂正入力		1, 115	1, 117
退院カルテ整理		59, 48	5, 695
医師の退院サマリー未整理補助		171	555
データ入力	NCD（外科）	554	621
	肝疾患	114	114
	血液疾患症例登録	67	73
	ER Data Base 入力	2, 364	1, 991
	救命救急センター入院台帳	1, 115	1, 163
	骨粗鬆症性骨折の広域ネットワーク研究		104



(1) その他調査

血液関係調査、糖尿病患者 MAP データ収集、外科系調査等

(2) その他業務

外来(6 部署)受付および診療補助業務、外科がんセンターボード準備、がん連携パス同意書等書類作成、SSI 等データ入力補助

3. この一年のあゆみ

教育研修推進センターの業務内容は上述のように多岐にわたります。

まず、初期臨床研修に関して報告します。当院は、言うまでもなく佐賀県北における急性期医療の分担という重要な役割を担っておりますが、初期臨床研修においても基幹型施設（1 年次 4 名）および協力型施設（同 5 名）となっています。当院での臨床研修を盛んにすることは、県内で医師を養成するといった意味合いからも大事ですし、研修医の存在が病院全体に良い刺激を与え、院内の活性化に繋がるという点でも重要です。

初期研修医増員に関しては、各種研修説明会に田中、轟木、橋本が出席し、当院における研修の特徴を説明しました。この際には、1 年次研修医である山口先生にも協力頂きました。2016 年度の 1 年次研修医は基幹型 4 名が入職しており、少しばかりは効果が見られたかと思っています。今後も皆様のご意見を参考に当院の良さをアピールする機会を増やしたいと思います。

次に、当センターのもうひとつの重要な業務として医師事務作業補助があります。上述の資料のように補助業務件数は、昨年度以上に増加しました。診断書等書類作成、病名登録、D P C 入力などに加え、特に未整理医師サマリー補助は大幅に増加しています。これらの業務は診療報酬上も評価されており、引き続き補助業務の実施、そして適正な拡充を図ってまいります。

今後とも院内各分野、各職にご助言、ご支援をよろしくお願い致します。



7. 救命救急管理センター

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

センター長	中島 厚士（兼）
看護師長	田中 恭子（兼）

2. 業務内容

- 1) 救急・ICU 委員会開催 毎月 1 回
- 2) 救命救急センター入院台帳、ER Data Base 入力
 - ・救命救急センターの充実段階調査報告
（救命救急センターの状況、充実段階評価、年間重篤患者数 等）
 - ・小児救急医療体制の現状調査報告
- 3) 会議の連絡調整
 - ・佐賀県医療機関情報・救急医療情報システム（99さがネット）
 - ・佐賀県メディカルコントロール関係
 - ・長崎県ドクターヘリ症例検討部会
 - ・日本赤十字社救急医療担当者会議
- 4) 救急救命士との話し合い開催
- 5) AHA-BLS コース、ACLS 研修等の受講案内

3. この一年の歩み

地域救命救急センター開設から、今年で 8 年目となり、8 月 1 日には新病院となります。

佐賀県の救命救急センターは、重度熱傷対応を備えた佐賀県立病院好生館と佐賀大学医学部附属病院、地域型の NHO 嬉野医療センターと当院の 4 病院があります。平成 26 年度実績に基づく平成 27 年度救急救命センター充実度段階評価は、4 病院ともに A 評価を頂きました。

救命救急センターを管理していくうえでの課題は、ベッドコントロールです。当院は地域医療支援病院の機能もあり、ご紹介のあった方々は、是が非もなく受入れるべきであろうと考えております。しかし、後方（一般）病床が空かないと、救命センターの安定した患者さん達が移動できず、救命センターが満床かそれに近い状態となれば、安心して急患の受入が出来なくなります。皆様のご理解・ご協力で救急医療が成り立っております。

また、2 年半ぶりに当院医師と唐津市消防の救急救命士、唐津市保健福祉部担当者を交えての意見交換会を開き、地域での救急医療のあり方について考える機会を頂きました。日頃のご協力に感謝いたすと共に、地域の中で救命救急センターの役割を十分果たしていく所存でございます。今後とも、お力添えいただきますようお願い申し上げます。



8. がん医療推進センター

1. スタッフ紹介（平成 27 年 3 月 31 日現在）

センター長：副院長 湯ノ谷 誠二（兼）

看護師：市丸 留美（兼）丸尾 美紀（兼）神谷 和子（兼）牧原 りつ子（兼）

主事：内田 敦子（兼）池上 純子（兼）

社会福祉士：岩田 亜衣（兼）肘井 和樹（兼）柿木 伸也（兼）松尾 あすみ（兼）

歯科衛生士：岩本 優美（兼）中村 幸恵（兼）

2. 業務内容

1) 委員会開催

- ・ がん診療連携拠点病院運営委員会 12 回
- ・ レジメン審査委員会 12 回

がん化学療法レジメン審査承認数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1	2	1	1	2	1	0	0	2	0	1	0	11

2) 院内がん登録状況（経営企画・情報課 参照）

3) 講演会、研修会等の開催

- ・ 市民公開講座

月日	場所	内容	参加人数
平成 27 年 11 月 8 日（日）	唐津市 高齢者ふれあ い会館“りふ れ”	『もし、その時が近づいたなら・・・』 司会：副院長 湯ノ谷 誠二 症例提示：緩和ケア認定看護師 牧原 りつ子 「いのちを受けとめる町づくり～在宅ホスピスのスス メ」 特別講演：にのさかクリニック院長 二ノ坂 保喜 先生 「ホスピスでの限界とこれからの展望」 一般講演：河畔病院 緩和ケア部長 唐津赤十字病院 非常勤医師 前里 喜一 先生 「大切な人と、居たいところで・・・」 一般講演：あおぞら胃腸科 院長 笠原 健太郎 先生	計 300 名

- ・ 緩和ケア研修会（対象：医師を中心とした院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 27 年 8 月 22 日（土） 8 月 23 日（日）	4 階講堂	厚生労働省のがん対策推進基本計画において「すべての のがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアに ついての基本的な知識を習得する」ことを目標とする ことが閣議決定された。これを受け、地域がん診療連 携拠点病院として緩和ケア研修会を実施したもので ある。	院内医師 18 名 院外医師 11 名 合計 29 名



・ 特別講演会（対象：院内・院外医師）

月日	場所	内容	参加人数
平成 27 年 7 月 10 日（金）	唐津シーサイド ホテル	「肺癌診断と化学療法の進歩」 佐賀大学医学部附属病院 血液・呼吸器・腫瘍内科 准教授 荒金 尚子 先生 「呼吸器外科医からみた肺癌治療の個別化」 埼玉県立がんセンター 胸部外科 科長兼部長 浦本 秀隆 先生	院内 53 名 院外 21 名 計 74 名
平成 28 年 3 月 11 日（金）	唐津シーサイド ホテル	「チーム医療で挑む大腸癌治療～更なる治療成績向上に向けて～」 岐阜大学大学院腫瘍制御学講座 腫瘍外科 講師 高橋 孝夫 先生	院内 32 名 院外 11 名 計 43 名

・ 公開講演会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 27 年 5 月 29 日（金）	4 階講堂	「急性期病院における口腔管理 ～好生館歯科口腔外科新設 2 年の現状と展望～」 佐賀県医療センター好生館 歯科口腔外科 部長 野口 信宏 先生	院内 49 名 院外 43 名 計 92 名
平成 27 年 6 月 12 日（金）	4 階講堂	「がんによる痛みの薬物治療の基本的な考え方」 西田病院 麻酔科・緩和ケア医長 富安 志郎 先生	院内 67 名 院外 31 名 計 98 名

・ 公開講習会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 27 年 9 月 28 日（月）	4 階講堂	がん薬物療法専門医の役割と今後の展望 内科医師 梅口 仁美	院内 65 名 院外 9 名 計 74 名

・ 緩和ケア勉強会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 27 年 10 月 19 日（月）	4 階講堂	「終末期患者の「家にかえりたい」思いに寄り添って－患者の思いが叶わなかったケースで学んだこと－」 泌尿器科部長 明利 浩行 4 階東病棟看護師 室節 彩香 解説 緩和ケア認定看護師 牧原 りつ子	院内 61 名 院外 56 名 計 117 名
平成 28 年 1 月 18 日（月）	4 階講堂	『在宅緩和医療を希望された患者の一事例を振り返る』 産婦人科医師 小野 剛史 「レッグバックの提供をきっかけに意欲が向上し自宅退院ができた終末期患者の事例」～「生活のしやすさに関する質問票」を用いた関わり～ 3 階東病棟 白坂 美鈴 「家に帰ろう！」 七山診療所 院長 阿部 智介 先生	院内 60 名 院外 26 名 計 86 名



4) がん地域連携バス

運用件数数

	胃がん	大腸がん	食道がん	肝がん	乳がん	肺がん	前立腺がん
平成 25 年度	21	25	0	1	3	0	
平成 26 年度	24	20	1	0	2	1	0
平成 27 年度	12	20	0	0	4	0	0

5) 緩和ケア

・ 緩和ケア外来

	(延べ受診者数/年)	外来日
平成 26 年度	159	週 2 回 火曜日(13:00~16:00)、金曜日(9:00~13:00)
平成 27 年度	104	同上

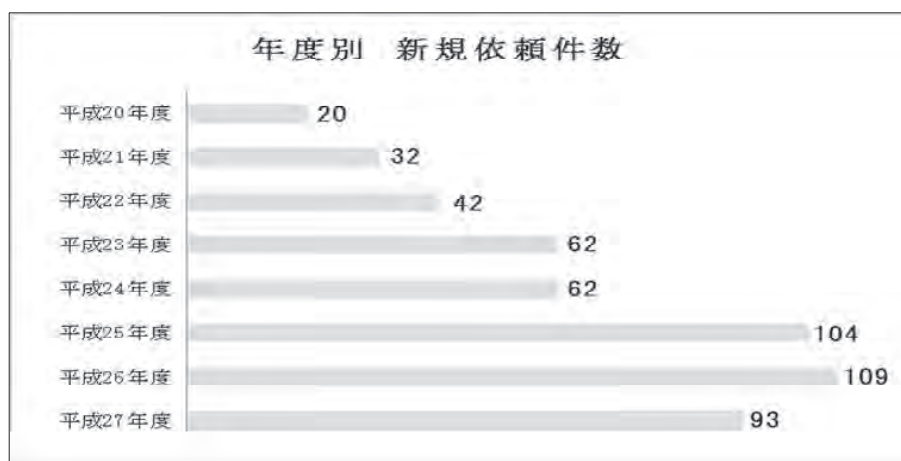
・ 緩和ケアチーム

緩和ケアチームカンファレンス：46回(火曜日 1回/週 開催)

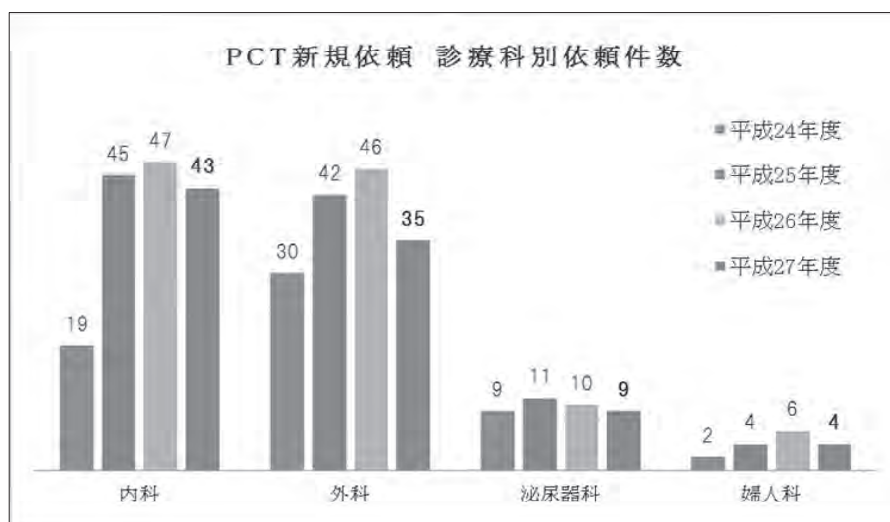
緩和ケアチームラウンド件数： 643 件

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
75	38	65	47	36	61	69	42	66	64	46	34

年度別 緩和ケアチーム新規依頼件数（実件数）の推移

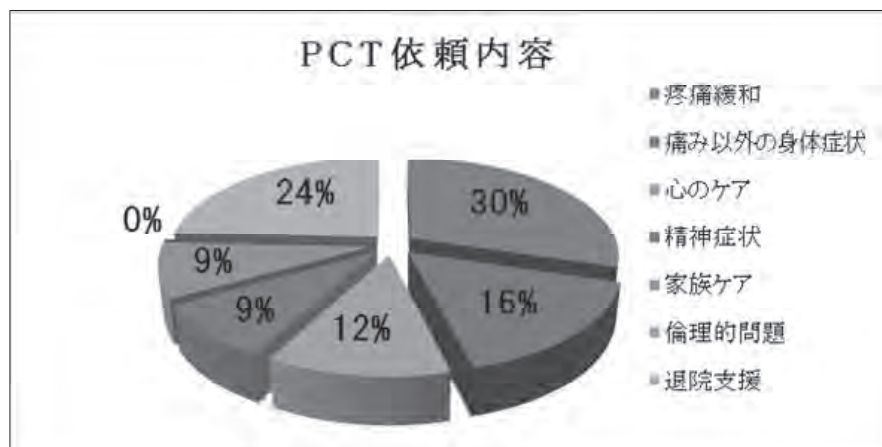


診療科別 緩和ケアチーム新規依頼件数（実件数）

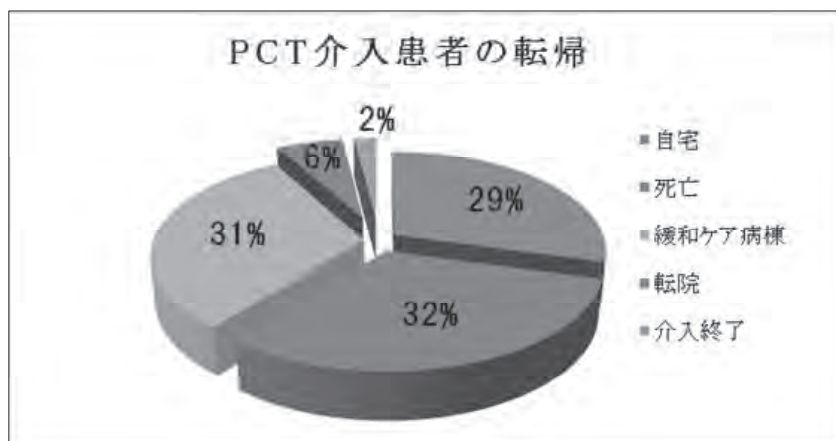




緩和ケアチーム依頼内容（実件数）



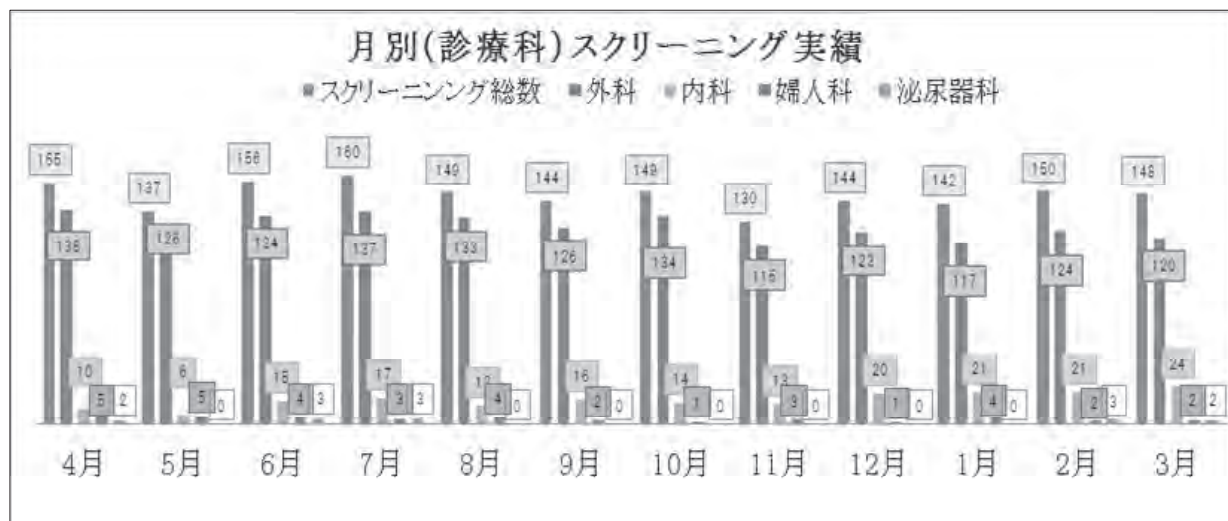
緩和ケアチーム介入患者の転帰



がん患者スクリーニング

対象：外来（外科・内科・泌尿器・婦人科）通院中のがん患者で、化学療法中、医療用麻薬内服中、主治医が告知直後の患者を抽出対象としている。

実施 延べ人数 1,764 名 【外科 1,527 名、内科 189 名、婦人科 36 名、泌尿器科 13 名】





6) がん患者支援センター

がん相談とがん以外相談延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
がん相談	101	79	137	106	143	105	113	126	164	135	104	103	1416 (28%)
がん以外相談	306	303	314	277	278	280	325	282	269	324	363	359	3680 (72%)
合計	407	382	451	383	421	385	438	408	433	459	467	462	5096

7) がん患者会「ほほえみの会」

- ・ 会員数 15名 (平成28年3月31日現在)

平成27年度活動内容

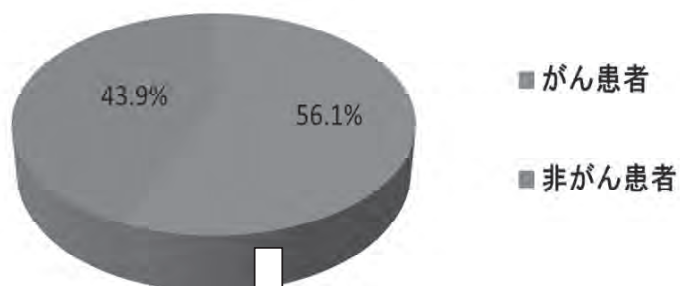
開催日	内容	参加人数
平成27年 4月11日(土)	アピアランスケア(外見支援)	会員7名
平成27年 5月9日(土)	座談会	会員4名
平成27年 6月20日(土)	座談会	会員6名
平成27年 7月11日(土)	勉強会「がん治療と生活を支える緩和ケア～知ってほしい緩和ケア～」 講師：緩和ケア認定看護師 牧原 りつ子	会員6名
平成27年 8月8日(土)	勉強会「ストレッチをして体をほぐそう」 講師：リハビリテーション技術課 理学療法士 川本 千聖	会員7名
平成27年 9月12日(土)	折り紙(市民公開講座の広報物作成)	会員6名 会員外1名
平成27年 10月10日(土)	市民公開講座での広報掲示物の作成	会員7名
平成27年 11月14日(土)	座談会 ほほえみガーデンにチューリップの球根植え	会員5名
平成27年 12月12日(土)	勉強会「高額療養費制度やその他制度について」 講師：社会福祉士 肘井 和樹	会員4名
平成28年 1月9日(土)	総会 座談会	会員2名
平成28年 2月13日(土)	市民公開講座 DVD 上映会 座談会	会員3名
平成28年 3月12日(土)	座談会	会員3名



3. 口腔機能管理実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
周術期	手術入院前 歯科医院へ紹介	19	21	17	27	22	27	36	30	28	29	27	22	305
	入院時 専門的口腔ケア	12	17	24	23	20	28	34	34	33	33	36	28	322
	手術前日 専門的口腔ケア	2	6	4	6	4	2	6	15	9	13	12	9	88
	手術前後口腔ケア実施(歯科受診無)	4	1	4	6	5	7	2	4	6	3	5	3	50
	手術翌日 専門的口腔ケア	16	19	29	30	27	34	29	31	41	29	59	59	403
	周術期口腔機能管理後手術:加算有	9	10	12	12	14	12	16	17	16	14	15	14	161
	退院時情報提供書作成依頼:算定有	0	4	2	5	9	8	9	15	14	10	18	18	112
	退院時情報提供書作成依頼:算定無	3	1	4	1	3	3	7	5	5	1	2	2	37
化学療法	化学療法前に歯科医院へ紹介	1	1	0	0	0	2	2	3	2	2	1	1	15
	化学療法中に歯科医院へ紹介	4	6	3	0	1	0	0	0	1	1	1	1	18
各科	各診療科から歯科医院へ紹介	5	2	3	3	4	3	4	4	3	4	2	1	38
歯科衛生士の活動	口腔ケア依頼あり実施(入院中)	1	4	2	2	0	2	1	1	3	4	3	4	27
	訪問診療依頼対応	4	3	2	5	7	7	3	4	1	8	5	6	55
	相談のみ	2	2	4	5	0	2	5	2	0	2	3	4	31
	合計	81	97	110	125	116	137	154	165	162	153	189	172	1662

手術前 歯科医院紹介実績(305件)



歯科医院へ紹介した
がん患者の周術期口腔機能管理料算定状況





4. この一年のあゆみ

平成 27 年 1 月より開始した、がん患者スクリーニングは、外来で化学療法中、医療用麻薬内服中、告知後の患者を対象として実施している。平成 27 年度のスクリーニング実施延べ人数は 1,764 名（外科 1,527 名、内科 189 名、婦人科 36 名、泌尿器科 13 名）であった。

平成 27 年 4 月から歯科の休診となり、病院と地域の歯科医療機関との連携体制の構築が必須の状況となった。そこで平成 27 年 1 月に口腔機能管理プロジェクトチームが設置され、歯科医師会との連携構築、周術期における口腔機能管理体制・運用方法の決定、重症患者等の口腔機能管理体制の構築、口腔機能管理に係る多職種協働の構築を掲げ活動を行ってきた。医科の中で、歯科衛生士 2 名が中心となり、連携歯科医院は 86 件となり、平成 27 年度の医科歯科連携の実績は、手術入院前の歯科医院紹介件数は延べ 305 件、周術期口腔機能管理手術件数は延べ 158 件であった。今後も、医科と地域の歯科との更なる連携の強化を図り、院内の口腔ケアの質の評価を行いながら、口腔ケアの向上をめざした継続的な活動を展開していきたいと考える。



9. 地域医療連携室

1. スタッフ紹介（平成28年3月31日現在）

地域医療連携室長：第1循環器内科部長 森 唯史（兼）

看護師：市丸 留美 丸尾 美紀

主事：内田 敦子 池上 純子

社会福祉士：岩田 亜衣 肘井 和樹 柿木 伸也 松尾 あすみ

事務：中嶋 沙緒里 菊池 順子 池田 香織（兼） 日高 純子（兼）

歯科衛生士：岩本 優美 中村 幸恵

2. 業務内容

1) 紹介率、逆紹介率

	紹介率	逆紹介率
平成25年度	60.2%	51.4%
平成26年度	76.1%	55.5%
平成27年度	81.8%	59%

平成26年度診療報酬改定により計算方法が変更された。また、紹介率65%以上逆紹介率40%以上となる

2) 医療機器共同利用数、共同病床利用数

・ 医療機器共同利用数

	CT	MRI	RI	血管造影	治療	超音波	その他	合計
平成25年度	118	90	116	0	53	8	4	389
平成26年度	126	118	125	0	42	6	6	423
平成27年度	109	115	90	4	44	4	9	375

・ 共同病床利用数

	共同病床利用患者数	利用日数
平成25年度	11	78
平成26年度	9	215
平成27年度	6	140

1人の患者が入退院を繰り返された

3) 研修会開催

・ 紹介症例報告会

開催日	内容	参加人数
平成27年 5月26日（火）	トピックス 「脳神経外科領域—最近の話題—」 脳神経外科副部長 岡本 浩昌	院内 33名 院外 4名 計 37名
平成27年 7月28日（火）	レジデント症例報告 「診断が極めて困難であった右バルサルバ洞限局性解離による 若年発症の急性心筋梗塞一例」 循環器内科レジデント 有馬 岳史 トピックス「下肢動脈閉塞性疾患の診断と血管内治療について」 放射線科部長 眞武 邦茂	院内 34名 院外 2名 計 36名



平成 27 年 9 月 28 日 (月)	地域がん診療連携拠点病院 公開講習会と合同開催 「がん薬物療法専門医の役割と今後の展望」 内科医師 梅口 仁美	院内 50 名 院外 19 名 計 69 名
平成 27 年 11 月 24 日 (火)	「悪性リンパ腫との鑑別を要した多発脾腫瘍の一例」 外科医師 鶴 安浩 トピックス 「鼠径ヘルニア手術—腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術導入にあたって—」 第 1 外科副部長 神谷 尚彦	院内 23 名 院外 4 名 計 27 名
平成 28 年 3 月 22 日 (火)	研修医症例報告 「少量の芍薬甘草草で発症した重症偽性アルドステロン症の一例」 研修医 山口 博史 トピックス 「アンリー・デュ…何? 赤十字巡礼より」 第 1 循環器内科部長 森 唯史	院内 27 名 院外 7 名 計 34 名

4) 救急患者数

	救急用又は患者輸送用自動車 により搬入した救急患者の数	左記以外の救急患者の数	計
平成 25 年度	1,868 人 (1,235 人)	5,880 人 (776 人)	7,756 人 (2,011 人)
平成 26 年度	2,097 人 (1,392 人)	5,944 人 (793 人)	8,041 人 (2,185 人)
平成 27 年度	1,991 人 (1,327 人)	5,992 人 (782 人)	7,983 人 (2,109 人)

() 内は、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を示す

5) 地域連携

- ・ 地域連携パス連携医療機関数

	大腿骨 頸部 骨折	脳卒中	がん						
			胃がん	大腸がん	食道がん	肝がん	乳がん	肺がん	前立腺 がん
平成 25 年度	8	8	45	45	12	22	21	21	
平成 26 年度	8	8	45	45	12	22	23	22	12
平成 27 年度	8	8	46	46	12	22	24	22	14

- ・ 地域連携パス使用患者数

	大腿骨頸部骨折	脳卒中	がん
平成 25 年度	66 人	82 人	50 人
平成 26 年度	84 人	71 人	48 人
平成 27 年度	68 人	90 人	36 人

- ・ 研修会・連絡会の開催

開催日	内容
平成 27 年 6 月 5 日	脳卒中・大腿骨頸部骨折地域連携パス連絡会
平成 27 年 10 月 2 日	脳卒中・大腿骨頸部骨折地域連携パス連絡会



平成 28 年 2 月 5 日	脳卒中・大腿骨頸部骨折地域連携パス連絡会
平成 28 年 3 月 7 日	平成 27 年度「佐賀県がん地域連携パス」に関する研修会 (4 拠点病院での合同開催)

・ 佐賀県診療録地域連携システム利用状況

	登録医療機関数	登録者数
平成 25 年度	19	109
平成 26 年度	22	103
平成 27 年度	24	94

6) 委員会開催

- ・ 地域医療支援病院委員会 1 回
- ・ 病床運営委員会 なし

7) 相談業務

ケース人数

ケースの区分	実人数
年度実人数	1,177 人

年度延べ人数

ケースの区分	延人数
年度延人数	5,099 人

新規ケースの紹介経路

区分	実件数
医師	513 件
看護職	534 件
院内職員	18 件
本人	39 件
家族・親戚縁者	56 件
院外関係機関	132 件
近隣者・知人	0 件
ソーシャルワーカー	1 件
合計	1,293 件

介入の時期

区分	実人数
受診	13 人
外来継続	179 人
入院時	21 人
入院継続	160 人

援助方法

	方法	延件数
面接	本人	1,670 件
	家族・親戚縁者	1,146 件
電話	本人	17 件
	家族・親戚縁者	534 件
訪問	家族・親戚縁者	1 件
	その他	0 件
	同行・同伴・代行	6 件
	文書・FAX	627 件
	情報収集	1,020 件
	院内協議・院内カンファレンス	4,143 件
	院外協議・院外カンファレンス	3,363 件
	合同カンファレンス	11 件
	合計	12,538 件

相談援助内容

内容	延件数
家族関係に関すること	165 件
在宅介護・地域生活に関すること	1,050 件
療養生活に関すること	639 件
経済的問題に関すること	232 件
就労・職場環境に関すること	17 件
就学・教育環境に関すること	5 件
虐待・暴力・人権に関わること	4 件
受診・受療に関すること	232 件



退院期	903 人
その他	17 人
合 計	1,293 人

転院に関すること	2,691 件
他施設利用に関すること	850 件
心理・情緒的問題に関すること	100 件
他福祉関係法利用に関すること	1,139 件
その他	0 件
合 計	7,124 件

3. この一年のあゆみ

平成 27 年度は地域医療支援病院としての紹介率 81.8%、逆紹介率 59.0%と承認要件は達成できた。

「紹介患者を断らない」ために、各科診療部と受け入れ体制について協議をし、スムーズな対応が出来ている。同時に、入院センターや各病棟師長の協力を得ながらベットコントロールを行い、紹介患者を受け入れることができた。

地域医療連携では、13 の施設訪問を行い、地域連携パスを結ぶと同時に、地域医療機関からの要望を聞く事に努めた。今後も地域医療機関の要望に応じた体制作りの為にも、医療機関を計画的に訪問し、顔と顔の見える関係を構築していく必要がある。

相談業務を相談援助調整内容別にみると、前年度と変わらず「在宅介護・地域生活に関すること」「転院に関すること」「他施設利用に関すること」が半数以上を占め、退院支援や在宅療養に関する相談が多い。佐賀県北部医療圏では、平成 27 年度に医療介護連携調整実証事業が実施され、「退院支援ルール」の策定が行われた。このルールは病院とケアマネジャーの情報提供や連携に関するルールを定め、着実な引継ぎを行うことで退院後も自宅で安心して生活できることを目指している。このルールの運用もすすめながら、今後さらに病棟看護師と協働した早期からの退院支援につなげていきたい。



10. 事 務 部

事務部長

浦方 英二

事務副部長

山口 和夫 坂本 正策

総務課

1. スタッフ紹介 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

総務課長

池田 隆雄

【総務係・厚生係】

総務係長兼人事係長兼運転手

松本 英成

主事兼運転手

大串 博輝

〃 兼広報推進室

大松 万佐也

嘱 託

中原 恵利子

〃

岩切 泰司

〃 (医局秘書)

平松 佳子

〃 (看護管理センター)

山崎 朝美

2. この1年の動き

【会 議】

診療管理会議 11 回 幹部会議 (定例) 12 回

管理会議 12 回 薬事審議会 6 回

【委員会】

医療安全管理委員会 12 回 広報委員会 5 回

クリニカルパス委員会 12 回 患者サービス委員会 12 回

予算管理委員会 1 回 衛生委員会 12 回

救急・I C U委員会 12 回 災害対策委員会 1 回

院内感染対策委員会 12 回 感染対策外部委員会 2 回

輸血療法委員会 6 回 リスクマネジメント検討会 12 回

褥瘡対策委員会 6 回 医療ガス安全管理委員会 1 回

保険請求委員会 12 回 栄養管理委員会 6 回

レジメン審査委員会 12 回 新病院建設準備委員会 9 回

情報システム・パス・診療録管理合同委員会 12 回



【研修会等】

新規採用職員研修会	5 日間	緩和ケア研修会（2 日間）	1 回
院内緩和ケア勉強会	2 回	医療安全管理研修会	2 回
紹介症例報告会	5 回	がん診療連携拠点病院公開講習会	1 回
救急法研修会（3 日間）	1 回	がん診療連携拠点病院公開講演会	3 回
褥瘡対策研修会	5 回	がん診療連携拠点病院特別講演会	2 回
感染症対策公開講演会	2 回	感染対策研修会	2 回

【その他】

メンタルヘルス（産業医：第 1 月曜）12 回、（臨床心理士：第 3 金曜）12 回
計 24 回

【平成 27 年度採用選考会】

○看護師（推薦）	日時	平成 27 年 7 月 15 日	10:00
看護師	日時	平成 27 年 8 月 5 日	10:00
〃（二次）	日時	平成 27 年 10 月 3 日	10:00
○放射線技師	日時	平成 27 年 10 月 13 日	10:00
○言語聴覚士・理学療法士	日時	平成 27 年 11 月 17 日	10:00
○薬剤師	日時	平成 27 年 8 月 19 日	10:00

【訓 練】

消防（防火）訓練

第 1 回（夜間想定）

実施日時 平成 28 年 3 月 25 日（水）14:00～14:30

実施場所 本館管理棟 リハビリ室出火想定

3. その他

本社永年勤続表彰伝達式	日時	平成 27 年 5 月 18 日	16:30
開院 58 周年記念式典	日時	平成 27 年 10 月 13 日	18:30
	場所	シーサイドホテル	



会計課

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

会計課長	飯島 新吾	営繕係長	山崎 利幸
用度 1 係長	岩本 幸敏	用度 2 係長	大森 崇生
主 事	林田 美奈子	主 事	石橋 耕一
主 事	川内 かな子	嘱 託	井本 二三夫
嘱 託	吉村 睦美	嘱 託	松尾 貴和子

2. この 1 年の歩み

（1）経理関係

医業収益について、入院において、診療単価は前年より下がったものの患者数が増加し、外来においては注射料の増加により診療単価が伸び、結果 1 億 3 4 百万円の増収となった。

医業費用については、新病院への移転を見据えて看護職員の増員を行い、また清掃業、施設管理業といった新規の外部委託契約を行ったことから給与費、委託費が増加し前年度より 1 億 6 3 百万の増加となった。

その結果、医業収支は前年度より 2 9 百万円減収して 1 億 9 4 百万円となり、全体では 2 億 1 8 百万円の黒字を計上した

収益的収入及び支出

単位：百万円

医 業 収 益 （ A ）	7, 5 5 0	医 業 費 用 （ B ）	7, 3 5 6
入 院 関 係	5, 5 9 2	材 料 費	1, 9 6 0
外 来 関 係	1, 8 1 4	給 与 費	4, 0 3 0
そ の 他	1 4 4	そ の 他	1, 3 6 6
そ の 他 の 収 益	1 7 2	そ の 他 の 費 用	1 4 8
収 入 合 計 （ C ）	7, 7 2 2	費 用 合 計 （ D ）	7, 5 0 4
医 業 収 支 （ A ）－（ B ）	1 9 4		
当 期 純 利 益 （ C ）－（ D ）	2 1 8		

（2）用度関係

医薬品の価格については、薬価改定の年度ではなかった為に価格の変動がなかったが、交渉を重ねた結果約 6 百万円の値引きを引き出すことができた。

試薬については、昨年度が大幅な値引きであった為、今年度は約 3 0 万円と低迷した。



また、診療材料については、診療材料ベンチマークシステムを活用すると共に、S
PD委託業者と連携した価格交渉を実施し、約350万円の効果が出ている。

なお、平成27年度は平成28年に新病院移設を予定していることから医療機器の
購入は控えることとした。

よって、修理及び補充がメインとなり医療機器の購入については、約4千万円
であった。

医療用他機器整備一覧（整備額 100 万円以上）

機器名称			数	機器名称			数
1	鋼製小物（脳外科セット）	1	5	手術用鋼製小物（エアトーム）		1	
2	鋼製小物（婦人科セット）	1	6	手術用椎弓基本セット		1	
3	鋼製小物（椎弓セット）	1	7	血液ガス分析装置		1	
4	脊椎用ハット・ヒースソノハット	1					

（3）営繕関係

病院建替えまでの営繕については、老朽化した建物及び施設・設備の状況を十分に
把握して、改修等の判断する必要がある。

施設・設備修繕状況（修繕費 10 万円以上）

修繕名称	金額(円)	修繕名称	金額(円)
産婦人科外来及び地下機械室 冷温水管修理	264,600	地下廊下給湯管漏水修理	119,880
薬剤部エアーハンドリングユ ニット、冷水コイル取替工事	210,600	4階東洗面台給水管修理	182,520
中央材料室汚物流し系統汚水 管修理	144,720	管理棟院長補佐室空調機 取替工事	170,640
南3階汚物洗浄室蛇口取替工 事	131,760	管理棟医局当直室空調機 点検修理	178,200
放射線科テレビレントゲン室 空調機修理	103,680	手術室サーモスタット取 替工事	388,800
職員駐車場フェンス修理工事	199,800	検査室系統給水減圧弁取 替工事	122,040



医事課

1. スタッフ紹介 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

医事課長	徳田 孝久	
医事係長	米倉 稔喜	
主 事	福本 望	
嘱 託	高木 博美	
委 託	外来業務	13 名
	入院業務	8 名
	D P C 業務	1 名

2. この 1 年の歩み

平成 27 年度においては、7 月に急性期看護補助体制加算 25 対 1（看護補助者 5 割以上）、褥瘡ハイリスク患者ケア加算の施設基準を取得し、収入の増加を目指しました。

また、2025 年にむけた病床機能の方向性を選択する 2 年目となり、具体的には入院医療機関の病床機能を高度急性期、一般急性期、亜急性期、慢性期へと機能別に再編し高度急性期から在宅までの流れがより一層強いものとなりました。

病床機能報告制度においては、報告項目が増加し医療機関が都道府県に対し医療機能の現状と、今後の方向性を「高度急性期、急性期、回復期、慢性期」の 4 区分の機能より選択することが義務付けされており、当院においては、昨年と同様の地域救命救急センターの 15 床を「高度急性期」、残りの 286 床を「急性期」として報告することとなりました。

3. 施設基準の取得状況（主なもの）

- ・初診時特定療養費の変更 (平成 27 年 4 月 1 日)
※1620 円（税込）⇒ 2,700 円（税込）
- ・急性期看護補助体制加算 25 対 1（看護補助者 5 割以上） (平成 27 年 7 月 1 日)
※平成 28 年 3 月 1 日辞退
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 (平成 27 年 7 月 1 日)
- ・急性期看護補助体制加算 50 対 1 (平成 28 年 3 月 1 日)

4. D P C 係数の推移

	平成 27 年 4 月以降	平成 27 年 7 月以降	平成 28 年 3 月
Ⅲ群 基礎係数	1. 0276	1. 0276	1. 0276
暫定調整係数	0. 0342	0. 0342	0. 0342
機能評価係数Ⅰ	0. 2369	0. 2465	0. 2369
機能評価係数Ⅱ	0. 0639	0. 0639	0. 0639
合計係数	1. 3626	1. 3722	1. 3626



5. その他（研修会等）

- ・病院管理研修 医療経営専攻課程 (平成 27 年 6 月 13 日)
- 〃 (平成 27 年 7 月 17 日～18 日)
- ・病院管理研修 医療経営専攻課程 (平成 27 年 8 月 21 日～22 日)
- ・次期診療報酬改定に係るセミナー (平成 27 年 9 月 11 日)
- ・平成 27 年度 九州ブロック赤十字病院・健康管理センター医事主任者会議
日本赤十字社 長崎原爆病院 (平成 27 年 11 月 12 日～13 日)
- ・平成 27 年度赤十字医療施設医事業務研修会 (平成 28 年 1 月 14 日)
- ・第 18 回病院原価計算セミナー (平成 28 年 1 月 25 日)
- ・病院ダッシュボードユーザー会 (平成 28 年 1 月 27 日)
- ・診療報酬改定のポイントと今から取り組むべき対応 (平成 28 年 2 月 17 日)
- ・2016 年診療報酬を読み解く (平成 28 年 2 月 23 日)
- ・2016 年の診療報酬改定の徹底分析と対策 (平成 28 年 2 月 29 日)
- ・診療報酬改定説明会 (平成 28 年 3 月 24 日)



経営企画・情報課

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

課 長	野方 宏紀
経営企画係長	高岸 一郎
診療情報係長	岩本 利恵子（診療情報管理士）
主 事	築城 和明
主 事	志波 孝治（診療情報管理士）
主 事	吉武 明美（診療情報管理士）
主 事	川添 美沙（診療情報管理士）
主 事	結城 健
臨 時	入江 亮太郎
パ ー ト	脇山 恵美子
委 託	システムエンジニア 2 名

2. この一年の動き

【委員会開催・参加】

《開催》

・ 情報システム委員会	12 回
・ 診療録管理委員会	12 回
・ クリニカルパス委員会	12 回
・ 広報委員会	4 回

《参加》

・ 褥瘡委員会	6 回
・ 地域がん診療連携拠点病院運営委員会	12 回
・ D P C 運営委員会・コーディング専門委員会	12 回
・ 図書委員会	1 回

【研修業績】

- 平成 2 7 年度 院内がん登録実務中級者研修（認定証） 志波 孝治
- 平成 2 7 年度 院内がん登録実務中級認定者研修（認定証） 岩本 利恵子
- 平成 2 7 年度 院内がん登録実務初級認定者研修（認定証） 川添 美沙

【B S C 導入に向けた取組み】

平成 26 年度より本格導入した病院 BSC の運用も 3 年目を迎えた。各部署 BSC 提出後に院長ヒヤリングを実施し、病院幹部との BSC を通じたコミュニケーションを図った。11



月からは、第2回目の院長ヒヤリングを実施し、BSCの進捗状況の確認を行った。

また、10月には東京都港区で開催された「日本医療バランスト・スコアカード研究学会第14回学術総会」にて口述発表を行い、優秀演題賞を受賞した。その報告会を12月に院内で行い、今後の取組みへの意識と意欲の向上を図った。

3. その他

＜院外研修会・セミナー・他＞

・佐賀県診療情報管理懇話会（9回）	（平成27年4月18日）	【吉武】
・地域ミーティング（佐賀県）	（平成27年5月23日）	【岩本】
・日本診療情報管理士会・全国研修会	（平成27年8月1日～2日）	【岩本】
・院内がん登録実務中級者研修	（平成27年8月3日～7日）	【志波】
・第16回MDV九州地区研修会	（平成27年8月22日）	【吉武】
・院内がん登録実務中級認定者研修	（平成27年8月27日）	【岩本】
・中堅幹部職員養成研修（前期）	（平成27年9月9日～11日）	【岩本】
・中堅幹部職員養成研修（後期）	（平成27年10月7日～9日）	【岩本】
・院内がん登録実務初級認定者研修	（平成27年9月29日）	【川添】
・全国がん登録説明会（中継）	（平成27年10月13日）	【岩本・吉武】
・佐賀県診療情報管理懇話会（10回）	（平成27年10月17日）	【岩本・吉武】
・赤十字DPC分析研修会	（平成27年10月30日）	【志波】
・栗田基金研修会（東京）	（平成27年11月13～14日）	【岩本】
・第19回全国赤十字診療情報管理研究会	（平成27年11月28日）	【川添】
・地域ミーティング（佐賀県）	（平成27年12月19日）	【岩本】
・全国がん登録説明会	（平成28年1月8日）	【岩本】

＜実習生受け入れ＞

福岡医療秘書福祉専門学校	3名（平成27年6月15日～7月3日）
麻生医療福祉専門学校	1名（平成27年11月9日～12月4日）
ILPお茶の水医療福祉専門学校	1名（平成28年2月8日～26日）
医療ビジネス専門学校	1名（平成28年2月8日～26日）
ILPお茶の水医療福祉専門学校	1名（平成28年2月15日～3月11日）

今年度は、退院患者数は前年度と比べて168件減少の6553件、サマリー完成率95.6%（年間平均）と未整理も減少した。最終コーディングからアクティブへの整理がかなり残っているため、今回もDPCから病名・手術・処置の入力を行った。疾病大分類別では前年度と比較、眼・消化器疾患が増加、循環器・呼吸器疾患は減少診療科別では、外科・脳外科・眼科の順で多かった。



科ごとの紹介・逆紹介入院は、転院が大幅に減少した。疾病上位では、前年度は肺がんが1位であったが、今年度は白内障・結腸腺腫が上位を占めた。

手術・処置では、疾病が上位だった白内障手術、大腸の粘膜切除術は退院数が減少した中、大幅の増加となった。

今年度は、8月1日移転に伴い電子カルテが導入予定で紙カルテの運用が終了となる。また、病歴システムも富士通の病歴大将からイシズシステムに変更になり動作環境が変わる。運用・機能面を理解し使いこなすことが出来るようにしたい。また、しばらくは紙カルテと電子カルテを併用するのでチェック体制は強化していきたい。



2015年度 疾病大分類別 退院患者件数

(退院数 6553 未整理分はD P C病名入力)

	大分類	計	男	女	死亡数
I	感染症及び寄生虫症	162	92	70	10
II	新生物	1803	986	817	99
III	血液及び造血器・免疫障害	43	17	26	1
IV	内分泌・栄養及び代謝疾患	128	79	49	3
V	精神及び行動の障害	15	8	7	
VI	神経系の疾患	84	50	34	2
VII	眼及び付属器の疾患	302	126	176	
VIII	耳及び乳様突起の疾患	8	4	4	
IX	循環器系の疾患	843	497	346	60
X	呼吸器系の疾患	614	406	208	41
X I	消化器系の疾患	745	440	305	20
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	43	25	18	2
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	237	116	121	2
X IV	尿路生殖器系の疾患	277	127	150	11
X V	妊娠・分娩及び産褥	234		234	
X VI	周産期に発生した病態	76	39	37	
X VII	先天奇形・変形及び染色体異常	16	8	8	
X VIII	症状・徴候及び異常所見	186	103	83	9
X IX	損傷・中毒及び外因の影響	665	343	322	9
X X	傷病及び死因の外因	0	0	0	
X X 1	健康状態に影響を及ぼす要因他	72	41	31	
	合 計	6553	3507	3046	269



2015年度 診療科別退院患者件数

(退院数 6553)

診療科	計	男	女
内科	1706	1075	631
腎内科	141	90	51
循環器科	515	312	203
小児科	626	361	265
外科	1239	667	572
整形外科	735	357	378
脳外科	466	261	205
皮膚科	63	38	25
泌尿器科	194	154	40
産婦人科	451	2	449
眼科	309	131	178
麻酔科	6	1	5
救急科	102	58	44
計	6553	3507	3046

2015年度 診療科別紹介・逆紹介件数

(退院数 6553)

診療科	紹介入院	外来他院	転院
内科	634	217	188
腎内科	57	34	16
循環器科	253	240	62
小児科	366	36	24
外科	310	85	47
整形外科	373	123	189
脳外科	200	90	149
皮膚科	29	6	4
泌尿器科	49	8	16
産婦人科	306	9	42
眼科	119	2	0
麻酔科	0	2	0
救急科	15	28	19
合 計	2711	880	756



2015年度 疾病中分類 上位20

(退院数 6553 冊)

順位	中分類 コード	疾病名	件数	平均在院 日数	平均年齢
1	H25	老人性白内障	246	8.2	77.1
2	D12	結腸・直腸腺腫	200	3.5	66.7
3	C34	肺がん	188	23.5	72.9
4	C18	結腸がん	173	13.7	72.3
5	C50	乳がん	158	9.7	60.5
6	I63	脳梗塞	156	25.1	75.3
7	I50	心不全	149	24.3	77.4
8	S72	大腿骨骨折	139	31.9	81.6
9	C20	直腸がん	136	9.0	63.8
10	J18	肺炎	134	11.7	51.1
11	C16	胃がん	133	20.2	73.3
12	K80	胆石症	104	8.2	71.2
13	K63	大腸ポリープ	98	4.8	68.9
14	I61	脳内出血	82	37.6	72.2
15	I20	狭心症	77	5.5	69.3
16	K56	腸閉塞	75	14.0	61.2
17	I25	慢性虚血性心疾患	73	4.0	66.4
18	Z47	抜釘	69	7.6	47.8
19	C22	肝がん	67	16.1	71.0
19	S06	頭蓋内損傷	67	17.4	61.0



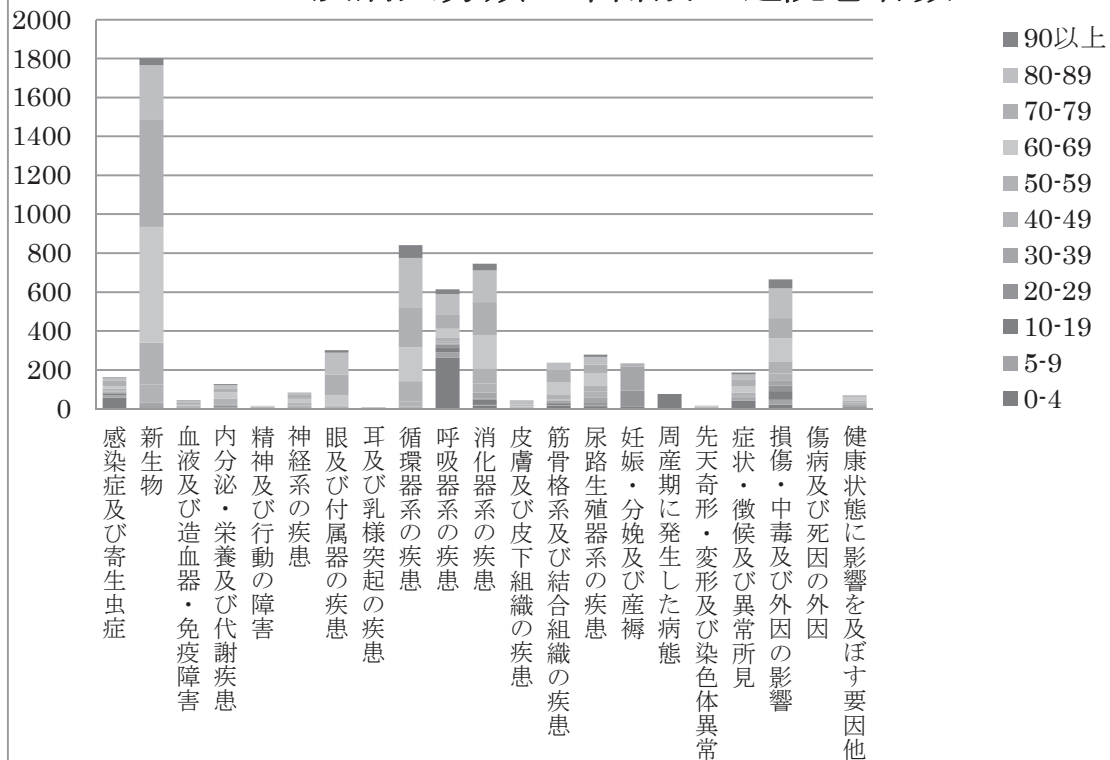
2015年度 手術・処置（ICD-9CM）件数 上位20

（退院数 6553）

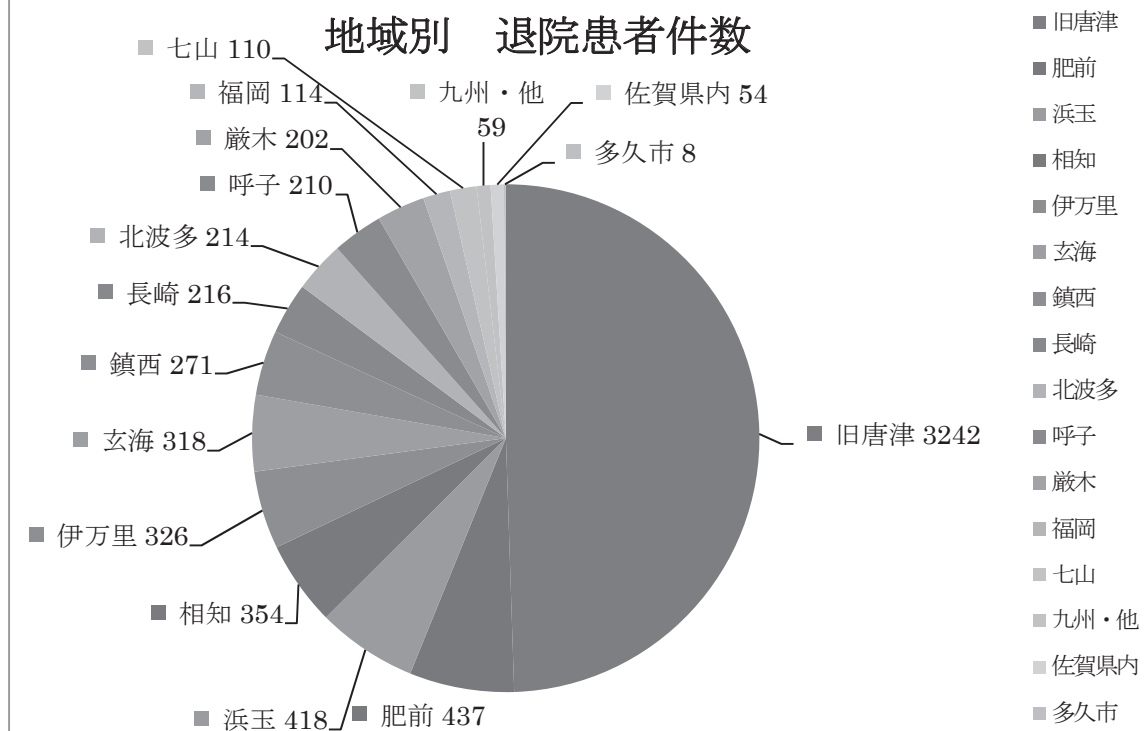
順位	主手術・処置名	件数
1	超音波水晶体乳化吸引術	416
2	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（EMR）	344
3	心カテーテル検査（CAG）	248
4	内視鏡的胆道ステント留置術	121
5	経皮的冠動脈形成術（PCI）	99
6	大腿骨骨折	97
7	骨内異物（挿入物）除去術（上肢 37 下肢 49）	86
8	胸腔鏡下肺切除術（悪性・良性・ブラ）	84
9	結腸・直腸切除術（開腹 15 腹腔鏡下 61）	76
10	帝王切開術（選択的 37 緊急 34）	71
11	胆嚢摘出術（開腹 5 腹腔鏡下 64）	69
12	内視鏡的消化管止血術（胃）	68
13	人工関節置換術（股 48 膝 18）	66
14	ソケイ・腹壁癒痕・大腿・ヘルニア術（内、腹腔鏡下 36）	65
15	乳房温存術 46 乳房切除術 13	59
16	内視鏡的乳頭切開術（EST）	56
17	椎弓切除術 38 内視鏡下 16	54
18	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術・除去術	52
19	子宮内膜搔爬術（妊娠中絶も含む）	51
20	ペースメーカー移植術 36 交換術 13	49

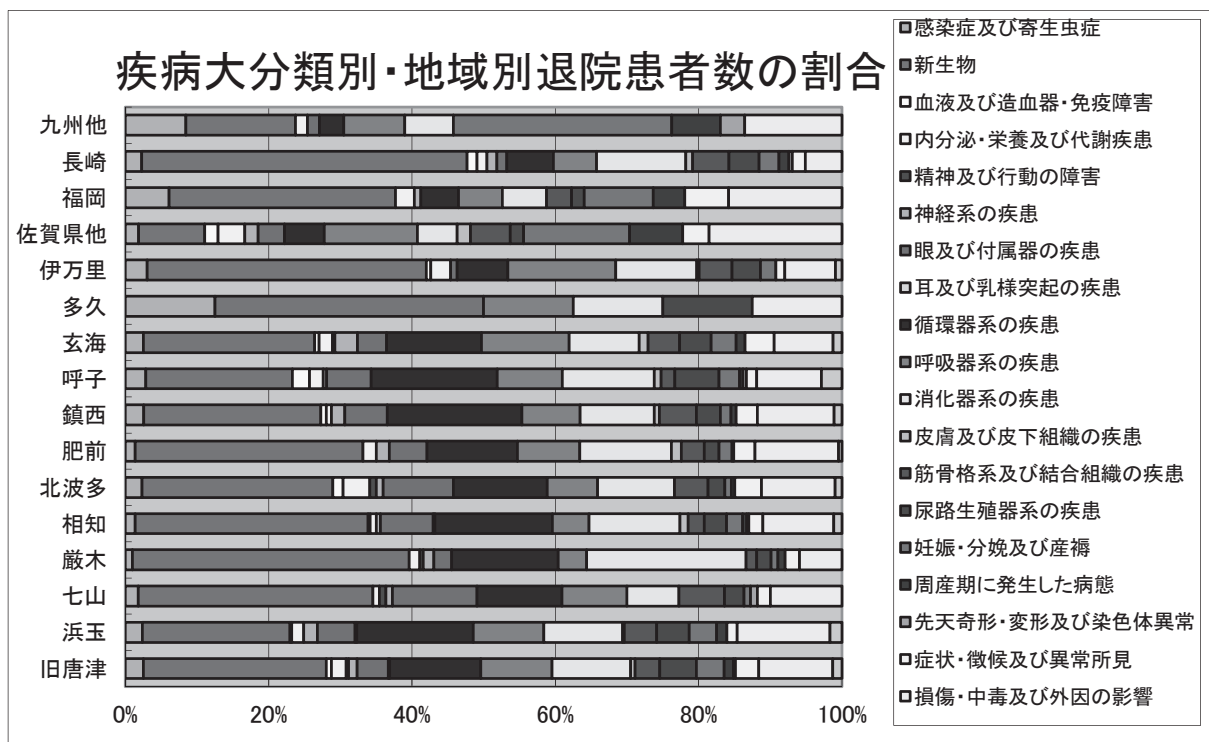


疾病大分類 年齢別 退院患者数



地域別 退院患者件数





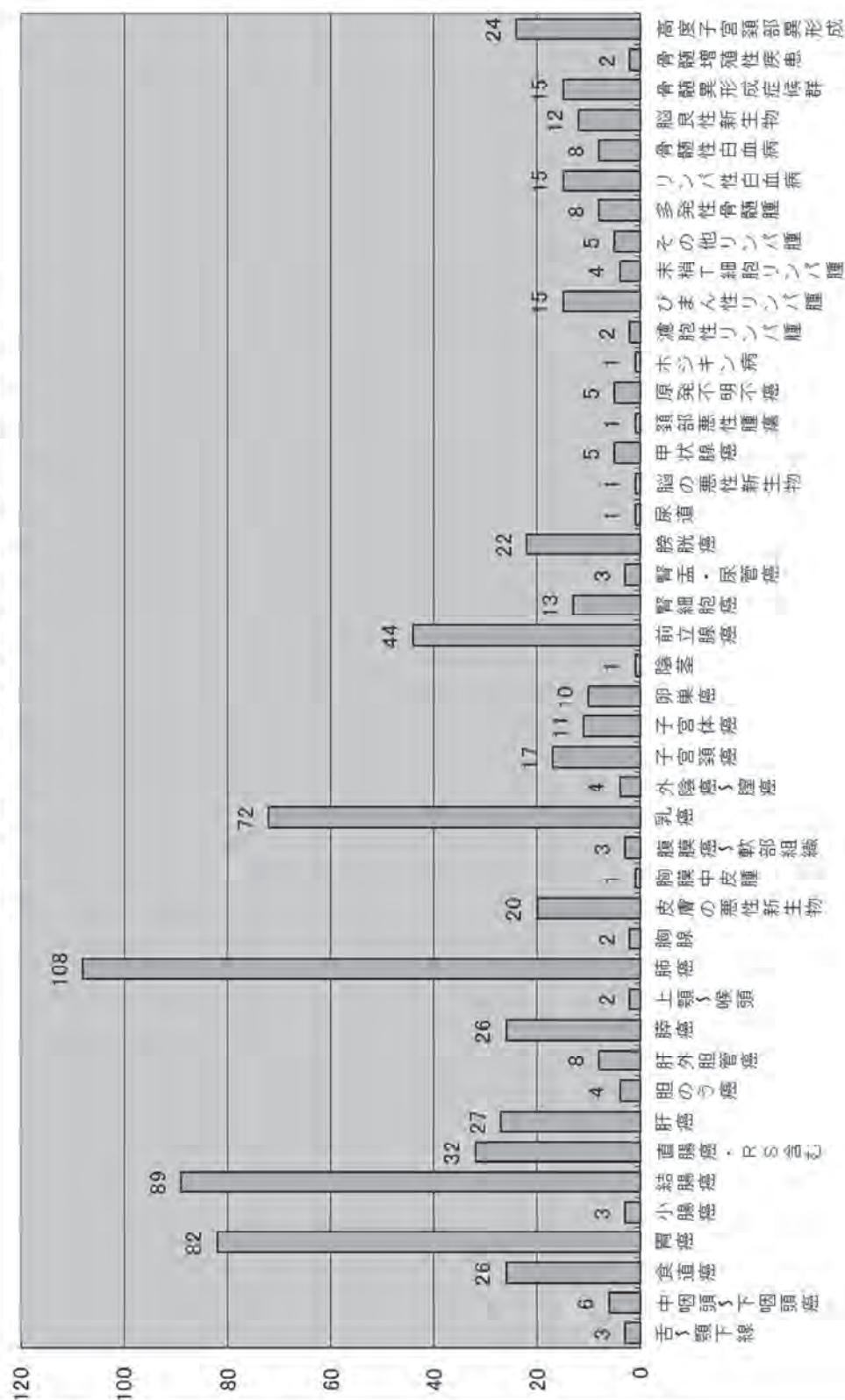


2015年 がん登録 部位/治療別 状況

部位別	ICDコード	件数	男	女	手術	開腹	腹・胸腔鏡	内視鏡	化学	放射線	化学・放射
舌～顎下線	C02～08	3	2	1						1	
中咽頭～下咽頭癌	C10～13	6	6	0							
食道癌	C15	26	22	4	3	1	2	7	3	1	6
胃癌	C16	82	53	29	37	20	17	27	22	0	0
小腸癌	C17	3	2	1	1	1		1	1		
大腸癌	C18～20	(121)	(69)	(52)	(81)	(16)	(65)	(25)	(50)		(2)
結腸癌	C18	89	46	43	56	14	42	21	33	0	2
直腸癌・RS含む	C19～20	32	23	9	25	2	23	4	17	0	0
肝癌	C22	27	23	4	5	5			14	0	0
胆のう癌	C23	4	1	3	2	2		1	2		
肝外胆管癌	C24	8	4	4	3	3		5	2		
膵癌	C25	26	14	12	5	5		5	10	0	2
上顎～喉頭	C31～32	2	2	0							
肺癌	C34	108	68	40	40	2	38		38	6	15
胸腺	C37	2	0	2	2		2		0	1	0
皮膚の悪性新生物	C44	20	12	8	16					1	
胸膜中皮腫	C45	1	1	0							
腹膜癌～軟部組織	C48～49	3	1	2					1	1	
乳癌	C50	72	0	72	48				32	17	15
外陰癌～陰癌	C51～52	4	0	4	1				0	1	0
子宮頸癌	C53	17	0	17	2						
子宮体癌	C54	11	0	11	6				1	2	0
卵巣癌	C56	10	0	10	9	9	1		5	0	0
陰茎	C60	1	1	0	1				0	0	0
前立腺癌	C61	44	44	0	1			1	19	10	1
腎細胞癌	C64	13	8	5	4				1	0	0
腎盂・尿管癌	C65～66	3	2	1	2	1	1	1			
膀胱癌	C67	22	18	4	1			11	9	2	0
尿道	C68	1	1	0							
脳の悪性新生物	C71	1	0	1	1						
甲状腺癌	C73	5	1	4	2						
頸部悪性腫瘍	C76	1	1	0							
原発不明不癌	C80	5	1	4					2	1	1
ホジキン病	C81	1	0	1					1		
濾胞性リンパ腫	C82	2	1	1					2	0	0
びまん性リンパ腫	C83	15	9	6	2	1	1		13	0	0
末梢T細胞リンパ腫	C84	4	2	2					3		
その他リンパ腫	C85	5	2	3					2		
多発性骨髄腫	C90	8	5	3					5		
リンパ性白血病	C91	15	6	9					11		
骨髄性白血病	C92	8	7	1					5		
脳良性新生物	D18・32・43	12	5	7	4						
骨髄異形成症候群	D46	15	7	8					7		
骨髄増殖性疾患	D47	2	1	1							
高度子宮頸部異形成	N87	24	0	24	24						
合 計		763	402	361	303	66	127	84	261	44	42



2015年 院内がん登録 部位別





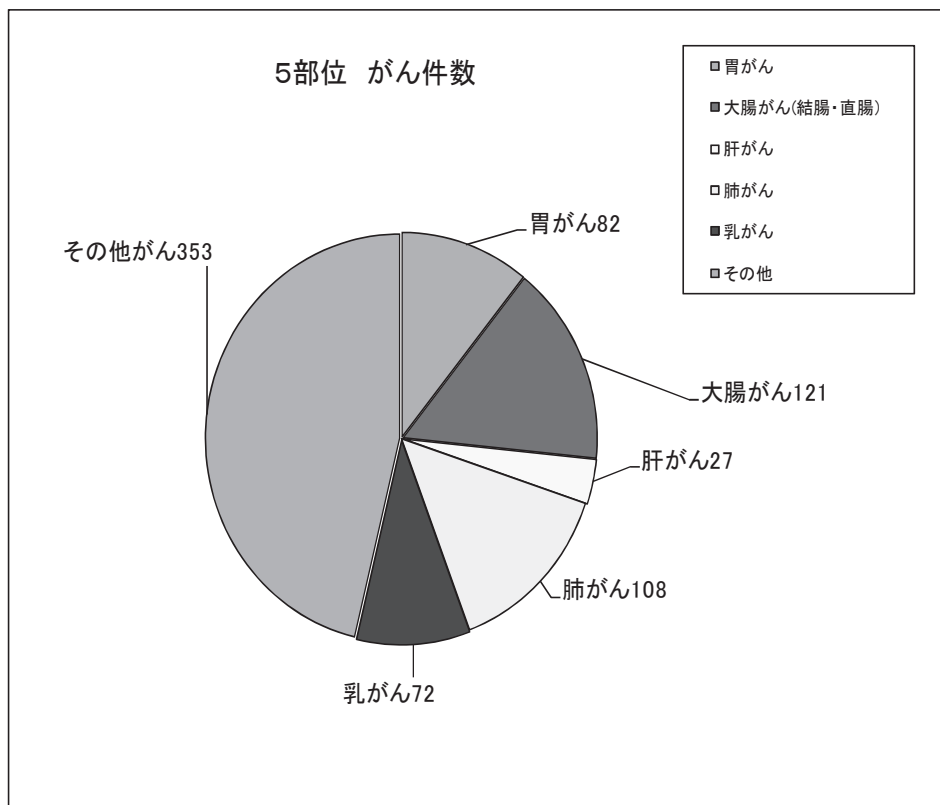
2015年 院内がん登録 5部位がん・死亡件数

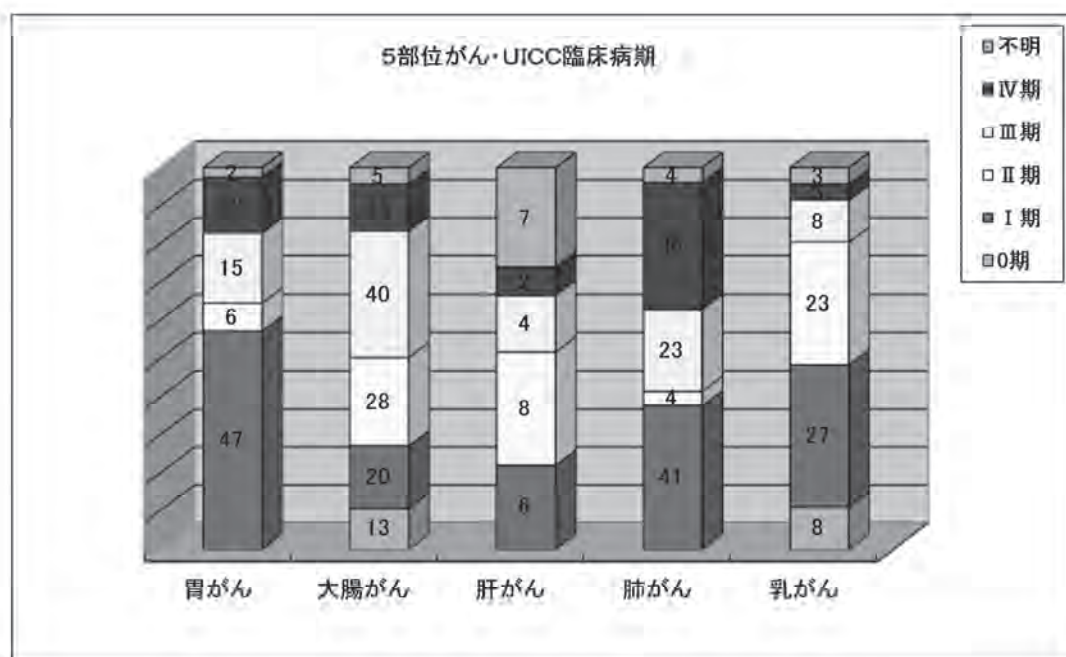
部位	件数	占有率	死亡	割合
胃がん	82	11%	12	15%
大腸がん(結腸・直腸)	121	16%	13	11%
肝がん	27	4%	7	26%
肺がん	108	14%	31	29%
乳がん	72	9%	0	0%
その他	353	46%	57	16%
合 計	763	100%	120	16%

院内死亡	83
院外死亡	37
合 計	120

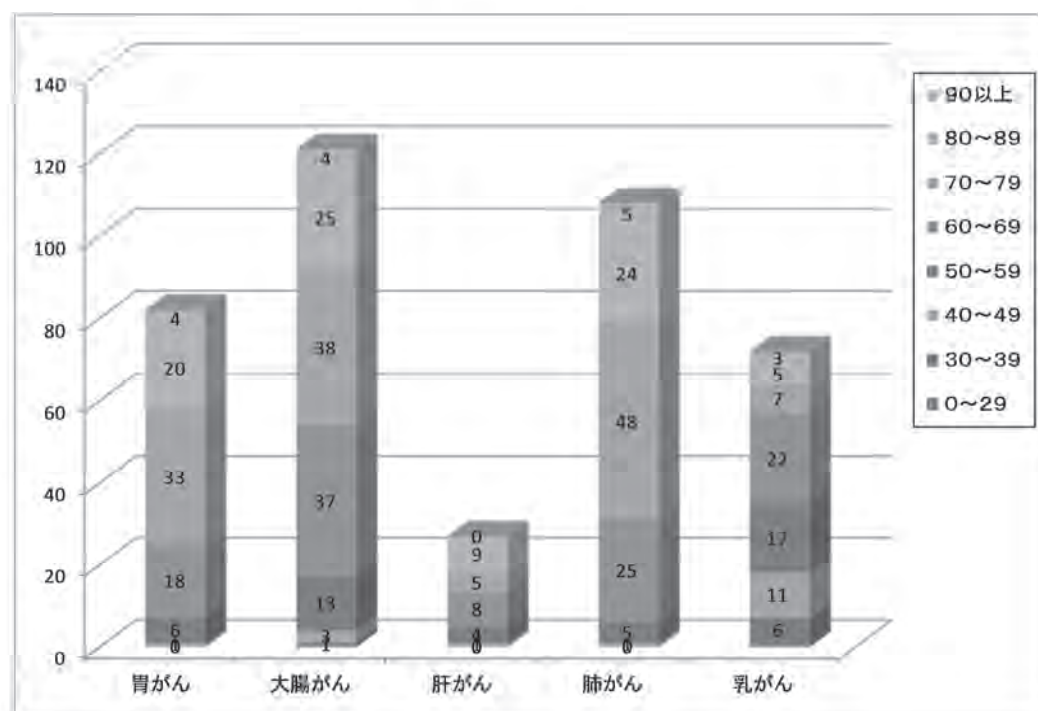
* 院外死亡は、おくやみ
他施設情報

死亡数は平成28年6月15日現在



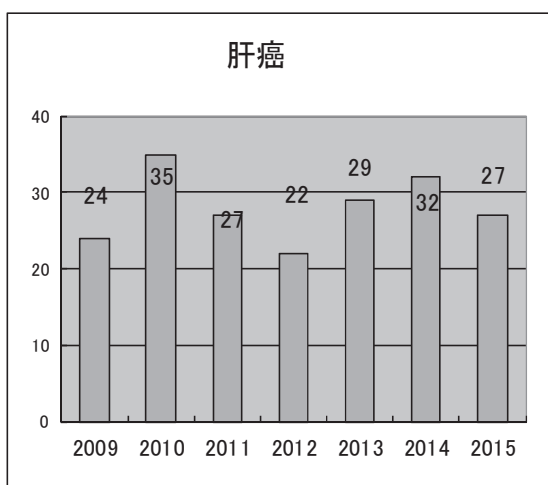
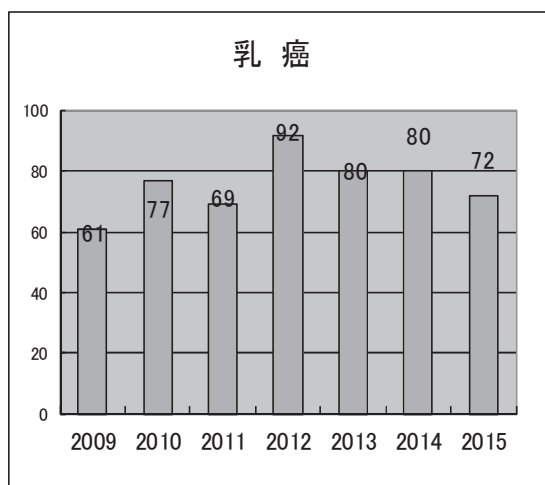
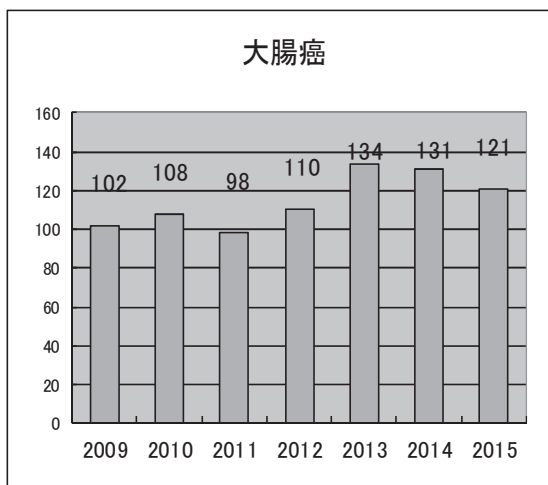
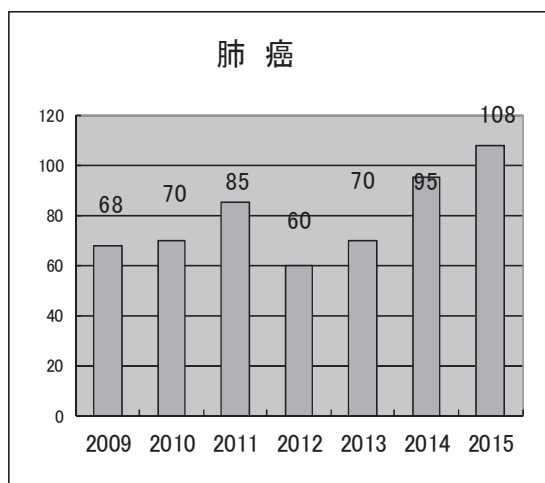
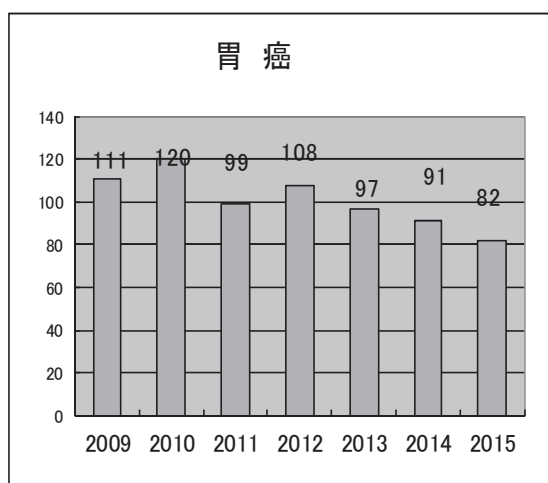


5部位がん 年齢別件数



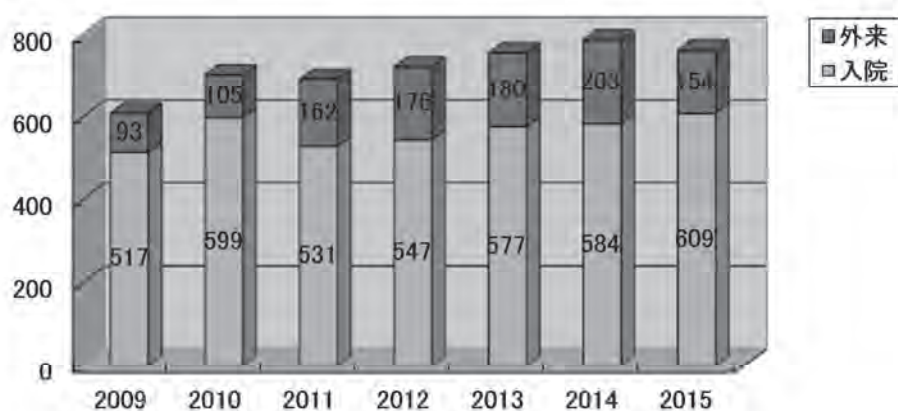


5大がん 年別登録件数

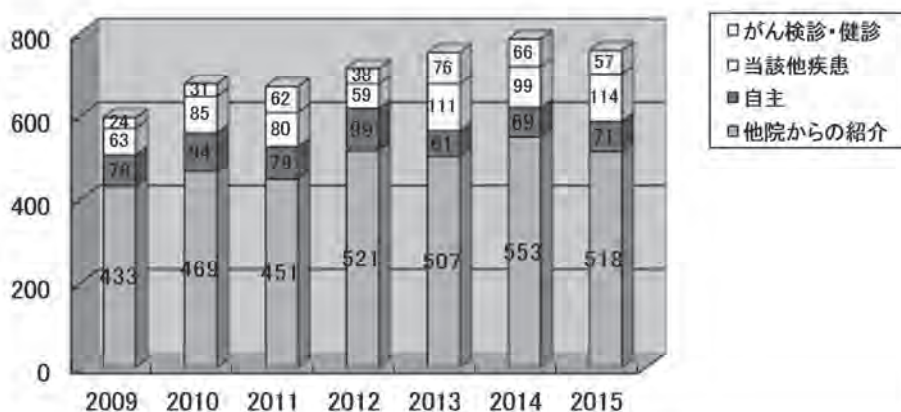




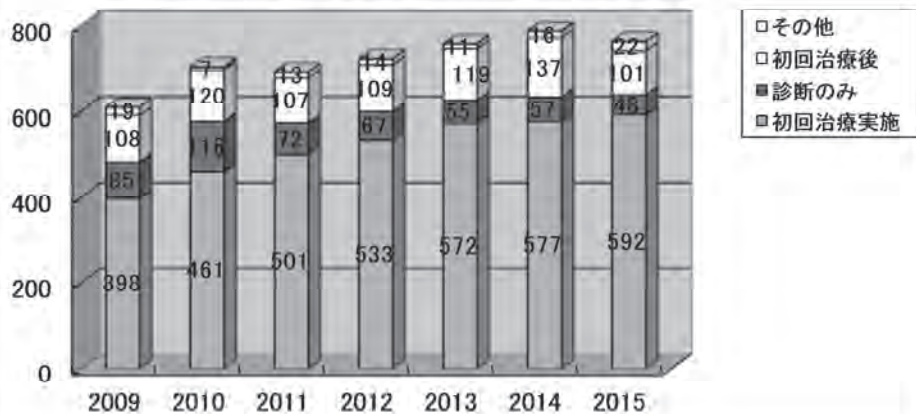
院内がん登録件数の年次推移



来院経路の年次推移



登録数に占める当院での初回治療件数の年次推移





2015年 部位別 上位10

順位	部位別	件数
1	肺癌	108
2	結腸癌	89
2	胃癌	82
4	乳癌	72
5	前立腺癌	44
6	子宮頸癌(頸部異形成を含む)	41
7	直腸癌・Rs	32
8	肝癌	27
9	食道癌	26
9	膵臓癌	26
10	膀胱癌	22

2015年 手術別 上位10

順位	手術名・内視鏡	件数	開腹	腹腔鏡
1	結腸切除術	50	10	40
2	乳房切除術(温存術 39 切除術 9)	48		
3	肺切除術(部分・区域・肺葉切除)	40	2	38
4	胃切除術(胃全摘 10・幽門側 25・部分切除 1)	36	20	16
5	直腸切除術(低位前方切除21 切断術 他6)	27	3	24
6	内視鏡の胃粘膜下層切除術(ESD)	24		
7	内視鏡の大腸粘膜切除術(EMR)	20		
8	子宮円錐切除術	19		
9	子宮全摘術(腹式・膣式)	17		
10	皮膚悪性腫瘍切除術	16		



【院内がん登録 まとめ】

院内がん登録数は、前年度と比較すると若干減少、前年度より退院患者数が減少したのが影響したと思われる。

部位別に見ると前年度と同様、肺癌が1位、2位結腸癌、3位胃癌、4位乳癌が上位を占めた。年次推移で変動があったのは、来院経路で他施設からの紹介が減少、初回治療は増加した。

治療に関しては、退院患者数が減少したものの手術件数や化学療法は増加となった。

今年度も院内がん登録システム **casefinder** を活用して最終チェックを行った。

今後も登録漏れがないように行っていきたい。

また、2016年の症例より全国がん登録が開始、院内がん登録は新標準登録様式にて運用が開始される。他施設からの治療情報などを入力するようになるので、カルテの記載内容が重要になってくる。がん登録システムも移転と同時に新しくなる。正確ながん登録の入力と迅速にデータ提出を行い調査等に対応できるように体制を整えていきたい。



病院建設推進室

1. スタッフ紹介（平成28年3月31日現在）

室長（事務副部長）	坂本 正策
係長	田中 利昌
主事	堤 多磨子
常勤嘱託職員	馬場 結子

2. この1年の動き

（1）工事について

平成26年7月に、掘削工事に着手し、平成28年2月の竣工に向けて建設工事が開始されたが、東北大震災の復興工事など、全国的な工事量の増大に伴い、その職人不足の影響を受け、約2月の工期延長が必要となり、工期を平成28年4月末とした。

その後、工事は順調に進み、平成27年10月に躯体工事を終え、併せて、内装仕上げ工事や電気設備工事、機械設備工事を進め、平成28年3月概成したところである。

4月には、設備関係の試運転調整をおこない、検査工程を経たのち、4月末の竣工を迎える予定である。

また、放射線防護機能付加工事も並行して進めていき、病院本体工事と同様に平成28年3月末にはほぼ完了している。

さらに、立体駐車場や横断歩道橋、外構工事は、平成27年10月に契約を行い、11月に着工し、平成28年3月にほぼ概成したところであり、4月末竣工の予定である。

○建物および床面積

	番号	用途	床面積
病院本館 建物	1	病院、コンビニ、院内保育	23,402.98 m ²
	2	病院（エネルギー棟）	999.98
	3	自動車車庫	168.80
	4	自転車駐車場	19.80
	5	その他（マニホール棟）	21.00
	6	受水槽ポンプ室	15.12
	7	R I 排水処理設備棟	48.82
	計		24,676.49
立体駐車場	1	立体駐車場	4,054.20
	2	自転車駐車場	22.00
	3	自転車駐車場	22.00
	計		4,098.20



（２）その他関連業務について

医療機器や什器、家電等については、順次、契約行為を進め、建物各所への納まり等について、電気設備工事や機械設備工事との調整を行いながら、搬入計画の検討を進めているところである。

また、選定された建物管理業者と、引き渡し後の建物管理についての協議も並行して進めている。

（３）解体工事について

開院後、現病院敷地は、本館等を解体した後、唐津市に返還することとなるが、敷地内の土壌汚染の状況について調査を開始した。

【院外協議】

○佐賀県の関係課と継続的に協議

医務課 ：原子力発電等緊急時医療施設との関係について
 ：放射線防護機能付加事業について

○唐津市の関係各所と継続的に協議実施

土地開発公社：造成工事、開発行為変更申請等について
まちづくり課：擁壁、法面保護等について
道路整備課 ：市道改良工事関係について
保健医療課 ：跡地利用について

【他施設視察】

- 佐賀県医療センター好生館
- 浜の町病院

【院内協議】

- 新病院建設準備委員会、建設委員会
- 建築設計・監理 …随時、各部門と協議



広報推進室

1. スタッフ紹介（平成 29 年 3 月 31 日現在）

室長 山口和夫（本務 事務副部長）

主事 大松万佐也（本務 総務課主事）

〃 福本望（本務 医事課主事）

〃 結城健（本務 経営企画情報課主事）

〃 川内かな子（本務 会計課主事）

2. この 1 年の歩み

平成 25 年 4 月 1 日に設置された「広報推進室」も 4 年目を迎えた。

主な業務としては、

① 院外広報誌「みらい」の継続的な発行

季刊誌として年 4 回発行した。新病院の情報をトピックスとして毎号に連載し、地域の方々に新病院の情報をお知らせすることができた。

② ホームページの全面リニューアル

新病院開院時にホームページのリニューアルを行い、採用情報のページを新たに作成した。また、診療実績など、データを最新情報に更新した。

③ 三施設合同広報委員会への参画

支部・血液センター・病院の三施設合同の広報委員会も軌道に乗り、委員会を毎月各施設持ち回りで開催した。

主な活動は、三施設合同のフェイスブックの運営、各施設が行うイベントに他施設も参加する合同イベントの開催、職員を対象とした「赤十字写真コンテスト」などを実施した。

④ 地域医療連携室との連携強化

地域医療連携誌「日赤からつ」と掲載内容や発行時期の調整を行い、連携医療機関には両広報誌を同封して発送するなど連携を強化した。

3. 今後の課題

- ・新病院の更なる広報。
- ・ホームページの内容充実。
- ・新病院開院後のイベントの検討。



11. 医療社会事業部医療社会事業課

1. スタッフ紹介（平成 28 年 3 月 31 日現在）

医療社会事業部長 酒井 正
 医療社会事業課長 入江 富美夫
 主事 林 三樹子
 危機管理顧問 多良 伸之

2. この一年の歩み

1) 委員会

患者サービス委員会 計 12 回開催

2) 糖尿病教室

平成 27 年度受講者数 141 名（第 1 期～第 4 期合計）

3) ボランティア

平成 27 年度 ボランティア受け入れ 1 名

4) スズラン贈呈式 平成 27 年 6 月 3 日

5) 健診・人間ドック

健診	人数	人間ドック	人数
船員生活習慣病予防健診	21 人	1 泊 2 日人間ドック	25 人
県職婦人がん検診	0 人	1 泊 2 日人間ドック＋脳ドック	48 人
事業所健診	10 人	日帰り人間ドック	92 人
被爆者定期健診	0 人	日帰り人間ドック＋脳ドック	35 人
被爆者がん健診	1 人	JR 日帰り人間ドック	7 人
被爆者二世健診	0 名	一日ドック	115 人
じん肺・石綿健診	24 人	脳ドック	23 人
合計	56 人	合計	345 人

6) 救護

・救護班任命式 平成 27 年 5 月 7 日

任命者 医 師 3 名
 看護師長 3 名
 看護師 6 名
 主 事 6 名

・常備救護班要員研修会

日 時 平成 27 年 9 月 26 日～27 日

会 場 佐賀県波戸岬少年自然の家

参加者

受講者

スタッフ

日本赤十字社佐賀県支部

1 名

5 名

佐賀県赤十字血液センター

4 名

1 名

唐津赤十字病院

19 名

9 名

計

24 名

15 名

合計 39 名



・平成 27 年度佐賀県原子力防災訓練 平成 27 年 11 月 28 日

緊急被ばく医療訓練及び内部被ばく検査訓練

《緊急被ばく訓練》

医療班（医師 2 名・放射線技師 2 名・看護師 3 名・主事 2 名）

本 部（救急科部長・事務部長・看護副部長）

医療社会事業課 2 名

指 導（放射線技師 3 名・看護師 1 名（兼医療班））

・平成 27 年度臨時救護員派遣

派遣先	派遣年月日	派遣員数	救護件数
第 112 回有田陶器市	平成 27 年 4 月 29 日	看護師 1 名	1 件
第 16 回虹の松原トライアスロン in 唐津	平成 27 年 6 月 21 日	運転手 1 名 救急車 1 台	0 件
第 63 回九州花火大会	平成 27 年 7 月 19 日	看護師 2 名	1 件
第 68 回記念松浦地区青年相撲大会	平成 27 年 9 月 6 日	看護師 1 名	4 件
第 51 回九州地方保護女性大会	平成 27 年 9 月 28 日 平成 26 年 9 月 29 日	看護師 1 名 看護師 1 名	0 件 0 件
第 69 回記念東西松浦駅伝大会	平成 28 年 1 月 31 日	看護師 1 名 運転手 1 名 救急車 1 台	0 件
第 56 回唐津 10 マイルロードレース大会	平成 28 年 2 月 14 日	看護師 1 名 運転手 1 名 救急車 1 台	3 件
第 28 回虹の松原カップ西日本選抜小学生クラブ駅伝競走大会	平成 28 年 3 月 27 日	看護師 1 名 運転手 1 名 救急車 1 台	0 件

・平成 27 年度救護訓練

派遣先	派遣年月日	派遣員数
平成 27 年度国土交通省水防訓練	平成 27 年 5 月 17 日	医師 1 名 看護師 3 名 主事 2 名 救急車 1 台
平成 27 年度九州八県支部合同災害救護訓練	平成 27 年 11 月 29 日 ～30 日	医師 1 名 看護師 3 名 主事 2 名 救急車 1 台



スズラン贈呈式 平成 27 年 6 月 3 日





救護班任命式 平成 27 年 5 月 7 日





国土交通省水防訓練 平成 27 年 5 月 17 日



平成 27 年度常備救護班要員研修会 H27. 9. 26～27 日



平成 27 年度常備救護班要員研修会 H27.9.26～27 日





平成 27 年度常備救護班要員研修会 H27.9.26～27 日





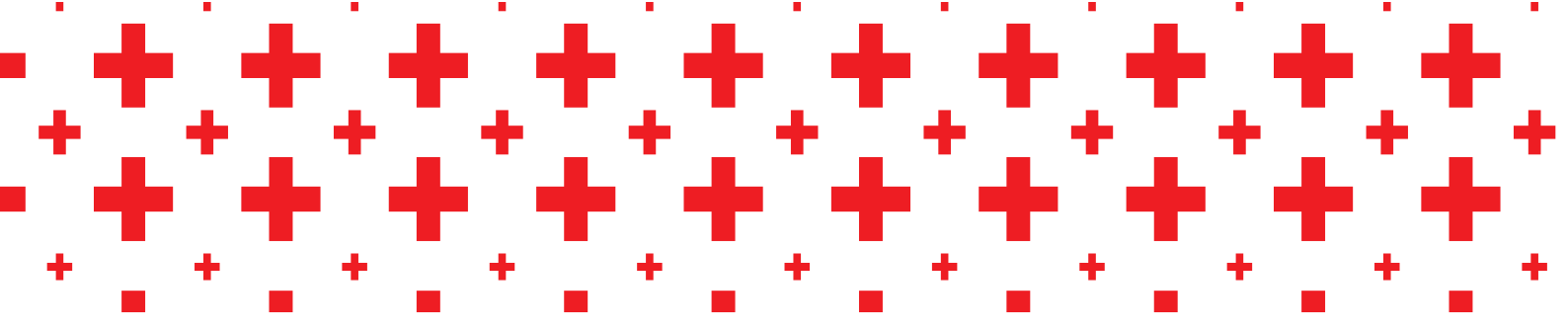
原子力防災訓練 平成 27 年 11 月 28 日





平成 27 年度九州八県支部合同災害救護訓練 平成 27 年 11 月 29 日～30 日





地域医療**支援**病院

地域**救命**救急センター

地域**がん**診療連携拠点病院

臨床研修病院(**基幹型**・協力型)

地域**災害**医療センター

二次**被ばく**医療機関

